令和6（2024）年度

# 大学院 経済学研究科

# 講 義 案 内

立正大学大学院

令和6（2024）年度　大学院経済学研究科　講義案内

立正大学大学院

| 講義コード | 12C0100101 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **環境学特論１** | | | | | 小林　隆史 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 環境問題を取り上げ，それらが生じる問題の要因を考察し，モデル化を検討する．これによって，課題に対する論理的な思考力を得ること，それを他者に効果的に伝える力を得ることを目的とする． | | | | | | |
| 到達目標 | 環境問題における要因について論理的に考察できるようになる．自身で選んだテーマにおけるモデルを発表できるようになる． | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 60時間以上の授業外学修を行うことが必要である．授業で利用する参考書を事前に読むことが重要である．また，自身にとって興味のある課題を選定するために，社会のニュース等に目を向け，適宜紹介される論文を読むこと． | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス<br>【第２回】環境問題とモデル化<br>【第３回】テキスト輪読・発表<br>【第４回】テキスト輪読・発表<br>【第５回】テキスト輪読・発表<br>【第６回】テキスト輪読・発表<br>【第７回】テキスト輪読・発表<br>【第８回】レポートテーマ発表<br>【第９回】論文の分析手法・結果の解説<br>【第10回】論文の分析手法・結果の解説<br>【第11回】論文の分析手法・結果の解説<br>【第12回】レポート発表とディスカッション<br>【第13回】レポート発表とディスカッション<br>【第14回】レポート発表とディスカッション<br>【第15回】まとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業内での発表（30%）と，取り組み姿勢（30%），レポート等の課題（40%）で評価する。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 発表時へのコメント，及び，レポート，レジュメについてコメントする． | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | 『スマートモビリティ時代の地域とクルマ：社会工学アプローチによる課題解決』大澤 義明（編集，著），他（学芸出版社）2023、『都市モデル読本』栗田 治（著），古山 正雄（監修）（共立出版）2004、『巨大地震による複合災害－発生メカニズム・被害・都市や地域の復』八木 勇治・大澤 義明（編集，著），他（学芸出版社）2015、『思考の方法学』栗田 治（講談社）2023 | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | テキストは受講生の興味，関心によって設定する．参考文献については，授業中に説明する． | | | | | | |
| オフィスアワー | 質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて，対面及びTeamsのビデオ通話等にて受付ける．また，Teamsの所定の箇所に質問・相談の投稿があれば，オフィスアワーにて返信を行う． | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 「プレゼンテーション」・「グループディスカッション」について，授業内で「教員からのフィードバックによる振り返り」を実施する． | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0100201 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **環境学特論２** | | | | | 小林　隆史 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 環境問題を取り上げ，それらが生じる問題の要因を考察し，モデル化する．また，そのモデルについてデータによる実証分析を試みる．これによって，課題に対する論理的な思考力を得ること，それを他者に効果的に伝える力を得ること，データの扱い方を目的とする． | | | | | | |
| 到達目標 | 環境問題における要因について論理的に考察できるようになる．自身で選んだテーマにおけるモデルにおいて，データを用いた実証分析を行えるようになる． | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 60時間以上の授業外学修を行うことが必要である．授業で利用する参考書を事前に読むことが重要である．また，自身にとって興味のある課題を選定するために，社会のニュース等に目を向け，適宜紹介される論文を読むこと．データによる実証分析において相応の分析時間を確保すること． | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス<br>【第２回】環境問題とモデルの実証分析<br>【第３回】テーマ発表・ディスカッション<br>【第４回】テーマ発表・ディスカッション<br>【第５回】データ分析手法の紹介と実習（GIS）<br>【第６回】データ分析手法の紹介と実習（フィッティング）<br>【第７回】データ分析手法の紹介と実習（多変量解析）<br>【第８回】一次発表とディスカッション<br>【第９回】一次発表とディスカッション<br>【第10回】論文の分析手法・結果の解説<br>【第11回】論文の分析手法・結果の解説<br>【第12回】論文の分析手法・結果の解説<br>【第13回】二次発表とディスカッション<br>【第14回】二次発表とディスカッション<br>【第15回】まとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業内での発表（30%）と，取り組み姿勢（30%），レポート等の課題（40%）で評価する． | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 発表時へのコメント，及び，レポート，レジュメについてコメントする． | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | 『スマートモビリティ時代の地域とクルマ：社会工学アプローチによる課題解決』大澤 義明（編集，著），他（学芸出版社）2023、『都市モデル読本』栗田 治（著），古山 正雄（監修）（共立出版）2004、『巨大地震による複合災害－発生メカニズム・被害・都市や地域の復』八木 勇治・大澤 義明（編集，著），他（学芸出版社）2015、『思考の方法学』栗田 治（講談社）2023 | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | テキストは受講生の興味，関心によって設定する．参考文献については，授業中に説明する． | | | | | | |
| オフィスアワー | 質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて，対面及びTeamsのビデオ通話等にて受付ける．また，Teamsの所定の箇所に質問・相談の投稿があれば，オフィスアワーにて返信を行う． | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 「プレゼンテーション」・「グループディスカッション」について，授業内で「教員からのフィードバックによる振り返り」を実施する． | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0100901 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **環境政策特論１** | | | | | 吉田　友美 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | 一般的に，外部不経済により環境問題は深刻化するので，市場に対する政府の介入（環境政策の実施）が必要になる．本講義では，環境問題が発生するメカニズム，外部不経済の是正のための環境政策の理論，環境政策の具体的事例，外部性の内部化の手段としての環境評価手法等について学ぶ．<br>なお，本講義は博士後期課程の「環境政策特研１」との合同授業である． |
| 到達目標 | （１）環境問題が発生するメカニズムについて，経済理論を用いて説明できるようになる．<br>（２）それぞれの環境政策について説明できるようになる．<br>（３）環境評価手法について説明できるようになる． |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | この科目では，60時間以上の授業外学修を行うこと．基本的に輪読の形式をとるので，報告者は事前に教科書を要約しプレゼン資料を作成のうえ，講義中にプレゼンを行うこと．加えて，プレゼン内容について復習も行うこと． |
| 授業計画 | 【第１回】Introduction<br>【第２回】The Economic Approach: Property Rights, Externalities, and Environmental Problems １<br>【第３回】The Economic Approach: Property Rights, Externalities, and Environmental Problems ２<br>【第４回】Evaluating Trade-Offs: Benefit-Cost Analysis and Other Decision-Making Metrics １<br>【第５回】Evaluating Trade-Offs: Benefit-Cost Analysis and Other Decision-Making Metrics ２<br>【第６回】Valuing the Environment Methods １<br>【第７回】Valuing the Environment Methods ２<br>【第８回】Valuing the Environment Methods ３<br>【第９回】Dynamic Efficiency and Sustainable Development １<br>【第10回】Dynamic Efficiency and Sustainable Development ２<br>【第11回】Depletable Resource Allocation: The Role of Longer Time Horizons, Substitutes, and Extraction Cost １<br>【第12回】Depletable Resource Allocation: The Role of Longer Time Horizons, Substitutes, and Extraction Cost ２<br>【第13回】Energy: The Transition from Depletable to Renewable Resources １<br>【第14回】Energy: The Transition from Depletable to Renewable Resources ２<br>【第15回】Summery |
| 成績評価の方法 | プレゼン資料：40%，<br>プレゼン内容：60% |
| フィードバックの内容 | 講義後，講評を実施． |
| 教科書 | 『Environmental and Natural Resource Economics』Thomas H. Tietenberg, Lynne Lewis（Routledge）2018年 |
| 指定図書 | 『Environmental and Natural Resource Economics』Thomas H. Tietenberg, Lynne Lewis（Routledge）2018年 |
| 参考書 | 『Environmental Economics』Charles D. Kolstad（Oxford Univ Pr）2010年 |
| 教員からのお知らせ | |
| オフィスアワー | 毎週，木曜日５限<br>ただし，必ず事前にメールでアポイントメントをとること．<br>メールアドレスは授業中に指示します． |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 課題の講評を実施． |
| その他 | |

| 講義コード | 12C0101001 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **環境政策特論２** | | | | | 吉田　友美 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 一般的に，外部不経済により環境問題は深刻化するので，市場に対する政府の介入（環境政策の実施）が必要になる．本講義では，環境問題が発生するメカニズム，外部不経済の是正のための環境政策の理論，環境政策の具体的事例，外部性の内部化の手段としての環境評価手法等について学ぶ．<br>なお，本講義は博士後期課程の「環境政策特研２」との合同授業である． | | | | | | |
| 到達目標 | （１）環境問題が発生するメカニズムについて，経済理論を用いて説明できるようになる．<br>（２）それぞれの環境政策について説明できるようになる．<br>（３）環境評価手法について説明できるようになる． | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | この科目では，60時間以上の授業外学修を行うこと．基本的に輪読の形式をとるので，報告者は事前に教科書を要約しプレゼン資料を作成のうえ，講義中にプレゼンを行うこと．加えて，プレゼン内容について復習も行うこと． | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】Introduction<br>【第２回】Recyclable Resources: Minerals, Paper, Bottles, and E-Waste 1<br>【第３回】Recyclable Resources: Minerals, Paper, Bottles, and E-Waste 2<br>【第４回】Water: A confluence of Renewable and Depletable Resources 1<br>【第５回】Water: A confluence of Renewable and Depletable Resources 2<br>【第６回】Water: A confluence of Renewable and Depletable Resources 3<br>【第７回】A Locationally Fixed, Multipurpose Resource: Land 1<br>【第８回】A Locationally Fixed, Multipurpose Resource: Land 2<br>【第９回】A Locationally Fixed, Multipurpose Resource: Land 3<br>【第10回】Storable, Renewable Resources: Forests 1<br>【第11回】Storable, Renewable Resources: Forests 2<br>【第12回】Storable, Renewable Resources: Forests 3<br>【第13回】Common-Pool Resources: Commercially Valuable Fisheries 1<br>【第14回】Common-Pool Resources: Commercially Valuable Fisheries 2<br>【第15回】Summery | | | | | | |
| 成績評価の方法 | プレゼン資料：40%，<br>プレゼン内容：60% | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 講義後，講評を実施． | | | | | | |
| 教科書 | 『Environmental and Natural Resource Economics』Thomas H. Tietenberg, Lynne Lewis（Routledge）2018年 | | | | | | |
| 指定図書 | 『Environmental and Natural Resource Economics』Thomas H. Tietenberg, Lynne Lewis（Routledge）2018年 | | | | | | |
| 参考書 | 『Environmental Economics』Charles D. Kolstad（Oxford Univ Pr）2010年 | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 毎週，木曜日５限<br>ただし，必ず事前にメールでアポイントメントをとること．<br>メールアドレスは授業中に指示します． | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 課題の講評を実施 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0101301 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **国際環境特論１** | | | | | 佐伯　順子 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | 地球上で現在発生している、生物多様性や生態系機能の低下、水資源不足、地球温暖化、資源枯渇などの様々な環境問題の現状、そしてその発生機構および講じられている緩和・適応策について学びます。そして、これらの環境問題を取り巻く政策、経済活動について学び、課題解決に向けて今後の対策について議論し、理解を深めます。なお、本講義は博士後期課程の「国際環境特研１」との合同授業です。 |
| 到達目標 | この講義を通じて、様々な環境問題の深刻さとその発生メカニズムと相互作用を理解できるようになる。そして、現在講じられている対策について、社会がどのように取り組んでいて、課題がどこに残っているのかを認識し、今後人類が種々の環境問題に対してどのように取り組むべきか、議論できるようになる。 |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 授業で紹介する環境問題の中から、一つ選択し、その問題と講じられている対策について調査します。調査した内容をレポートにまとめ、授業で発表できるように準備します。調査では、特にその対策の効果と課題に着目し、今後どのように対応していくべきかの提案をします。(計60時間) |
| 授業計画 | 【第１回】地球上で起こっている環境問題の概要<br>【第２回】人間活動と環境問題と環境問題の歴史<br>【第３回】国際的な枠組み<br>【第４回】地球温暖化（１）メカニズムと現象、研究<br>【第５回】地球温暖化（２）政策的な取組<br>【第６回】地球温暖化（３）地球温暖化問題とエネルギー資源<br>【第７回】地球温暖化（４）対策（省エネ、技術開発)、適応策と緩和策<br>【第８回】地球温暖化（５）企業の取組<br>【第９回】環境汚染（１）大気汚染<br>【第10回】環境汚染（２）土壌汚染、水質汚濁（富栄養化)、残留農薬<br>【第11回】水資源（１）水の需要と供給<br>【第12回】水資源（２）環境への影響<br>【第13回】水資源（３）水マネジメント<br>【第14回】プレゼンテーション<br>【第15回】まとめ |
| 成績評価の方法 | 授業への取組姿勢（40%)、レポート（20%)、プレゼンテーション（40%） |
| フィードバックの内容 | |
| 教科書 | |
| 指定図書 | |
| 参考書 | 『生態リスク学入門 - 予防的順応的管理 -』松田裕之（共立出版）2008、『地球の論点 —— 現実的な環境主義者のマニフェスト 地球の論点 —— 現実的な環境主義者のマニフェスト』スチュアート（英治出版）2011、『現代の化学環境学　環境の理解と改善のために』御園生 誠（裳華房）2017、『図解 環境バイオテクノロジー入門』軽部 征夫（日刊工業新聞社）2012、『グラフィック環境経済学』浅子 和美（新世社）2015、『資源の循環利用とはなにか——バッズをグッズに変える新しい経済システム』細田 衛士（岩波書店）2015、『沈黙の春』レイチェル カーソン（新潮文庫）1974、『GEO － 5 地球環境概観第５次報告書－私達が望む未来の環境〈上〉』国連環境計画（環境報告研）2015、『持続可能な社会のための環境論・環境政策論』白井 信雄（大学教育出版）2020、『資源と環境の経済学－ケーススタディで学ぶ』馬奈木 俊介（昭和堂）2012 |
| 教員からのお知らせ | |
| オフィスアワー | 非常勤）本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。 |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 意見共有、能動的な授業外学習など |
| その他 | 各授業内では、授業に関する事柄についての意見共有を促進しています。意見や疑問があれば、随時挙手により意見を表明し、ディスカッションを深めます。<br>プレゼンテーションの課題の際には、各自図書館やインターネットなどで課題に応じて調査し、プレゼンテーションにて調査結果を共有してもらいます。プレゼンテーション後には、教員からフィードバックと問題提起をし、クラス全体でディスカッションを行います。<br>期のまとめとして、全授業内容を最後にまとめてレポートの課題に反映させます。 |

| 講義コード | 12C0101401 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 国際環境特論２ | | | | | 佐伯　順子 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | 地球上で現在発生している、生物多様性や生態系機能の低下、水資源不足、地球温暖化、資源枯渇などの様々な環境問題の現状、そしてその発生機構および講じられている緩和・適応策について学びます。そして、これらの環境問題を取り巻く政策、経済活動について学び、課題解決に向けて今後の対策について議論し、理解を深めます。<br>なお、本講義は博士後期課程の「国際環境特研２」との合同授業です。 |
| 到達目標 | この講義を通じて、様々な環境問題の深刻さとその発生メカニズムと相互作用を理解できるようになる。そして、現在講じられている対策について、社会がどのように取り組んでいて、課題がどこに残っているのかを認識し、今後人類が種々の環境問題に対してどのように取り組むべきか、議論できるようになる。 |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 企業の環境経営を調査し、関心のある１企業をピックアップします。その企業の環境に対する取り組みを深堀して調査し、授業で紹介します。またその調査内容をレポートにまとめます。(計60時間) |
| 授業計画 | 【第１回】生態系環境（１）生物を取り巻く環境<br>【第２回】生態系環境（２）生物多様性のメカニズムと重要性<br>【第３回】生態系環境（３）生態系のメカニズム<br>【第４回】生態系環境（４）海の生態系<br>【第５回】生態系環境（５）生物資源（バイオマス）の利用と環境保全<br>【第６回】生態系環境（６）外来種<br>【第７回】資源循環（１）プラスチック問題<br>【第８回】資源循環（２）資源枯渇<br>【第９回】資源循環（３）廃棄物問題<br>【第10回】資源循環（４）リサイクル<br>【第11回】環境経営（１）企業の取組事例<br>【第12回】環境経営（２）環境への影響の評価方法<br>【第13回】環境経営（３）企業に求められる努力<br>【第14回】プレゼンテーション<br>【第15回】まとめ |
| 成績評価の方法 | 授業への取組姿勢（40%）、レポート（20%）、プレゼンテーション（40%） |
| フィードバックの内容 | |
| 教科書 | |
| 指定図書 | |
| 参考書 | 『生態リスク学入門 - 予防的順応的管理 -』松田裕之（共立出版）2008、『地球の論点 —— 現実的な環境主義者のマニフェスト 地球の論点 —— 現実的な環境主義者のマニフェスト』スチュアート（英治出版）2011、『現代の化学環境学　環境の理解と改善のために』御園生 誠（裳華房）2017、『図解 環境バイオテクノロジー入門』軽部 征夫（日刊工業新聞社）2012、『グラフィック環境経済学』浅子 和美（新世社）2015、『資源の循環利用とはなにか——バッズをグッズに変える新しい経済システム』細田 衛士（岩波書店）2015、『沈黙の春』レイチェル カーソン（新潮文庫）1974、『GEO － 5 地球環境概観第５次報告書－私達が望む未来の環境〈上〉』国連環境計画（環境報告研）2015、『持続可能な社会のための環境論・環境政策論』白井 信雄（大学教育出版）2020、『資源と環境の経済学－ケーススタディで学ぶ』馬奈木 俊介（昭和堂）2012 |
| 教員からのお知らせ | |
| オフィスアワー | 非常勤）本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。 |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 各授業内では、授業に関する事柄についての意見共有を促進しています。意見や疑問があれば、随時挙手により意見を表明し、ディスカッションを深めます。<br>プレゼンテーションの課題の際には、各自図書館やインターネットなどで課題に応じて調査し、プレゼンテーションにて調査結果を共有してもらいます。プレゼンテーション後には、教員からフィードバックと問題提起をし、クラス全体でディスカッションを行います。<br>期のまとめとして、全授業内容を最後にまとめてレポートの課題に反映させます。 |
| その他 | |

| 講義コード | 12C0101901 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **地域農業環境特論３** | | | | | 北原　克宣 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本講義では、現代資本主義下における農業・食料・環境問題に関する先行研究を学ぶことを通じて、この分野の研究の到達点と課題について学ぶことを目的とする。<br>※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。 | | | | | | |
| 到達目標 | 本講義の目標は、研究の方法および農業・食料・環境問題に関する分野の研究の到達点と残された課題について理解し、これらの知識を用いて論文（とりわけ修士論文）が執筆できるようになることである。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | ①当該分野の研究書・学術論文を読んでおくこと（毎日１時間）<br>②テキストは事前に必ず目を通し、疑問点・論点についてあらかじめチェックしておくこと。（１週間のうち１時間以上）<br>計60時間以上の授業外学修が必要である。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】講義の進め方について<br>【第２回】論文①に関する報告・討論<br>【第３回】論文②に関する報告・討論<br>【第４回】論文③に関する報告・討論<br>【第５回】論文④に関する報告・討論<br>【第６回】論文⑤に関する報告・討論<br>【第７回】論文⑥に関する報告・討論<br>【第８回】論文⑦に関する報告・討論<br>【第９回】論文⑧に関する報告・討論<br>【第10回】論文⑨に関する報告・討論<br>【第11回】論文⑩に関する報告・討論<br>【第12回】論文⑪に関する報告・討論<br>【第13回】論文⑫に関する報告・討論<br>【第14回】農業・食料・環境問題に関する研究の動向<br>【第15回】農業・食料・環境問題に関する研究の動向 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 発表の内容・回数（50%）、発言の内容・回数（50%） | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 発表に対するコメントを授業内で行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は随時受け付けます。講義の際にお知らせするアドレスに、ご連絡ください。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | プレゼンテーション、ディスカッション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0102001 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **地域農業環境特論４** | | | | | 北原　克宣 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本講義では、現代資本主義下における農業・食料・環境問題に関する先行研究を学ぶことを通じて、この分野の研究の到達点と課題について学ぶことを目的とする。<br>※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。 | | | | | | |
| 到達目標 | 本講義の目標は、研究の方法および農業・食料・環境問題に関する分野の研究の到達点と残された課題について理解し、これらの知識を用いて論文（とりわけ修士論文）が執筆できるようになることである。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | ①当該分野の研究書・学術論文を読んでおくこと（毎日１時間）<br>②テキストは事前に必ず目を通し、疑問点・論点についてあらかじめチェックしておくこと。（１週間のうち１時間以上）<br>計60時間以上の授業外学修が必要である。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】講義の進め方について<br>【第２回】論文⑬に関する報告・討論<br>【第３回】論文⑭に関する報告・討論<br>【第４回】論文⑮に関する報告・討論<br>【第５回】論文⑯に関する報告・討論<br>【第６回】論文⑰に関する報告・討論<br>【第７回】論文⑱に関する報告・討論<br>【第８回】論文⑲に関する報告・討論<br>【第９回】論文⑳に関する報告・討論<br>【第10回】研究発表・討論<br>【第11回】研究発表・討論<br>【第12回】研究発表・討論<br>【第13回】研究発表・討論<br>【第14回】研究発表・討論<br>【第15回】農業・食料・環境問題の現代的課題 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 発表の内容・回数（50%）、発言の内容・回数（50%） | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 発表に対するコメントを授業内にて行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は随時受け付けます。講義の際にお知らせするアドレスに、ご連絡ください。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | プレゼンテーション、ディスカッション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0102101 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **都市環境特論１** | | | | | 櫻井　一宏 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本講義では，都市と環境のモデル化を念頭に置いて，都市経済活動や環境問題など都市・地域に関する定量的分析手法を学ぶ．都市とは何か，どのように発展してきたのか，近代以降の都市の捉え方，考え方を概観し，どのように評価できるかを検討する．実際の都市問題による都市環境への影響や，それらへの対策としての都市政策を振り返り，定量的な分析を試みる．都市・地域に関するさまざまなデータを用いた分析手法を学ぶ． | | | | | | |
| 到達目標 | 今日的な都市とはどのようなものか，データを用いたさまざまな見方による分析を学び，定量的な考え方やデータ分析を用いた考察ができる．都市問題や都市環境政策について学び，モデル分析を応用することにより，都市や地域を定量的に見ることができ，政策立案につながる分析を具体的に行うことができる． | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 授業時に作成したノートをもとにして，当該内容についての確認および理解を深めるための復習を必要とする．また，参考資料やインターネット等を用いて関連する内容についての自主学習を行うことを推奨する．以上の復習および自主学習のために計60時間以上の授業外学修を実施すること．適宜，授業内容に沿って関連する課題を与える場合がある． | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】イントロダクション<br>【第２回】環境の捉え方<br>【第３回】都市と環境<br>【第４回】都市の発展<br>【第５回】都市の要件<br>【第６回】都市モデル<br>【第７回】都市論<br>【第８回】都市問題と都市計画（１）<br>【第９回】都市問題と都市計画（２）<br>【第10回】都市・地域のデータ化<br>【第11回】データによる分析（１）<br>【第12回】データによる分析（２）<br>【第13回】都市・地域分析事例（１）<br>【第14回】都市・地域分析事例（２）<br>【第15回】まとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 原則として期末試験（100％）で評価する．課題提出･小テスト等を実施した場合は５％の配点とし，期末試験を残り95％の配点とする．ただし，授業および試験時の態度等に問題があった場合は成績評価対象外とすることがある． | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 課題や小テストに関する内容等について講評，解説を行う． | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | 『都市計画の世界史』日端康雄（講談社）2008 | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 参考資料等は適宜指示する． | | | | | | |
| オフィスアワー | 本講義に関する質問・相談は，原則として学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける． | | | | | | |
| アクティブ･ラーニングの内容 | 授業中に簡単な確認テスト等を実施し，その結果のフィードバック・振り返りを行う． | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0102201 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **都市環境特論２** | | | | | 櫻井　一宏 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本講義では，都市と環境の関係をモデル化し，都市経済活動による環境への影響を定量的に分析することを目的とする．環境問題のメカニズムを理解し，都市の経済活動とそれらから発生する環境負荷物質をデータによって表すことで，環境的な影響を定量的に分析する．実際の環境問題や環境政策について学び，定量的な考え方がどのように活かされているかを考察する． | | | | | | |
| 到達目標 | 都市と環境を定量的に捉え，環境問題のメカニズムを理解することができる．都市と環境のデータ分析を行い，経済活動による環境影響，さらには環境政策の政策効果などについて定量的な見方で考察することができる．また，モデル分析を参考にして，実際の環境政策の評価を行い，望ましい政策について検討することができる． | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 授業時に作成したノートをもとにして，当該内容についての確認および理解を深めるための復習を必要とする．また，参考資料やインターネット等を用いて関連する内容についての自主学習を行うことを推奨する．以上の復習および自主学習のために計60時間以上の授業外学修を実施すること．適宜，授業内容に沿って関連する課題を与える場合がある． | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】イントロダクション<br>【第２回】都市空間と都市環境<br>【第３回】モデル分析とは<br>【第４回】産業立地<br>【第５回】都市・地域モデル<br>【第６回】都市・地域の経済活動<br>【第７回】都市と環境<br>【第８回】環境問題と定量的評価<br>【第９回】都市と環境のシステムモデル（１）<br>【第10回】都市と環境のシステムモデル（２）<br>【第11回】経済指標<br>【第12回】環境指標<br>【第12回】実際の環境問題<br>【第13回】環境政策とは<br>【第14回】環境政策の実際<br>【第15回】まとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 原則として期末試験（100％）で評価する．課題提出･小テスト等を実施した場合は５％の配点とし，期末試験を残り95％の配点とする．ただし，授業および試験時の態度等に問題があった場合は成績評価対象外とすることがある． | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 課題や小テストに関する内容等について講評，解説を行う． | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | 『河川汚濁のモデル解析』国松孝男・村岡浩爾（技報堂出版）1989、『ノンポイント汚染源のモデル解析』和田安彦（技報堂出版）1990 | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 参考資料等は適宜指示する． | | | | | | |
| オフィスアワー | 本講義に関する質問・相談は，原則として学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける． | | | | | | |
| アクティブ･ラーニングの内容 | 授業中に簡単な確認テスト等を実施し，その結果のフィードバック・振り返りを行う． | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0102501 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | マルクス経済学特論１ | | | | | 中村　宗之 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | 未来社会に関するK.マルクスや他の論者の構想を検討する。必要に応じてマルクス経済学の基本的内容を確認する。<br>なお、本講義は博士後期課程「マルクス経済学特研１」との合同授業である。 |
| 到達目標 | 「マルクス経済学特論１」の到達目標:<br>未来社会に関するK.マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。<br>「マルクス経済学特研１」の到達目標:<br>未来社会に関するK.マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。未来社会について各自の考えに基づき論じることができる。 |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 「マルクス経済学特論１」の授業外学修内容・授業外学修時間数:<br>授業内容の予習や復習を行う。60時間以上の授業外学修を行う。<br>「マルクス経済学特研１」の授業外学修内容・授業外学修時間数:<br>授業内容の予習や復習を行う。考えをまとめるために、文章を書く。60時間以上の授業外学修を行う。 |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス<br>【第２回】教科書の検討と議論（１）<br>【第３回】教科書の検討と議論（２）<br>【第４回】教科書の検討と議論（３）<br>【第５回】教科書の検討と議論（４）<br>【第６回】教科書の検討と議論（５）<br>【第７回】教科書の検討と議論（６）<br>【第８回】教科書の検討と議論（７）<br>【第９回】教科書の検討と議論（８）<br>【第10回】教科書の検討と議論（９）<br>【第11回】教科書の検討と議論（10）<br>【第12回】参加者による報告（１）<br>【第13回】参加者による報告（２）<br>【第14回】参加者による報告（３）<br>【第15回】まとめ |
| 成績評価の方法 | 「マルクス経済学特論１」: 授業への取り組み姿勢（50%）、報告および提出レポートの内容（50%）により評価する。<br>「マルクス経済学特研１」: 授業への取り組み姿勢（50%）、報告および提出論文の内容（50%）により評価する。 |
| フィードバックの内容 | 報告内容等に対するフィードバックは、その都度行う。 |
| 教科書 | |
| 指定図書 | |
| 参考書 | 『アナーキー・国家・ユートピア』ロバート・ノージック（木鐸社）1995年、『民主主義と政治的無知』イリヤ・ソミン（信山社）2016年、『離脱・発言・忠誠』A. O. ハーシュマン（ミネルヴァ書房）2005年、『世界の多様性』エマニュエル・トッド（藤原書店）2008年、『完訳 統治二論（岩波文庫）』ジョン・ロック（岩波書店）2010年、『国家と革命（講談社学術文庫）』レーニン（講談社）2011年、『国家民営化論』笠井潔（光文社）2000年、『これからの社会主義 －市場社会主義の可能性』ジョン・ローマー（青木書店）1997年、『資本主義経済の理論』伊藤誠（岩波書店）1989年、『現代の社会主義（講談社学術文庫）』伊藤誠（講談社）1992年 |
| 教員からのお知らせ | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams 等でも受け付けます。 |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、プレゼンテーション |
| その他 | |

| 講義コード | 12C0102601 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | マルクス経済学特論２ | | | | | 中村　宗之 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | 未来社会に関するK.マルクスや他の論者の構想を検討する。必要に応じてマルクス経済学の基本的内容を確認する。<br>なお、本講義は博士後期課程「マルクス経済学特研２」との合同授業である。 |
| 到達目標 | 「マルクス経済学特論２」の到達目標:<br>未来社会に関するK.マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。<br>「マルクス経済学特研２」の到達目標:<br>未来社会に関するK.マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。未来社会について各自の考えに基づき論じることができる。 |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 「マルクス経済学特論２」の授業外学修内容・授業外学修時間数:<br>授業内容の予習や復習を行う。60時間以上の授業外学修を行う。60時間以上の授業外学修を行う。<br>「マルクス経済学特研２」の授業外学修内容・授業外学修時間数:<br>授業内容の予習や復習を行う。考えをまとめるために、文章を書く。60時間以上の授業外学修を行う。 |
| 授業計画 | 【第１回】教科書の検討と議論（１）<br>【第２回】教科書の検討と議論（２）<br>【第３回】教科書の検討と議論（３）<br>【第４回】教科書の検討と議論（４）<br>【第５回】教科書の検討と議論（５）<br>【第６回】教科書の検討と議論（６）<br>【第７回】教科書の検討と議論（７）<br>【第８回】教科書の検討と議論（８）<br>【第９回】教科書の検討と議論（９）<br>【第10回】教科書の検討と議論（10）<br>【第11回】教科書の検討と議論（11）<br>【第12回】参加者による報告（１）<br>【第13回】参加者による報告（２）<br>【第14回】参加者による報告（３）<br>【第15回】まとめ |
| 成績評価の方法 | 「マルクス経済学特論２」: 授業への取り組み姿勢（50%）、報告および提出レポートの内容（50%）により評価する。<br>「マルクス経済学特研２」: 授業への取り組み姿勢（50%）、報告および提出論文の内容（50%）により評価する。 |
| フィードバックの内容 | 報告内容等に対するフィードバックは、その都度行う。 |
| 教科書 | |
| 指定図書 | |
| 参考書 | 『アナーキー・国家・ユートピア』ロバート・ノージック（木鐸社）2014年、『民主主義と政治的無知』イリヤ・ソミン（信山社）2016年、『離脱・発言・忠誠』A. O. ハーシュマン（ミネルヴァ書房）2005年、『世界の多様性』エマニュエル・トッド（藤原書店）2008年、『完訳　統治二論（岩波文庫）』ジョン・ロック（岩波書店）2010年、『国家と革命（講談社学術文庫）』レーニン（講談社）2011年、『国家民営化論』笠井潔（光文社）2000年、『これからの社会主義 －市場社会主義の可能性』ジョン・ローマー（青木書店）1997年、『資本主義経済の理論』伊藤誠（岩波書店）1989年、『現代の社会主義（講談社学術文庫）』伊藤誠（講談社）1992年 |
| 教員からのお知らせ | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams 等でも受け付けます。 |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、プレゼンテーション |
| その他 | |

| 講義コード | 12C0102901 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **マクロ経済学特論１** | | | | | 王　ゼイ | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | この授業は大学院初級レベルのマクロ経済学について講義する。主に現代マクロ経済学の基本的な考え方、代表的な動学マクロ経済モデルについて学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | この授業では、以下の３点を到達目標とする。<br>①現代マクロ経済学の基本的な考え方を理解すること。<br>②代表的な動学マクロ経済モデルを習得すること。<br>③簡単なマクロ経済モデルのシミュレーションができること。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | この科目では、授業時間外に、60時間以上の学修を行うことを必須とする。配布された講義資料と指定された参考書を参照しながら理解を深めて、各回の授業内容をしっかり予習・復習することは望ましい。なお、課題を出すことがあるので、必ず自分で考えて自力で解くようにしてください。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】現代マクロ経済学の基本的な考え方（１）<br>【第２回】現代マクロ経済学の基本的な考え方（２）<br>【第３回】数学準備（１）<br>【第４回】数学準備（２）<br>【第５回】数学準備（３）<br>【第６回】ソローモデル（１）<br>【第７回】ソローモデル（２）<br>【第８回】ソローモデル（３）<br>【第９回】ラムゼーモデル（１）<br>【第10回】ラムゼーモデル（２）<br>【第11回】ラムゼーモデル（３）<br>【第12回】世帯重複モデル（１）<br>【第13回】世帯重複モデル（２）<br>【第14回】世帯重複モデル（３）<br>【第15回】復習とまとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 小テスト（40%）と期末試験（60%）で評価する。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | この科目では、授業連絡用の Microsoft チームが立ち上げられ、履修者全員にチームに参加していただくことになっている。チームの参加方法は初回の授業時に説明する。事前に Microsoft Outlook と Teams のアプリを所持の端末にインストールしておいて、使用できるような状態にしてください。授業時間外では、授業に関するお知らせ、資料配布、フィードバック等はすべて Microsoft Teams を通じて行われる。課題の提出は WebClass を利用する。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | この科目は第２期の「マクロ経済学特論２」と合わせて履修することが望ましい。この科目では特定の教科書は使用せず、講義資料を配布し、その内容に沿ってパワーポイントと板書により、解説を行う。また、この科目の履修にあたって、ミクロ･マクロ経済学と経済数学関係の科目が履修済みであることは望ましい。質問･議論は大歓迎である。必要に応じて、ノートパソコンを持参していただくことがある。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。そのほかの時間帯に関しては、大学から付与された学籍番号付きの Microsoft 365のメールアドレスで予め教員と連絡してアポを取ってください。 | | | | | | |
| アクティブ･ラーニングの内容 | 授業中、教員よりの意見共有や学生から意見発表を行ってもらい、問題の演習も行う。 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0103001 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **マクロ経済学特論２** | | | | | 王　ゼイ | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | この授業は大学院初級レベルのマクロ経済学について講義する。主に現代マクロ経済学の基本的な考え方、代表的な動学マクロ経済モデルについて学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | この授業では、以下の３点を到達目標とする。<br>①現代マクロ経済学の基本的な考え方を理解すること。<br>②代表的な動学マクロ経済モデルを習得すること。<br>③簡単なマクロ経済モデルのシミュレーションができること。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | この科目では、授業時間外に、60時間以上の学修を行うことを必須とする。配布された講義資料と指定された参考書を参照しながら理解を深めて、各回の授業内容をしっかり予習・復習することは望ましい。なお、課題を出すことがあるので、必ず自分で考えて自力で解くようにしてください。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】リアルビジネスサイクルモデル（１）<br>【第２回】リアルビジネスサイクルモデル（２）<br>【第３回】リアルビジネスサイクルモデル（３）<br>【第４回】リアルビジネスサイクルモデル（４）<br>【第５回】ニューケインジアンモデル（１）<br>【第６回】ニューケインジアンモデル（２）<br>【第７回】ニューケインジアンモデル（３）<br>【第８回】ニューケインジアンモデル（４）<br>【第９回】失業のサーチ＆マッチングモデル（１）<br>【第10回】失業のサーチ＆マッチングモデル（２）<br>【第11回】失業のサーチ＆マッチングモデル（３）<br>【第12回】動学マクロ経済モデルの数値シミュレーション（１）<br>【第13回】動学マクロ経済モデルの数値シミュレーション（２）<br>【第14回】動学マクロ経済モデルの数値シミュレーション（３）<br>【第15回】復習とまとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 小テスト（40%）と期末試験（60%）で評価する。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | この科目では、授業連絡用の Microsoft チームが立ち上げられ、履修者全員にチームに参加していただくことになっている。チームの参加方法は初回の授業時に説明する。事前に Microsoft Outlook と Teams のアプリを所持の端末にインストールしておいて、使用できるような状態にしてください。授業時間外では、授業に関するお知らせ、資料配布、フィードバック等はすべて Microsoft Teams を通じて行われる。課題の提出は WebClass を利用する。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | この科目は第１期の「マクロ経済学特論１」と合わせて履修することが望ましい。この科目では特定の教科書は使用せず、講義資料を配布し、その内容に沿ってパワーポイントと板書により、解説を行う。また、この科目の履修にあたって、ミクロ･マクロ経済学と経済数学関係の科目が履修済みであることは望ましい。質問･議論は大歓迎である。必要に応じて、ノートパソコンを持参していただくことがある。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。そのほかの時間帯に関しては、大学から付与された学籍番号付きの Microsoft 365のメールアドレスで予め教員と連絡してアポを取ってください。 | | | | | | |
| アクティブ･ラーニングの内容 | 授業中、教員よりの意見共有や学生から意見発表を行ってもらい、問題の演習も行う。 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0103101 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **マクロ経済学特論３** | | | | | 浅子　和美 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | ミクロ経済学，マクロ経済学，計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に，景気変動やマクロ経済政策全般をテーマとするが，本年度は特に「経済の持続可能性」及びその関連テーマを中心に，理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について，先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 景気変動やマクロ経済政策全般の問題点を把握し，課題解決の方向を理解し政策提言に至る。<br>研究者としての視点から，課題解決や政策提言のための基本技法を応用し，学術論文を作成する。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 授業で指定されるリーディング・リストを読破するのに，相応の準備が必要となるが，それに積極的に取り組む必要がある（授業外学習時間は90時間）。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する（１）<br>【第２回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する（２）<br>【第３回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（１）<br>【第４回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（２）<br>【第５回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（３）<br>【第６回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（４）<br>【第７回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（５）<br>【第８回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（６）<br>【第９回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（７）<br>【第10回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（８）<br>【第11回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（９）<br>【第12回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（10）<br>【第13回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（11）<br>【第14回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（12）<br>【第15回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（13）<br>【第３回】以降，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練ること。 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み姿勢（30%）と課題に対する学術論文の提出（70 %）。未完でも可だが，それなりのクオリティが要求される。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | レポートや学術論文には丁寧にコメントする。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0103201 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **マクロ経済学特論４** | | | | | 浅子　和美 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | ミクロ経済学，マクロ経済学，計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に，景気変動やマクロ経済政策全般をテーマとするが，本年度は特に「経済の持続可能性」及びその関連テーマを中心に，理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について，先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 景気変動やマクロ経済政策全般の問題点を把握し，課題解決の方向を理解し政策提言に至る。<br>研究者としての視点から，課題解決や政策提言のための基本技法を応用し，学術論文を作成する。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 授業で指定されるリーディング・リストを読破するのに，相応の準備が必要となるが，それに積極的に取り組む必要がある（授業外学習時間は90時間）。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する（１）<br>【第２回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する（２）<br>【第３回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（１）<br>【第４回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（２）<br>【第５回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（３）<br>【第６回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（４）<br>【第７回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（５）<br>【第８回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（６）<br>【第９回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（７）<br>【第10回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（８）<br>【第11回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（９）<br>【第12回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（10）<br>【第13回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（11）<br>【第14回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（12）<br>【第15回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（13）<br>【第３回】以降，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練ること。 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み姿勢（30%）と課題に対する学術論文の提出（70 %）。未完でも可だが，それなりのクオリティが要求される。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | レポートや学術論文には丁寧にコメントする。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0103301 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | ミクロ経済学特論１ | | | | | 渡部　真弘 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本科目では、受講生が経済主体間の相互依存関係を分析するための手段としてのゲーム理論を学習し、経済問題の分析ツールとしてゲーム理論を用いることができるようになることが目的である．なお，本科目は博士後期課程「ミクロ経済学特研１」との合同授業でもある． | | | | | | |
| 到達目標 | 「ミクロ経済学特論１」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき，文字式を用いた理論的分析が可能となる．<br>「ミクロ経済学特研１」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき，文字式を用いた理論的分析が可能となる． | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 「ミクロ経済学特論１」の授業外学修内容・授業外学修時間：本科目では，授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために，週に少なくとも４時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である．<br>「ミクロ経済学特研１」の授業外学修内容・授業外学修時間：本科目では，授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために，週に少なくとも４時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である． | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス<br>【第２回】標準型表現：囚人のジレンマ<br>【第３回】標準型表現：最適反応とナッシュ均衡<br>【第４回】標準型表現：社会的選好，囚人のジレンマの再考（１）<br>【第５回】標準型表現：社会的選好，囚人のジレンマの再考（２）<br>【第６回】標準型表現：支配される戦略の逐次的消去<br>【第７回】標準型表現：弱く支配される戦略を含まないナッシュ均衡（１）<br>【第８回】標準型表現：弱く支配される戦略を含まないナッシュ均衡（２）<br>【第９回】標準型表現：弱く支配される戦略を含まないナッシュ均衡（３）<br>【第10回】展開型表現：後ろ向き帰納法（１）<br>【第11回】展開型表現：後ろ向き帰納法（２）<br>【第12回】展開型表現：部分ゲーム完全均衡（１）<br>【第13回】展開型表現：部分ゲーム完全均衡（２）<br>【第14回】展開型表現：部分ゲーム完全均衡（３）<br>【第15回】まとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 講義内容の理解度を確認するために，授業開始時に小テスト（授業第２回～授業第14回）を実施する．<br>「ミクロ経済学特論１」の評価割合：小テスト50%，期末試験50%<br>「ミクロ経済学特研１」の評価割合：小テスト50%，期末試験50% | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 「ミクロ経済学特論１」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する．理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する．<br>「ミクロ経済学特研１」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する．理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する． | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | 『An Introduction to Game Theory』Martin J. Osborne（Oxford University Press）2009、『Game Theory（2nd Edition）』Michael Maschler, Eilon Solan,　Shmuel Zamir（Cambridge University Press）2020 | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 小テストや期末試験は記述式であり，単語を選択するマークシートのような簡易なものではない．試験問題を事前に配布しない．単位数に見合った学修時間を確保するつもりがなければ履修すべきではない． | | | | | | |
| オフィスアワー | オフィスアワー：木曜日３時限，2号館516研究室<br>連絡や資料配布は，Microsoft Teams を通じて行う．Microsoft Teams のチームに参加するためのチームコードを授業第１回のガイダンス時に共有する． | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 教員からのフィードバックによる振り返り：小テストの全ての問題において，細分化された各採点項目に対する評価を返却することで，復習が十分ではない内容を学生に認識させる． | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0103401 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | ミクロ経済学特論２ | | | | | 渡部　真弘 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本科目では、受講生が経済主体間の相互依存関係を分析するための手段としてのゲーム理論を学習し、経済問題の分析ツールとしてゲーム理論を用いることができるようになることが目的である．なお，本科目は博士後期課程「ミクロ経済学特研２」との合同授業でもある． | | | | | | |
| 到達目標 | 「ミクロ経済学特論２」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき，文字式を用いた理論的分析が可能となる．<br>「ミクロ経済学特研２」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき，文字式を用いた理論的分析が可能となる． | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 「ミクロ経済学特論２」の授業外学修内容・授業外学修時間：本科目では，授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために，週に少なくとも４時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である．<br>「ミクロ経済学特研２」の授業外学修内容・授業外学修時間：本科目では，授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために，週に少なくとも４時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である． | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス<br>【第２回】完全ベイジアン均衡（１）<br>【第３回】完全ベイジアン均衡（２）<br>【第４回】完全ベイジアン均衡（３）<br>【第５回】シグナリング（１）<br>【第６回】シグナリング（２）<br>【第７回】交互提案交渉（１）<br>【第８回】交互提案交渉（２）<br>【第９回】交互提案交渉（３）<br>【第10回】ナッシュ交渉解（１）<br>【第11回】ナッシュ交渉解（２）<br>【第12回】ナッシュ交渉解（３）<br>【第13回】シャプレー値，コア（１）<br>【第14回】シャプレー値，コア（２）<br>【第15回】まとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 講義内容の理解度を確認するために，授業開始時に小テスト（授業第２回～授業第14回）を実施する．<br>「ミクロ経済学特論２」の評価割合：小テスト50%，期末試験50%<br>「ミクロ経済学特研２」の評価割合：小テスト50%，期末試験50% | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 「ミクロ経済学特論２」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する．理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する．<br>「ミクロ経済学特研２」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する．理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する． | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | 『An Introduction to Game Theory』Martin J. Osborne（Oxford University Press）2009、『Game Theory（2nd Edition）』Michael Maschler, Eilon Solan,　Shmuel Zamir（Cambridge University Press）2020 | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 小テストや期末試験は記述式であり，単語を選択するマークシートのような簡易なものではない．試験問題を事前に配布しない．単位数に見合った学修時間を確保するつもりがなければ履修すべきではない． | | | | | | |
| オフィスアワー | オフィスアワー：木曜日３時限，2号館516研究室<br>連絡や資料配布は，Microsoft Teams を通じて行う．Microsoft Teams のチームに参加するためのチームコードを授業第１回のガイダンス時に共有する． | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 教員からのフィードバックによる振り返り：小テストの全ての問題において，細分化された各採点項目に対する評価を返却することで，復習が十分ではない内容を学生に認識させる． | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0103501 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | ミクロ経済学特論３ | | | | | 小野﨑　保 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 複雑に発達した現代の経済社会において生起する経済現象を理解するためには、ただデータなどを観察するだけでは不十分であり、それらの背後に共通して潜む論理を理解することが必要不可欠である。ミクロ経済学はこのような論理を読み解く上で重要な役割を果たす。本講義では、各自の研究に役立つようなミクロ経済学的分析手法について、文献輪読の形式で学ぶ。必要に応じて、関連するテーマとしてゲーム理論や産業組織論の内容などを扱うこともある。<br>なお、本講義は博士後期課程「ミクロ経済学特研３」との合同授業である。 | | | | | | |
| 到達目標 | （１）市場経済の仕組みを説明できる。<br>（２）市場経済にまつわる政策問題を理解できる。<br>（３）各自の研究テーマをミクロ経済学の視点から考えることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | （１）レポーターを担当するしないに拘わらず、輪読文献を事前および事後に熟読すること。<br>（２）授業内容に関連する練習問題に取り組むこと。<br>これらを併せて授業外に合計60時間以上の学習をおこなうこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス（授業の進め方、文献の選択など）<br>【第２回】文献の輪読および討論（１）<br>【第３回】文献の輪読および討論（２）<br>【第４回】文献の輪読および討論（３）<br>【第５回】文献の輪読および討論（４）<br>【第６回】文献の輪読および討論（５）<br>【第７回】文献の輪読および討論（６）<br>【第８回】文献の輪読および討論（７）<br>【第９回】文献の輪読および討論（８）<br>【第10回】文献の輪読および討論（９）<br>【第11回】文献の輪読および討論（10）<br>【第12回】文献の輪読および討論（11）<br>【第13回】文献の輪読および討論（12）<br>【第14回】文献の輪読および討論（13）<br>【第15回】文献の輪読および討論（14） | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み姿勢（20%）および試験（80%） | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 文献輪読における発表の内容や方法について、随時口頭によりコメントする。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 教科書は履修生と相談して決める。<br>参考文献は、履修生の研究テーマに応じて適宜指示する。 | | | | | | |
| オフィスアワー | メール（onozaki@ris.ac.jp）にて随時受け付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール、プレゼンテーション、ディベートなど | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0103601 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | ミクロ経済学特論４ | | | | | 小野﨑　保 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 複雑に発達した現代の経済社会において生起する経済現象を理解するためには、ただデータなどを観察するだけでは不十分であり、それらの背後に共通して潜む論理を理解することが必要不可欠である。ミクロ経済学はこのような論理を読み解く上で重要な役割を果たす。本講義では、各自の研究に役立つようなミクロ経済学的分析手法について、文献輪読の形式で学ぶ。必要に応じて、関連するテーマとしてゲーム理論や産業組織論の内容などを扱うこともある。<br>なお、本講義は博士後期課程「ミクロ経済学特研４」との合同授業である。 | | | | | | |
| 到達目標 | （１）市場経済の仕組みを説明できる。<br>（２）市場経済にまつわる政策問題を理解できる。<br>（３）各自の研究テーマをミクロ経済学的に分析し、課題を見つけ政策提言をすることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | （１）レポーターを担当するしないに拘わらず、輪読文献を事前および事後に熟読すること。<br>（２）授業内容に関連する練習問題に取り組むこと。<br>これらを併せて授業外に合計60時間以上の学習をおこなうこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス（授業の進め方、文献の選択など）<br>【第２回】文献の輪読および討論（１）<br>【第３回】文献の輪読および討論（２）<br>【第４回】文献の輪読および討論（３）<br>【第５回】文献の輪読および討論（４）<br>【第６回】文献の輪読および討論（５）<br>【第７回】文献の輪読および討論（６）<br>【第８回】文献の輪読および討論（７）<br>【第９回】文献の輪読および討論（８）<br>【第10回】文献の輪読および討論（９）<br>【第11回】文献の輪読および討論（10）<br>【第12回】文献の輪読および討論（11）<br>【第13回】文献の輪読および討論（12）<br>【第14回】文献の輪読および討論（13）<br>【第15回】文献の輪読および討論（14） | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 「ミクロ経済学特論４」:　授業への取り組み姿勢（20%）および試験（80%） | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 文献輪読における発表の内容や方法について、随時口頭によりコメントする。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 教科書は履修生と相談して決める。<br>参考文献は、履修生の研究テーマに応じて適宜指示する。 | | | | | | |
| オフィスアワー | メール（onozaki@ris.ac.jp）にて随時受け付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール、プレゼンテーション、ディベートなど | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0103901 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **経済統計学特論３** | | | | | 王　在喆 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 一国の各家計は、いろいろな財やサービスを購入している。購入に必要とした所得は、主として企業から給料として得ている。このような所得等の経済循環をモデル化したものに、マクロ経済モデルがある。この授業では、マクロ経済モデルより，生産部門を分割し、より一層、経済構造の分析に適した産業連関モデルを取り上げる。最初に分析手法と経済データについて学習し、その上で、日本経済や中国経済などを対象にした理論的・実証的分析を学習する。産業連関表のデータとコンピュータソフト，例えば，EXCEL などを使って数量分析に興味を持ち、授業に継続的に出席することができる受講生の履修が望ましい。<br>本講義は修士課程院生と博士後期課程の院生との合同授業である。修士課程の受講生は産業連関分析理論と産業連関分析手法の習得に力点を置くことが望ましいが、博士後期課程の受講生は、むしろ本講義で勉強した産業連関分析の知識を如何にして自分の研究に応用させるかに力点を置くことが望まれる。 | | | | | | |
| 到達目標 | 受講生は産業連関表によって表現される生産、分配、支出の経済循環の意味をよく理解することができる。また、EXCEL の関数式を使って行列の演算が行えるようになる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | ①経済社会の産業構造とその時系列変化を学習すること。<br>②産業連関表の概念や構造などについて学習すること。<br>③産業連関分析モデルを使った具体的な経済分析を学習すること。<br>授業外学修時間は180時間以上が必要である。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】経済循環とモデル分析①<br>【第２回】経済循環とモデル分析②<br>【第３回】社会会計①<br>【第４回】社会会計②<br>【第５回】産業連関表①見方<br>【第６回】産業連関表②基本構造<br>【第７回】産業連関表③使い方<br>【第８回】産業連関表④総括<br>【第９回】Excel を使ってベクトル・行列の計算①<br>【第10回】Excel を使ってベクトル・行列の計算②掛け算<br>【第11回】Excel を使ってベクトル・行列の計算③逆行列<br>【第12回】Excel を使ってベクトル・行列の計算④連立方程式の解法<br>【第13回】生産量決定モデル①<br>【第14回】生産量決定モデル②<br>【第15回】生産量決定モデル③ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 修士課程受講生：授業への取り組み30%、授業内発表40%、レポート（１回）30%。<br>博士後期課程受講生：授業への取り組み30%、研究報告70%。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 授業内外で学習と研究について適宜に指導を行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | 『産業連関分析入門』藤川清史（日本評論社）2005、『日本の産業構造』尾崎　巌（慶応義塾大学出版会）2004、『産業連関分析ハンドブック』宍戸俊太郎監修　環太平洋産業連関分析学会編（東洋経済新報社）2010 | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 時間：水曜日６限目（18：00-19：30）<br>場所：２号棟511研究室（５月末まではネットで行うこと；事前にメールで予約すること）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0104001 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **経済統計学特論４** | | | | | 王　在喆 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 一国の各家計は、いろいろな財やサービスを購入している。購入に必要とした所得は、主として企業から給料として得ている。このような所得等の経済循環をモデル化したものに、マクロ経済モデルがある。この授業では、マクロ経済モデルより，生産部門を分割し、より一層、経済構造の分析に適した産業連関モデルを取り上げる。最初に分析手法と経済データについて復習した上で、日本経済や中国経済などを対象にした理論的・実証的分析を学習する。産業連関表のデータとコンピュータソフト，例えば，EXCEL などを使って数量分析に興味を持ち、授業に継続的に出席することができる受講生の履修が望ましい。<br>本講義は修士課程院生と博士後期課程の院生との合同授業である。修士課程の受講生は産業連関分析理論と産業連関分析手法の習得に力点を置くことが望ましいが、博士後期課程の受講生は、むしろ本講義で勉強した産業連関分析の知識を如何にして自分の研究に応用させるかに力点を置くことが望まれる。 | | | | | | |
| 到達目標 | 受講生は産業連関表によって表現される生産、分配、支出の経済循環の意味をよく理解することができる。また産業連関表を使って一国あるいは一地域の産業構造の姿を数値的に分析するようになる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | ①経済社会の産業構造とその時系列変化を学習すること。<br>②産業連関表の概念や構造などについて学習すること。<br>③産業連関分析モデルを使った具体的な経済分析を学習すること。<br>授業外学修時間は180時間以上が必要である。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】生産量決定モデル④輸入外生化<br>【第２回】生産量決定モデル⑤輸入内生化<br>【第３回】価格モデル①<br>【第４回】価格モデル②<br>【第５回】価格モデル③<br>【第６回】産業連関分析の実際①<br>【第７回】産業連関分析の実際②<br>【第８回】産業連関分析の実際③<br>【第９回】産業連関分析の実際④<br>【第10回】産業連関分析の応用①<br>【第11回】産業連関分析の応用②<br>【第12回】産業連関分析の応用③各自テーマ別事例分析<br>【第13回】産業連関分析の応用④各自テーマ別事例分析<br>【第14回】産業連関分析の応用⑤各自テーマ別事例分析<br>【第15回】一般均衡モデルの展開 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 修士課程受講生：授業への取り組み30%、授業内発表40%、レポート（１回）30%。<br>博士後期課程受講生：授業への取り組み30%、研究報告70%。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 授業内外で学習と研究について適宜に指導を行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | 『産業連関分析入門』藤川清史（日本評論社）2005、『日本の産業構造』尾崎　巌（慶応義塾大学出版会）2004、『産業連関分析ハンドブック』宍戸俊太郎監修　環太平洋産業連関分析学会編（東洋経済新報社）2010 | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 時間：水曜日６限目（18：00-19：30）、オンラインで（事前にメールで予約すること）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0104101 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **景気循環論特論１** | | | | | 浅子　和美 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | ミクロ経済学，マクロ経済学，計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に，景気循環全般をテーマとするが，本年度は特に「景気循環・経済成長と持続可能な経済発展」及びその関連テーマを中心に，理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について，先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。<br>なお，本講義は博士後期課程「景気循環論特研１」との合同授業でもある。 |
| 到達目標 | 「景気循環論特論１」の到達目標<br>景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し，課題解決の方向を理解する。<br>課題解決や政策提言のための基本技法を修得し，レポート等を作成する。<br>「景気循環論特研１」の到達目標<br>景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し，課題解決の方向を理解し，政策提言に至る。<br>研究者としての視点から，課題解決や政策提言のための基本技法を応用し，学術論文を作成する。 |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 授業で指定されるリーディング・リストを読破するのに，相応の準備が必要となるが，それに積極的に取り組む必要がある(「景気循環論特論１」では60時間，「景気循環論特研１」では90時間)。 |
| 授業計画 | 【第１回】履修者が確定した段階で，履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し，それに合わせた授業計画を立てる。その目的で，各自の希望を話してもらう。(１)<br>【第２回】履修者が確定した段階で，履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し，それに合わせた授業計画を立てる。その目的で，各自の希望を話してもらう。(２)<br>【第３回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(１)<br>【第４回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(２)<br>【第５回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(３)<br>【第６回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(４)<br>【第７回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(５)<br>【第８回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(６)<br>【第９回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(７)<br>【第10回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(８)<br>【第11回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(９)<br>【第12回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(10)<br>【第13回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(11)<br>【第14回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(12)<br>【第15回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(13) |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み姿勢（30%）と課題に対するレポート提出（70 %）。 |
| フィードバックの内容 | レポートや学術論文には丁寧にコメントする。 |
| 教科書 | |
| 指定図書 | |
| 参考書 | |
| 教員からのお知らせ | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。 |
| アクティブ・ラーニングの内容 | |
| その他 | |

| 講義コード | 12C0104201 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **景気循環論特論２** | | | | | 浅子　和美 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | ミクロ経済学，マクロ経済学，計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に，景気循環全般をテーマとするが，本年度は特に「景気循環・経済成長と持続可能性」及びその関連テーマを中心に，理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について，先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。<br>なお，本講義は博士後期課程「景気循環論特研２」との合同授業でもある。 |
| 到達目標 | 「景気循環論特論２」の到達目標<br>景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し，課題解決の方向を理解する。<br>課題解決や政策提言のための基本技法を修得し，レポート等を作成する。<br>「景気循環論特研２」の到達目標<br>景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し，課題解決の方向を理解し，政策提言に至る。<br>研究者としての視点から，課題解決や政策提言のための基本技法を応用し，学術論文を作成する。 |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 授業で指定されるリーディング・リストを読破するのに，相応の準備が必要となるが，それに積極的に取り組む必要がある(「景気循環論特論２」では60時間，「景気循環論特研２」では90時間)。 |
| 授業計画 | 【第１回】履修者が確定した段階で，履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し，それに合わせた授業計画を立てる。その目的で，各自の希望を話してもらう。(１)<br>【第２回】履修者が確定した段階で，履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し，それに合わせた授業計画を立てる。その目的で，各自の希望を話してもらう。(２)<br>【第３回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(１)<br>【第４回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(２)<br>【第５回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(３)<br>【第６回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(４)<br>【第７回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(５)<br>【第８回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(６)<br>【第９回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(７)<br>【第10回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(８)<br>【第11回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(９)<br>【第12回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(10)<br>【第13回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(11)<br>【第14回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(12)<br>【第15回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(13) |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み姿勢（30%）と課題に対するレポート提出（70 %） |
| フィードバックの内容 | レポートや学術論文には丁寧にコメントする。 |
| 教科書 | |
| 指定図書 | |
| 参考書 | |
| 教員からのお知らせ | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。 |
| アクティブ・ラーニングの内容 | |
| その他 | |

| 講義コード | 12C0104501 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **金融論特論１** | | | | | 林　康史 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 金融論が取り扱う分野の重要性が増し、金融・証券分野が全人類・汎地球規模で重要になっている。そうした中で、株式・証券市場に関する文献【Stocks for the Long Run（6th edition)】を輪読し、討議する授業とする。<br>※　この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 株式・証券市場の機能・構造を理解し、その歴史的展開を説明できることである。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 授業外学修時間数は、60時間以上。 | | | | | | |
| 授業計画 | Stocks for the Long Run（6th edition）の前半を翻訳し、講読する。<br>【第１回】第１章<br>【第２回】第２章<br>【第３回】第３章<br>【第４回】第４章<br>【第５回】第５章<br>【第６回】第６章<br>【第７回】第７章<br>【第８回】第８章<br>【第９回】第９章<br>【第10回】第10章<br>【第11回】第11章<br>【第12回】第12章<br>【第13回】第13章<br>【第14回】第14章<br>【第15回】総括 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 報告・研究発表（レポートの提出を求める場合もある）・討議の内容に基づき、総合的に評価（予定)。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 随時行う（「Q&A」等を順次ウェブにアップする)。 | | | | | | |
| 教科書 | 『Stocks for the Long Run（6th edition)』Jeremy J. Siegel（McGraw Hill）2022年 | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 授業計画等は、受講人数によって若干の変更がありうる。また、学外・学部にも聴講を許可する場合がある（受講資格等は別途、案内する)。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、メールまたは電話で受付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0104601 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **金融論特論２** | | | | | 林　康史 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 金融論が取り扱う分野の重要性が増し、金融・証券分野が全人類・汎地球規模で重要になっている。そうした中で、株式・証券市場に関する文献【Stocks for the Long Run（6th edition)】を輪読し、討議する授業とする。<br>※　この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 株式・証券市場の機能・構造を理解し、その歴史的展開を説明できることである。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 授業外学修時間数は、60時間以上。 | | | | | | |
| 授業計画 | Stocks for the Long Run（6th edition）の後半を翻訳し、講読する。<br>【第１回】第15章<br>【第２回】第16章<br>【第３回】第17章<br>【第４回】第18章<br>【第５回】第19章<br>【第６回】第20章<br>【第７回】第21章<br>【第８回】第22章<br>【第９回】第23章<br>【第10回】第24章<br>【第11回】第25章<br>【第12回】第26章<br>【第13回】第27章<br>【第14回】第28章<br>【第15回】総括 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 報告・研究発表（レポートの提出を求める場合もある）・討議の内容に基づき、総合的に評価（予定)。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 随時行う（「Q&A」等を順次ウェブにアップする)。 | | | | | | |
| 教科書 | 『Stocks for the Long Run（6th edition)』Jeremy J. Siegel（McGraw Hill）2022年 | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 授業計画等は、受講人数によって若干の変更がありうる。また、学外・学部にも聴講を許可する場合がある（受講資格等は別途、案内する)。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、メールまたは電話で受付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0105501 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **国際経済学特論３** | | | | | 河原　伸哉 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 国際貿易論における理論的・実証的テーマについて、主に出席者の発表を中心にして議論する。授業は修士課程「国際経済学特論３」と博士後期課程「国際経済学特研３」を合同で実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 修士:<br>（１）国際貿易論の基礎的概念を理解している<br>（２）基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる<br>博士後期：<br>（１）国際貿易論の基礎的概念を理解している<br>（２）基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる<br>（３）国際貿易論の分野における最近の理論的・実証的研究を批判的に検討できる | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 修士：各回の授業で扱うトピックについて、参考書の該当部分を読み予習を行うこと。授業後は配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。<br>博士後期：各回の授業で扱うトピックについて、参考書の該当部分および文献リストの論文を読み予習を行うこと。授業後は論文・配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 初回授業時に指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜、国際貿易論分野の学術論文についても取り上げる。<br>【第１回】イントロダクション<br>【第２回】教科書の発表と討論１<br>【第３回】教科書の発表と討論２<br>【第４回】教科書の発表と討論３<br>【第５回】教科書の発表と討論４<br>【第６回】教科書の発表と討論５<br>【第７回】教科書の発表と討論６<br>【第８回】教科書の発表と討論７<br>【第９回】教科書の発表と討論８<br>【第10回】教科書の発表と討論９<br>【第11回】教科書の発表と討論10<br>【第12回】教科書の発表と討論11<br>【第13回】教科書の発表と討論12<br>【第14回】教科書の発表と討論13<br>【第15回】まとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 修士：平常点（30%）、発表（30%）、レポート（40%）により成績を評価する。<br>博士後期：平常点（20%）、発表（20%）、レポート（40%）に加えて、研究報告（20%）により成績を評価する。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 課題や報告に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 使用する教科書については、初回授業時に協議の上、決定する。指定図書・参考書は初回授業時に提示する。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0105601 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **国際経済学特論４** | | | | | 河原　伸哉 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 国際貿易論における理論的・実証的テーマについて、主に出席者の発表を中心にして議論する。授業は修士課程「国際経済学特論４」と博士後期課程「国際経済学特研４」を合同で実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 修士:<br>（１）国際貿易論の基礎的概念を理解している。<br>（２）基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる。<br>博士後期：<br>（１）国際貿易論の基礎的概念を理解している。<br>（２）基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる。<br>（３）国際貿易論の分野における最近の理論的・実証的研究を批判的に検討できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 修士：各回の授業で扱うトピックについて、参考書の該当部分を読み予習を行うこと。授業後は配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。<br>博士後期：各回の授業で扱うトピックについて、参考書の該当部分および文献リストの論文を読み予習を行うこと。授業後は論文・配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 初回授業時に指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜、国際貿易論分野の学術論文についても取り上げる。<br>【第１回】イントロダクション<br>【第２回】教科書の発表と討論１<br>【第３回】教科書の発表と討論２<br>【第４回】教科書の発表と討論３<br>【第５回】教科書の発表と討論４<br>【第６回】教科書の発表と討論５<br>【第７回】教科書の発表と討論６<br>【第８回】教科書の発表と討論７<br>【第９回】教科書の発表と討論８<br>【第10回】教科書の発表と討論９<br>【第11回】教科書の発表と討論10<br>【第12回】教科書の発表と討論11<br>【第13回】教科書の発表と討論12<br>【第14回】教科書の発表と討論13<br>【第15回】まとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 修士：平常点（30%）、発表（30%）、レポート（40%）により成績を評価する。<br>博士後期：平常点（20%）、発表（20%）、レポート（40%）に加えて、研究報告（20%）により成績を評価する。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 課題や報告に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 使用する教科書については、初回授業時に協議の上、決定する。指定図書・参考書は初回授業時に提示する。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0105701 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **国際金融論特論１** | | | | | 外木　好美 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | 金融の仕組みや制度，経済政策等について，為替レートや国際収支を通じた影響も踏まえて，理論的なアプローチで理解することを目的とする。主に出席者の発表を中心にして，議論する。<br>なお，本授業は博士後期課程の「国際金融特研究１」との合同授業である。 |
| 到達目標 | 修士：<br>（１）国際金融論の基礎的概念を理解している<br>（２）国際金融論の基本理論を理解している<br>（３）国際金融論の理論を使って、現実の諸問題を理解できる<br>博士後期：<br>（１）国際金融論の基礎的概念を説明できる<br>（２）国際金融論の基本理論を説明できる<br>（３）国際金融論の理論に基づいて現実の諸問題を検討できる |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 修士：各回で扱うトピックについて，教科書や参考書の当該部分を読み，予習を行うこと。授業後は，授業資料や議論を踏まえて，復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。<br>博士後期：各回で扱うトピックについて，教科書や参考書の当該部分を読み，予習を行うこと。授業後は，授業資料や議論を踏まえて，復習を行うこと。関連する論文を読むこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 |
| 授業計画 | 指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜，参考書や学術論文についても取り上げる。<br>【第１回】イントロダクション<br>【第２回】教科書の発表と討論１<br>【第３回】教科書の発表と討論２<br>【第４回】教科書の発表と討論３<br>【第５回】教科書の発表と討論４<br>【第６回】教科書の発表と討論５<br>【第７回】教科書の発表と討論６<br>【第８回】教科書の発表と討論７<br>【第９回】教科書の発表と討論８<br>【第10回】教科書の発表と討論９<br>【第11回】教科書の発表と討論10<br>【第12回】教科書の発表と討論11<br>【第13回】教科書の発表と討論12<br>【第14回】教科書の発表と討論13<br>【第15回】まとめ |
| 成績評価の方法 | 修士：平常点（50%），発表（50%）により成績を評価する。<br>修士：平常点（40%），発表（40%），研究報告（20%）により成績を評価する。 |
| フィードバックの内容 | 課題や報告に対するコメントを授業時に行う。 |
| 教科書 | 『クルーグマン国際経済学 理論と政策〔原書第10版〕下：金融編』Paul R. Krugman（著），Maurice Obstfeld（著），Marc J. Melitz（著），山形 浩生（翻訳），守岡 桜（翻訳）（丸善出版）2017/ 1 /19 |
| 指定図書 | 『コア・テキスト国際金融論』藤井 英次（著）（新世社）2014/ 1 / 6、『International Macroeconomics and Finance: Theory and Econometric Methods』Nelson C. Mark（著）（John Wiley & Sons）2001/ 8 / 8 |
| 参考書 | |
| 教員からのお知らせ | マクロ経済学を履修していることが望ましい。 |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は，研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。 |
| アクティブ・ラーニングの内容 | プレゼンテーション |
| その他 | |

| 講義コード | 12C0105801 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **国際金融論特論２** | | | | | 外木　好美 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | 金融の仕組みや制度，経済政策等について，為替レートや国際収支を通じた影響も踏まえて，理論的なアプローチで理解することを目的とする。主に出席者の発表を中心にして，議論する。<br>なお，本授業は博士後期課程の「国際金融特研究２」との合同授業である。 |
| 到達目標 | 修士：<br>（１）国際金融論の基礎的概念を理解している<br>（２）国際金融論の基本理論を理解している<br>（３）国際金融論の理論を使って、現実の諸問題を理解できる<br>博士後期：<br>（１）国際金融論の基礎的概念を説明できる<br>（２）国際金融論の基本理論を説明できる<br>（３）国際金融論の理論に基づいて現実の諸問題を検討できる |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 修士：各回で扱うトピックについて，教科書や参考書の当該部分を読み，予習を行うこと。授業後は，授業資料や議論を踏まえて，復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。<br>博士後期：各回で扱うトピックについて，教科書や参考書の当該部分を読み，予習を行うこと。授業後は，授業資料や議論を踏まえて，復習を行うこと。関連する論文を読むこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 |
| 授業計画 | 指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜，参考書や学術論文についても取り上げる。<br>【第１回】イントロダクション<br>【第２回】教科書の発表と討論１<br>【第３回】教科書の発表と討論２<br>【第４回】教科書の発表と討論３<br>【第５回】教科書の発表と討論４<br>【第６回】教科書の発表と討論５<br>【第７回】教科書の発表と討論６<br>【第８回】教科書の発表と討論７<br>【第９回】教科書の発表と討論８<br>【第10回】教科書の発表と討論９<br>【第11回】教科書の発表と討論10<br>【第12回】教科書の発表と討論11<br>【第13回】教科書の発表と討論12<br>【第14回】教科書の発表と討論13<br>【第15回】まとめ |
| 成績評価の方法 | 修士：平常点（50%），発表（50%）により成績を評価する。<br>修士：平常点（40%），発表（40%），研究報告（20%）により成績を評価する。 |
| フィードバックの内容 | 課題や報告に対するコメントを授業時に行う。 |
| 教科書 | 『クルーグマン国際経済学 理論と政策〔原書第10版〕下：金融編』Paul R. Krugman（著），Maurice Obstfeld（著），Marc J. Melitz（著），山形 浩生（翻訳），守岡 桜（翻訳）（丸善出版）2017/ 1 /19 |
| 指定図書 | 『コア・テキスト国際金融論』藤井 英次（著）（新世社）2014/ 1 / 6、『International Macroeconomics and Finance: Theory and Econometric Methods』Nelson C. Mark（著）（John Wiley & Sons）2001/ 8 / 8 |
| 参考書 | |
| 教員からのお知らせ | マクロ経済学を履修していることが望ましい。 |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は，研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。 |
| アクティブ・ラーニングの内容 | プレゼンテーション |
| その他 | |

| 講義コード | 12C0105901 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **国際金融論特論３** | | | | | 畠山　久志 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 現代の国際金融論は、これまでの単純な国家間の貿易や為替相場の数値的分析に終点を持たない。むしろ主権国家や統合組織などの政治的影響力や経済力規模の表現の場となっている国際金融を多角的に分析し、位置付けすることが課題となっている。そこで、授業はこれまでの基礎的な事項の確認と現代の国際金融が動いている背景を歴史的に捉えようとするものである。<br>なお、本授業は博士後期課程の「国際金融論特研３」との合同授業である。 | | | | | | |
| 到達目標 | 国際金融論の理解に不可欠な金融に係る基礎事項を歴史から習得し①外国為替仕組み、②中央政府の為替介入、③デリバティブ、④国際収支、⑤国際業務規制、⑥国際通貨制度、⑦ユーロ、⑧経済協力などを把握し、今後の研究及び論文作成に向けた知見を獲得することができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 基礎事項の予習復習をおこなうこと。必要な教科書以外の図書はその都度指定･配布するので、時間を十分に取ってほしい。必要な時間は60時間とする。国内のみならず、海外の国際金融情勢をウォッチしてほしい。 | | | | | | |
| 授業計画 | 国際金融の理解に必要な事項について学びます。<br>【第１回】国際金融とは何か。<br>【第２回】国際収支１<br>【第３回】国際収支２<br>【第４回】対外決済の仕組み１<br>【第５回】対外決済の仕組み２<br>【第６回】外国為替市場１<br>【第７回】外国為替市場２<br>【第８回】外国為替相場の決定理論１<br>【第９回】外国為替相場の決定理論２<br>【第10回】国際通貨制度<br>【第11回】変動相場制における経済政策の効果<br>【第12回】固定相場における経済政策の効果<br>【第13回】外国為替相場の輸出入価格へのパススルー<br>【第14回】通貨危機、ソブリンリスク<br>【第15回】形状数詞の調整と新しいオープンマクロ経済学 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 講義内容に関する期末レポート（80％）、質問や意見など授業に対する参加態度（20％）で評価します。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 講義内容は、事前にオンライン授業に資料掲示します。また質問や意見、追加説明などは、まとめて期末にペーパー化し、共有します。 | | | | | | |
| 教科書 | 『国際金融論入門』佐々木百合（新世社）2017 | | | | | | |
| 指定図書 | 『金融の世界現代史』国際銀行史研究会（一色出版）2018、『金融の世界史』板谷俊彦（新潮社）2013、『ウォール街の歴史』チャールズ・ガイスト（フォレスト出版）2010、『ロンバート街』バジョウット（岩波書店）1994 | | | | | | |
| 参考書 | 『通貨の悪戯』ミルトンフリードマン（三田出版会）1993、『貨幣と通貨の法文化』林康史（国際書院）2016 | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、授業終了後教室内にて対応します。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 項目ごとの解説・プレゼンテーションに基づき、内容、考え方、分析方法等についてディスカッションをする。 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0106001 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **国際金融論特論４** | | | | | 畠山　久志 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 現代の国際金融論は、これまでの単純な国家間の貿易や為替相場の数値的分析に終点を持たない。むしろ主権国家や統合組織などの政治的影響力や経済規模の表現の場となっている国際金融を多角的に分析し、位置付けすることが課題となっている。そこで、本授業は前期の学習（国際金融の基礎知識）を前提にこれまでの国際金融上のイベントについて、論理的な分析力を習得し、歴史的な位置付け等について理解を深める。イベントは基本的に近世、近代の貿易を中心とした国際金融上の事象である。<br>なお、本授業は博士後期課程の「国際金融論特研４」との合同授業である。 | | | | | | |
| 到達目標 | 国際金融論の理解に不可欠な基礎事項である①外国為替仕組み、②中央政府の為替介入、③デリバティブ、④国際収支、⑤国際業務規制、⑥国際通貨制度、⑦ユーロ、⑧経済協力などを市場参加者の視点から把握し、国際金融全体の課題を考え今後の研究及び論文作成に向けた知見を獲得することができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 基礎事項の予習復習をおこなうこと。教科書は当然であるが、以外の図書をその都度指定･配布するので、時間を十分に取ってほしい。必要な時間は60時間とする。国内のみならず、海外の国際金融情勢をウォッチしてほしい。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】国際金融論の論理とイベント<br>【第２回】古代ギリシアの国際金融<br>【第３回】中世の国際金融１（キリスト教　金融の否定）<br>【第４回】中世の国際金融２（地中海交易と保険）<br>【第５回】中世の国際金融３（イスラム金融　金利の否定）<br>【第６回】中世の国際金融４（十字軍　為替と信託）<br>【第７回】中世の国際金融５（会社と複式簿記）<br>【第８回】大航海時代の国際貿易（新大陸への進出）<br>【第９回】黄金期のオランダ１（東インド会社　西インド会社）<br>【第10回】黄金期のオランダ２（アムステルダム証券取引所とアムステルダム為替銀行）<br>【第11回】産業革命期のイギリスとフランス（重商主義　重農主義）<br>【第12回】覇権国イギリス１（株式会社制度の法定　中央銀行制度の確立）<br>【第13回】覇権国イギリス２（損害保険会社）<br>【第14回】覇権国イギリス３（海外投資　ロンバート街）<br>【第15回】債権国アメリカ（ウォールストリート） | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 期末レポート（80％）と質問や意見など授業に対する参加態度（20％）で評価します。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 授業の内容を事前にオンライ授業で掲示します。また質問や意見、追加説明など等はまとめて期末にペーパー化し、共有します。 | | | | | | |
| 教科書 | 『金融の世界史』板谷敏彦（新潮社）2013 | | | | | | |
| 指定図書 | 『マネーセンターの興亡』高橋琢磨（日経出版社）1999、『ヘゲモニー国家と世界システム』松田武･秋田茂（山川出版）2002、『最初の近代経済』Ｊ・ド・フリース（名古屋大学出版会）2009 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 講義の内容について、質問、意見交換等、ディスカッションをします。卒業論文（修士論文等）の作成手順等の情報交換をする。 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0106301 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **地域経済特論３** | | | | | 苑　志佳 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本講義では、構造転換中の中国経済を研究する。過去40数年間における中国経済成長はどのように実現されたか、これまでの高度成長は何故成長低下し始まったか、中国経済はこれから、どのように転換していくか。今年度の授業では、最新の著書を輪読することによって上記の諸問題を院生諸君と一緒に考える。授業運営は、院生諸君の報告、問題提起、論点をめぐる討論を中心に行う予定である。出席者には、レベルの高いコメントと価値のあるデイスカションを活発にしてもらいたい。 | | | | | | |
| 到達目標 | 本授業を履修することによって中国経済の諸問題を理解することができる。したがって、中国経済の関連課題を研究するテクニックを身につけることもできる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | １．この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。<br>２．毎週の授業終了後に参考文献や予習資料などを指定するので、これを予習する。<br>３．授業時に配布される教材や資料を復習し、次回の授業時に問題提起を考える。<br>４．授業の予定テーマに関連する資料を自ら収集し、これを持って授業討論に臨む。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】イントロダクション<br>【第２回】最新研究書籍の輪読・討論（１）<br>【第３回】最新研究書籍の輪読・討論（２）<br>【第４回】最新研究書籍の輪読・討論（３）<br>【第５回】最新研究書籍の輪読・討論（４）<br>【第６回】最新研究書籍の輪読・討論（５）<br>【第７回】最新研究書籍の輪読・討論（６）<br>【第８回】最新研究書籍の輪読・討論（７）<br>【第９回】最新研究書籍の輪読・討論（８）<br>【第10回】最新研究書籍の輪読・討論（９）<br>【第11回】最新研究書籍の輪読・討論（10）<br>【第12回】最新研究書籍の輪読・討論（11））<br>【第13回】最新研究書籍の輪読・討論（12）<br>【第14回】最新研究書籍の輪読・討論（13）<br>【第15回】総括 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | １．授業への取り組み姿勢　50％、<br>２．プレゼンテーション30％、<br>３．討論参加20％。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 毎週の輪読課題、テーマに対する講評を翌週授業内冒頭にて行う。 | | | | | | |
| 教科書 | 『中国の産業発展とイノベーション政策』李春霞（専修大学出版局）2018年 | | | | | | |
| 指定図書 | 『世界進出する中国型多国籍企業』苑志佳（創成社）2023年 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 輪読図書、書籍は、最初授業の時に指示する。 | | | | | | |
| オフィスアワー | －月曜日３限<br>－品川キャンパス２号館508室<br>－事前に〈0918@ris.ac.jp〉に連絡すること | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 意見共有、能動的な授業外学習など | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0106401 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **地域経済特論４** | | | | | 苑　志佳 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本講義では、構造転換する中国経済を研究する。今年度の授業では、「地域経済特論３」に続き、数冊の著書を輪読する。授業運営は、院生諸君の報告、問題提起、論点をめぐる討論を中心に行う予定である。出席者には、レベルの高いコメントと価値のあるデイスカションを活発にしてもらいたい。 | | | | | | |
| 到達目標 | 本授業を履修することによって中国経済の諸問題を理解することができる。したがって、中国経済の関連課題を研究するテクニックを身につけることもできる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | １．この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。<br>２．毎週の授業終了後に参考文献や予習資料などを指定するので、これを予習する。<br>３．授業時に配布される教材や資料を復習し、次回の授業時に問題提起を考える。<br>４．授業の予定テーマに関連する資料を自ら収集し、これを持って授業討論に臨む。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】イントロダクション<br>【第２回】最新研究書籍の輪読・討論（１）<br>【第３回】最新研究書籍の輪読・討論（２）<br>【第４回】最新研究書籍の輪読・討論（３）<br>【第５回】最新研究書籍の輪読・討論（４）<br>【第６回】最新研究書籍の輪読・討論（５）<br>【第７回】最新研究書籍の輪読・討論（６）<br>【第８回】最新研究書籍の輪読・討論（７）<br>【第９回】最新研究書籍の輪読・討論（８）<br>【第10回】最新研究書籍の輪読・討論（９）<br>【第11回】最新研究書籍の輪読・討論（10）<br>【第12回】最新研究書籍の輪読・討論（11））<br>【第13回】最新研究書籍の輪読・討論（12）<br>【第14回】最新研究書籍の輪読・討論（13）<br>【第15回】総括 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | １．　授業への取り組み姿勢　50％、<br>２．プレゼンテーション30％、<br>３．討論参加20％。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 毎週の輪読課題、テーマに対する講評を翌週授業内冒頭にて行う。 | | | | | | |
| 教科書 | 『一帯一路は何をもたらしたか』廣野美和（勁草書房）2021年 | | | | | | |
| 指定図書 | 『米中経済摩擦の政治経済学』中本　悟・松村博行（晃洋書房）2022年 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 輪読図書、書籍は、最初授業の時に指示する。 | | | | | | |
| オフィスアワー | －月曜日３限<br>－品川キャンパス２号館508室<br>－事前に〈0918@ris.ac.jp〉に連絡すること | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 意見共有、能動的な授業外学習など | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0107101 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 経済学史特論３ | | | | | 小沢　佳史 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | この授業の目的は、経済学が現在の姿をとるに至った過程――経済学の歴史――を詳しく理解すること、そしてそれを通じて現在の経済学や自分の研究テーマに関する理解をさらに深めることである。そのためにこの授業では、主に19世紀の後半からの経済学の歴史をめぐり、履修者による報告と議論に基づいて教科書を輪読する。<br>なおこの授業は、博士後期課程「経済学史特研３」との合同授業である。 | | | | | | |
| 到達目標 | １．現在の経済学が誕生するまでのプロセスを、詳しく説明できる。<br>２．現在の経済学や自分の研究テーマについて、多様な概念・見解の関係やそれらの背景を説明できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、各回の授業の前に、全員が教科書の該当箇所を熟読し、報告者は報告を入念に準備すること。また各回の授業の後に、全員が授業の内容を振り返りながら、ノートや教科書・指定図書の該当箇所を何回もじっくりと読み込むこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス<br>【第２回】新古典派経済学①――ジェヴォンズ<br>【第３回】新古典派経済学②――ローザンヌ学派<br>【第４回】新古典派経済学③――オーストリア学派<br>【第５回】ケンブリッジ学派①――マーシャル<br>【第６回】ケンブリッジ学派②――マーシャルからケンブリッジ学派の展開へ<br>【第７回】ケンブリッジ学派③――ケインズの洞察力<br>【第８回】ケンブリッジ学派④――ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』<br>【第９回】新古典派経済学の成熟とそれに対する批判①――IS-LM 表<br>【第10回】新古典派経済学の成熟とそれに対する批判②――経済成長論<br>【第11回】新古典派経済学の成熟とそれに対する批判③――不完全競争論<br>【第12回】新古典派経済学の成熟とそれに対する批判④――スラッファ、ポスト・ケインジアン<br>【第13回】現代経済学の展開①――現代マクロ経済学<br>【第14回】現代経済学の展開②――情報と不確実性、ゲーム理論、進化経済学<br>【第15回】現代経済学の展開③――経済人類学、レギュラシオン、分析的マルクス経済学<br><br>※この進度や内容は目安であり、履修者と相談しながら進度や内容を適宜調整する。 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 報告（50％）と、議論を含む授業への取り組み姿勢（50％）によって評価する。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や議論について、授業内でフィードバックする。 | | | | | | |
| 教科書 | 『経済学史』喜多見洋，水田健 編著（ミネルヴァ書房）2012 | | | | | | |
| 指定図書 | 『学ぶほどおもしろい 経済学史』木村雄一，瀬尾崇，益永淳 著（晃洋書房）2022、『経済学史』小峯敦 著（ミネルヴァ書房）2021、『経済学史への招待』柳沢哲哉 著（社会評論社）2018、『経済思想』猪木武徳 著（岩波書店）2017、『新版 経済思想史――社会認識の諸類型』大田一廣，鈴木信雄，高哲男，八木紀一郎 編（名古屋大学出版会）2006、『経済学の歴史――市場経済を読み解く』中村達也，八木紀一郎，新村聡，井上義朗 著（有斐閣）2001、『経済学史』馬渡尚憲 著（有斐閣）1997、『経済学史』三土修平 著（新世社）1993、『若い読者のための経済学史』ナイアル・キシテイニー 著；月沢李歌子 訳（すばる舎）2018、『入門経済思想史 世俗の思想家たち』ロバート．L. ハイルブローナー 著；八木甫［ほか］訳（筑摩書房）2001 | | | | | | |
| 参考書 | 『私は、経済学をどう読んできたか』ロバート．L. ハイルブローナー 著；中村達也［ほか］訳（筑摩書房）2003、『写真で見る ヴィクトリア朝ロンドンの都市と生活』アレックス・ワーナー，トニー・ウィリアムズ 著；松尾恭子 訳（原書房）2013、『有斐閣経済辞典 第５版』金森久雄，荒憲治郎，森口親司 編（有斐閣）2013 | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 履修者による報告と議論に基づいて授業が進められるため、無断で欠席したり遅刻したりすることは基本的に認められない。 | | | | | | |
| オフィスアワー | この授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付ける。また授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内でも対応する。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション。 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0107201 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **経済学史特論４** | | | | | 小沢　佳史 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | この授業の目的は、経済学が現在の姿をとるに至った過程――経済学の歴史――を詳しく理解すること、そしてそれを通じて現在の経済学や自分の研究テーマに関する理解をさらに深めることである。そのためにこの授業では、主に19世紀の後半からの経済学の歴史をめぐり、履修者による報告と議論に基づいて古典を輪読する。<br>なおこの授業は、博士後期課程「経済学史特研４」との合同授業である。 |
| 到達目標 | １．現在の経済学が誕生するまでのプロセスを、古典に基づいて詳しく説明できる。<br>２．現在の経済学や自分の研究テーマについて、多様な概念・見解の関係やそれらの背景を説明できる。 |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、各回の授業の前に、全員が古典の該当箇所を熟読し、報告者は報告を入念に準備すること。また各回の授業の後に、全員が授業の内容を振り返りながら、ノートや古典・指定図書の該当箇所を何回もじっくりと読み込むこと。 |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス<br>【第２回】19世紀の後半からの経済学の大まかな歴史<br>【第３回】ケインズの思想と経済学<br>【第４回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』①――第１編（前半）<br>【第５回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』②――第１編（後半）<br>【第６回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』③――第２編（前半）<br>【第７回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』④――第２編（後半）<br>【第８回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑤――第３編（前半）<br>【第９回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑥――第３編（後半）<br>【第10回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑦――第４編（前半）<br>【第11回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑧――第４編（後半）<br>【第12回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑨――第５編（前半）<br>【第13回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑩――第５編（後半）<br>【第14回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑪――第６編（前半）<br>【第15回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑫――第６編（後半）<br><br>※この進度や内容は目安であり、履修者と相談しながら進度や内容を適宜調整・変更する。 |
| 成績評価の方法 | 報告（50％）と、議論を含む授業への取り組み姿勢（50％）によって評価する。 |
| フィードバックの内容 | 報告や議論について、授業内でフィードバックする。 |
| 教科書 | 『雇用、金利、通貨の一般理論』ジョン・メイナード・ケインズ 著；大野一 訳（日経 BP）2021、『雇用、利子、お金の一般理論』ジョン・メイナード・ケインズ 著；山形浩生 訳（講談社）2012、『雇用、利子および貨幣の一般理論 上』ジョン・メイナード・ケインズ 著；間宮陽介 訳（岩波書店）2008、『雇用、利子および貨幣の一般理論 下』ジョン・メイナード・ケインズ 著；間宮陽介 訳（岩波書店）2008、『雇用・利子および貨幣の一般理論 普及版』ジョン・メイナード・ケインズ 著；塩野谷祐一 訳（東洋経済新報社）1995 |
| 指定図書 | 『経済学史』喜多見洋，水田健 編著（ミネルヴァ書房）2012、『経済思想』猪木武徳 著（岩波書店）2017、『新版 経済思想史――社会認識の諸類型』大田一廣，鈴木信雄，高哲男，八木紀一郎 編（名古屋大学出版会）2006、『経済学史』馬渡尚憲 著（有斐閣）1997、『経済学史』三土修平 著（新世社）1993、『私は、経済学をどう読んできたか』ロバート．L. ハイルブローナー 著；中村達也［ほか］訳（筑摩書房）2003、『The History of Economic Thought: A Reader（Second Edition）』Steven G Medema, Warren J. Samuels（eds.）（Routledge）2013、『ケインズ――危機の時代の実践家』伊藤宣広 著（岩波書店）2023、『ケインズ 説得論集』ジョン・メイナード・ケインズ 著；山岡洋一 訳（日経 BP 日本経済新聞出版本部）2021、『ケインズ――時代と経済学』吉川洋 著（筑摩書房）1995 |
| 参考書 | 『写真で見る ヴィクトリア朝ロンドンの都市と生活』アレックス・ワーナー，トニー・ウィリアムズ 著；松尾恭子 訳（原書房）2013、『有斐閣経済辞典 第５版』金森久雄，荒憲治郎，森口親司 編（有斐閣）2013 |
| 教員からのお知らせ | 履修者による報告と議論に基づいて授業が進められるため、無断で欠席したり遅刻したりすることは基本的に認められない。<br>またこの授業は、「経済学史特論３」の内容を前提にして進められる。 |
| オフィスアワー | この授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付ける。また授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内でも対応する。 |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション。 |
| その他 | |

| 講義コード | 12C0107501 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 日本経済論特論３ | | | | | 村田　啓子 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 経済学の理論を実体経済に応用するには、理論、データ、制度を踏まえた論考が必要となる。本講義では、ミクロ経済学・マクロ経済学及び計量経済学の基礎知識を持つ学生を対象に、現代日本経済の動向とその背景を理解するとともに、実施された政策や問題点についても学ぶ。それにより実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考えていく能力を養い、併せて自らの研究課題について鳥瞰的な視野からも思考する能力の育成を目指す。<br>なお、本講義は博士後期課程の「日本経済特研３」との合同授業である。 | | | | | | |
| 到達目標 | 日本経済の現状と課題及びそれらに関する基本データを理解した上で批判的に検討・分析するための能力が身につき、併せて論文執筆のための研究課題の選定及び論考能力が向上する。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 授業で指定されるリーディングリストを事前に読み、理解する。自身の学習・研究目的も踏まえ予習・復習を行う。授業外に合計60時間以上の学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】概論・ガイダンス<br>【第２回】国民経済計算からみた日本経済<br>【第３回】文献等の輪読、質問及び討論（１）<br>【第４回】文献等の輪読、質問及び討論（２）<br>【第５回】文献等の輪読、質問及び討論（３）<br>【第６回】文献等の輪読、質問及び討論（４）<br>【第７回】文献等の輪読、質問及び討論（５）<br>【第８回】文献等の輪読、質問及び討論（６）<br>【第９回】文献等の輪読、質問及び討論（７）<br>【第10回】文献等の輪読、質問及び討論（８）<br>【第11回】文献等の輪読、質問及び討論（９）<br>【第12回】文献等の輪読、質問及び討論（10）<br>【第13回】文献等の輪読、質問及び討論（11）<br>【第14回】文献等の輪読、質問及び討論（12）<br>【第15回】文献等の輪読、質問及び討論（13） | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み姿勢（40％）及び期末レポート（60％）により総合的に判定します。第１回講義で説明します。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 輪読、討論などの内容について講義内で講評・解説を行います。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける（事前にメールで連絡すること）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 講義内容に関するディスカッションを行います。 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0107601 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 日本経済論特論４ | | | | | 村田　啓子 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 経済学の理論を実体経済に応用するには、理論、データ、制度を踏まえた論考が必要となる。本講義では、ミクロ経済学・マクロ経済学及び計量経済学の基礎知識を持つ学生を対象に、現代日本経済の動向とその背景を理解するとともに、実施された政策や問題点についても学ぶ。それにより実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考えていく能力を養い、併せて自らの研究課題について鳥瞰的な視野からも思考する能力の育成を目指す。<br>なお、本講義は博士後期課程の「日本経済特研４」との合同授業である。 | | | | | | |
| 到達目標 | 日本経済の現状と課題及びそれらに関する基本データを理解した上で批判的に検討・分析するための能力が身につき、併せて論文執筆のための研究課題の選定及び論考能力が向上する。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 各自がテーマを選定し、自身の学習・研究を進め発表の準備を行う。発表後は得た質問、討議なども踏まえ自らの理解を適宜修正・発展させる。授業外に合計60時間以上の学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】概論・ガイダンス<br>【第２回】文献等の輪読、質問及び討論（１）<br>【第３回】文献等の輪読、質問及び討論（２）<br>【第４回】文献等の輪読、質問及び討論（３）<br>【第５回】文献等の輪読、質問及び討論（４）<br>【第６回】文献等の輪読、質問及び討論（５）<br>【第７回】文献等の輪読、質問及び討論（６）<br>【第８回】文献等の輪読、質問及び討論（７）<br>【第９回】文献等の輪読、質問及び討論（８）<br>【第10回】文献等の輪読、質問及び討論（９）<br>【第11回】文献等の輪読、質問及び討論（10）<br>【第12回】文献等の輪読、質問及び討論（11）<br>【第13回】文献等の輪読、質問及び討論（12）<br>【第14回】文献等の輪読、質問及び討論（13）<br>【第15回】文献等の輪読、質問及び討論（14） | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み姿勢（40％）及び期末レポート（60％）により総合的に判定します。第１回講義で説明します。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 学生が選定したテーマやそれに関するリーディングリスト等を配布するほか、発表・質問・討論内容についてコメントを行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける（事前にメールで連絡すること）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 講義内容に関するディスカッションを行います。 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0107901 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **労働経済学特論３** | | | | | 戎野　淑子 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | 受講生の研究テーマに基づき、内容を検討したい。具体的な授業については、毎回輪読を実施し、実態調査なども資料にしながら、議論を行う。<br>なお、本講義は、大学院博士後期課程「労働経済学特研１」との合同である。 |
| 到達目標 | 「労働経済学特論３」<br>各自の研究テーマに関連する労働事情や労働問題等について理解できる。<br>「労働経済学特研３」<br>各自の研究テーマに関連する労働事情や労働問題等について理解できる。 |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 「労働経済学特論３」<br>輪読の準備、自分の研究課題についての発表準備<br>(60時間を必要とする)<br>「労働経済特研３」<br>輪読の準備、自分の研究課題についての発表準備<br>(60時間を必要とする) |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス：ゼミの進め方を説明し、テーマ等について相談し決める。<br>【第２回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(１)<br>【第３回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(２)<br>【第４回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(３)<br>【第５回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(４)<br>【第６回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(５)<br>【第７回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(６)<br>【第８回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(７)<br>【第９回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(８)<br>【第10回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(９)<br>【第11回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(10)<br>【第12回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(11)<br>【第13回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(12)<br>【第14回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(13)<br>【第15回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(14) |
| 成績評価の方法 | レポート50%、授業での発表・討論50% |
| フィードバックの内容 | フィードバックは次回授業までに行う |
| 教科書 | 『Emloyment Relations』Ed Rose（Printice Hall）2008、『雇用システム論』佐口和郎（有斐閣）2018 |
| 指定図書 | 『労働経済白書』厚生労働省（日経印刷株式会社）2023年 |
| 参考書 | |
| 教員からのお知らせ | |
| オフィスアワー | 水曜日お昼休み |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 毎回課題を行い、次週にそのフィードバックを行う。 |
| その他 | |

| 講義コード | 12C0108001 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **労働経済学特論４** | | | | | 戎野　淑子 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | 受講生と相談し、興味関心あるテーマを選びたい。ただ、まず、広く雇用問題に焦点をあて、文献研究を行い、特に、日本の雇用関係の変容について、歴史的な比較分析とともに国際比較を行う。そして、その中で、具体的テーマを絞っていく予定である。授業の進め方は、毎回輪読を実施し、実態調査なども資料にしながら、議論を行う。<br>※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。 |
| 到達目標 | 「労働経済学特論４」<br>自分の研究テーマに関連のある労働事情や労働問題について理解を深めることができる。<br>「労働経済学特研４」<br>自分の研究テーマに関連のある労働事情や労働問題について理解を深めることができる。 |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 「労働経済学特論４」<br>輪読の準備、自分の論文の研究の準備<br>(60時間を必要とする)<br>「労働経済学特研４」<br>輪読の準備、自分の論文の研究の準備<br>(60時間を必要とする) |
| 授業計画 | 【第１回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(１)<br>【第２回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(２)<br>【第３回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(３)<br>【第４回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(４)<br>【第５回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(５)<br>【第６回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(６)<br>【第７回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(７)<br>【第８回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(８)<br>【第９回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(９)<br>【第10回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(10)<br>【第11回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(11)<br>【第12回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(12)<br>【第13回】各自の論文についての発表（１）<br>【第14回】各自の論文についての発表（２）<br>【第15回】各自の論文についての発表（３） |
| 成績評価の方法 | レポート70%、授業での発表・討論30% |
| フィードバックの内容 | フィードバックは次回授業までに行う |
| 教科書 | 『人的資本管理の力』白木三秀編著（文眞堂）2024年、『Employment Relations』Ed Rose（Printice Hall）2008 |
| 指定図書 | 『雇用システム論』佐口和郎（有斐閣）2018年 |
| 参考書 | 『労働経済白書』厚生労働省（日経印刷）2022年 |
| 教員からのお知らせ | |
| オフィスアワー | 水曜日お昼休み |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 毎回課題を行い、次週にそのフィードバックを行う。 |
| その他 | |

| 講義コード | 12C0108301 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **計量経済学特論３** | | | | | 宮川　幸三 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本講義では、産業構造分析の手法の１つとして産業連関分析を取り上げ、基礎的な分析手法を学ぶとともに、経済理論と経済データおよび現実の経済現象の結びつきを理解し、実証分析の考え方を習得することを目的としている。講義だけでなく、統計解析ソフトを用いた演習も行う。<br>なお、本講義は博士後期課程「計量経済学特研３」との合同授業である。 | | | | | | |
| 到達目標 | 産業連関分析の基礎的な手法を習得できる。<br>産業連関表および産業関連統計に関する体系的知識を身につけることができる。<br>統計解析用ソフトウェアの基礎的な使用方法を習得できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。<br>授業外学修では、授業の内容を理解するために予習・復習をすること。<br>またPCの操作方法について独学すること。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】本講義の目的と概要<br>【第２回】産業構造とは何か－レオンティエフの分析視点<br>【第３回】産業連関表の見方<br>【第４回】均衡産出高モデル１<br>【第５回】均衡産出高モデル２<br>【第６回】輸入内生化モデル１<br>【第７回】輸入内生化モデル２<br>【第８回】スカイライン分析１<br>【第９回】スカイライン分析２<br>【第10回】経済センサスと産業連関表<br>【第11回】供給・使用表（SUT）とシンメトリック産業連関表の体系<br>【第12回】RAS法<br>【第13回】産業連関表とGDP統計<br>【第14回】分類体系と産業連関表<br>【第15回】まとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み姿勢（30%）、授業中に課された課題（30%）、期末レポート（40%）によって評価する。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 課題に対する講評を授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | 『日中連関構造の経済分析』日中連関構造の経済分析（勁草書房）2016 | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 経済学部レベルで習得すべき統計学、経済学およびパソコンの操作に関する知識を前提として授業を行う。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、講義案内で示したオフィスアワーにおいて受付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、演習 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0108401 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **計量経済学特論４** | | | | | 宮川　幸三 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本講義では、産業構造分析の手法の１つとして産業連関分析を取り上げ、基礎的な分析手法を学ぶとともに、経済理論と経済データおよび現実の経済現象の結びつきを理解し、実証分析の考え方を習得することを目的としている。計量経済学特論３で学んだ内容を前提としながら、産業構造分析の応用事例を紹介すると同時に、実際のデータを用いて分析演習を行う。<br>なお、本講義は博士後期課程「計量経済学特研４」との合同授業である。 | | | | | | |
| 到達目標 | 様々な応用分析の手法を習得できる。<br>適切な手法を用いて実証分析を行うことができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。<br>授業外学修では、授業の内容を理解するために予習・復習をすること。<br>またPCの操作方法について独学すること。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】国際貿易の効果－日中国際産業連関表による波及効果分析１<br>【第２回】国際貿易の効果－日中国際産業連関表による波及効果分析２<br>【第３回】地域格差と国際貿易－日中国際地域間産業連関表による分析１<br>【第４回】地域格差と国際貿易－日中国際地域間産業連関表による分析２<br>【第５回】貿易と産業構造変化－規模別日中国際産業連関表による分析１<br>【第６回】貿易と産業構造変化－規模別日中国際産業連関表による分析２<br>【第７回】PPPと競争力評価－日米国際産業連関表による価格分析１<br>【第８回】PPPと競争力評価－日米国際産業連関表による価格分析２<br>【第９回】PPPと競争力評価－日米国際産業連関表による価格分析３<br>【第10回】経済発展の構造分析－接続産業連関表による要因分析１<br>【第11回】経済発展の構造分析－接続産業連関表による要因分析２<br>【第12回】マイクロデータを用いた産業構造分析１<br>【第13回】マイクロデータを用いた産業構造分析２<br>【第14回】マイクロデータを用いた産業構造分析３<br>【第15回】まとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み姿勢（30%）、授業中に課された課題（30%）、期末レポート（40%）によって評価する。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 課題に対する講評を授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | 『日中連関構造の経済分析』日中連関構造の経済分析（勁草書房）2016 | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 経済学部レベルで習得すべき統計学、経済学およびパソコンの操作に関する知識と計量経済学特論３の内容を前提として授業を行う。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、講義案内で示したオフィスアワーにおいて受付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、演習 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0109101 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **日本経済史特論３** | | | | | 髙橋　美由紀 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 日本経済の歴史を学ぶ。この授業では、19世紀後半から20世紀前半までを取り扱い、教科書を一緒に音読しながら考えていく。ただし、履修者の希望に添った内容に変更することもある。<br>※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 日本経済の歴史（19世紀後半初頭から20世紀前半まで）について多面的な視点から論述できること。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 教科書を講義前に予習しておくこと。また、講義で提示された内容について復習しておくこと。<br>（計65時間） | | | | | | |
| 授業計画 | 教科書　第Ⅱ部・第Ⅲ部（19世紀後半から20世紀前半の日本経済）<br>【第１回】環境と経済活動<br>【第２回】商法の制定と金本位制<br>【第３回】国際収支の天井と経済政策<br>【第４回】産業革命と工業化<br>【第５回】地主制の展開と植民地農業<br>【第６回】交通網の変容と商品流通<br>【第７回】都市化と生活環境<br>【第８回】ジェンダー・労働市場研究の新展開<br>【第９回】モダニズムと大衆消費社会<br>【第10回】ブロック経済から金ドル本位制へ<br>【第11回】高橋財政から戦後経済政策へ<br>【第12回】財界論<br>【第13回】「内需」主導の重化学工業化<br>【第14回】地主制の後退と戦後農政<br>【第15回】大規模小売商と流通系列 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 講義における報告（60%）、授業態度（40%）。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 講義内で質問を確認し回答する。また、提出物がある場合は翌週に返却する。 | | | | | | |
| 教科書 | 『日本経済の歴史　列島経済史入門』中西　聡（名古屋大学出版会）2013 | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 講義内容は、履修者の希望等により変更する場合がある。Microsoft Teams で Team を作るので、ポータルサイトで案内する Team コードを確認して、授業開始までにメンバー登録をすること。<br>教科書は初版の物でも構わないが、新しく購入する場合は極力2018年発行の第３刷を購入すること。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 月曜２限。事前に必ず連絡すること。<br>メールやチャットにても受け付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 授業内で自分の意見を述べることを毎回行っている。 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0109201 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **日本経済史特論４** | | | | | 髙橋　美由紀 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 20世紀の日本経済の歴史を中心に学ぶ。また、履修者の希望に添った内容に変更することもある。<br>※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 20世紀の日本経済の歴史について具体的に論述できること。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 教科書の該当部分を講義前に予習しておくこと。また、講義で提示された内容について復習しておくこと。<br>（計65時間） | | | | | | |
| 授業計画 | 教科書『日本経済の歴史』第Ⅲ部を中心に扱う（20世紀の日本経済）<br>【第１回】大衆消費社会の実像<br>【第２回】国際通貨システムの動揺と円高の進展　①<br>【第３回】国際通貨システムの動揺と円高の進展　②<br>【第４回】財政再建と金融。・証券の自由化<br>【第５回】「外需」主導の産業構造　①<br>【第６回】「外需」主導の産業構造　②<br>【第７回】トヨタ生産方式の展開<br>【第８回】国際化のなかの日本農業<br>【第９回】流通再編と消費の多様化<br>【第10回】日本経済の新しい課題<br>【第11回】日本における社会福祉研究の新展開<br>【第12回】科学技術と経済活動　①<br>【第13回】科学技術と経済活動　②<br>【第14回】明日への模索<br>【第15回】日本経済の歴史を学ぶ<br><br>各授業では関係する著作等について一緒に輪読をおこなう。 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 講義における報告（60%）、授業態度（40%）。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 毎回の講義で質疑応答をおこなう。また、提出物を課した場合には翌週に添削をして返却する。 | | | | | | |
| 教科書 | 『日本経済の歴史　列島経済史入門』中西　聡（名古屋大学出版会）2013 | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 講義内容は、履修者の希望等により変更する場合がある。Microsoft Teams で Team を作るので、ポータルサイトで案内する Team コードを確認して、授業開始までにメンバー登録をすること。<br>教科書を新たに購入する場合は、2018年発行の第３刷を購入すること。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 月曜２限。事前に必ず連絡すること。<br>メールおよびチャット等で随時受け付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 毎回の授業においては自己の考えを述べてもらっている。 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0109501 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **西洋経済史特論３** | | | | | 平　伊佐雄 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本特論は、ヨーロッパ中世の商業活動の実態を学ぶことによって、前近代における経済活動の歴史の外殻をその一端であれ捉えることを目的とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | 中世ヨーロッパにおける商業活動（仕組みやネットワーク性）が現在の商業活動とどのように関連しているのか、また、その理論的な要素を歴史の中から見いだし説明できるようになる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 事前事後学修に４時間（計60時間）以上が必要である。<br>授業外学修では、本講義の内容の復習、次回内容の予習を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】Power and Profit, chap. 1 の解説<br>【第２回】Power and Profit, chap. 1 の解説<br>【第３回】Power and Profit, chap. 1 の解説<br>【第４回】Power and Profit, chap. 1 の解説<br>【第５回】Power and Profit, chap. 1 の解説<br>【第６回】Power and Profit, chap. 1 の解説<br>【第７回】Power and Profit, chap. 1 の解説<br>【第８回】Power and Profit, chap. 1 の解説<br>【第９回】Power and Profit, chap. 1 の解説<br>【第10回】Power and Profit, chap. 2 の解説<br>【第11回】Power and Profit, chap. 2 の解説<br>【第12回】Power and Profit, chap. 2 の解説<br>【第13回】Power and Profit, chap. 2 の解説<br>【第14回】Power and Profit, chap. 2 の解説<br>【第15回】Power and Profit, chap. 2 の解説 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 講義中のレポートにて評価する（100%）。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 講義中の疑問点や学生の講義内容レポートに対して、次回以降の講義で講評を加える。 | | | | | | |
| 教科書 | 『Power and Profit. The Merchant in Medieval Europe』P.Spufford（Thames & Hudson）2002、『The Cambridge Economic History, II-V』M.M.Postan（Cambridge）1987、『Deutsche Rechtsgeschichte』U. Eisenhardt（Beck）2004、『Handbuch der Wirtschafts- und Sozialgeschichte』F.W.Henning（Schoenigh）1991、『The New Cambridge Medieval History V&VI』D.Abulafia,M.Jones（Cambridge）1999-2000、『A History of Business in Medieval Europe, 1200-1550』E.Hunt, J. Murray（Cambridge）1999、『An Economic and Social History of Later Medieval Europe, 1000-1500』Steven.A.Epstein（Cambridge）2009、『Why the Middle Ages Matter:Medieval Light on Modern Injustice.』C.Chazelle,S.Doubleday, F.Lifshitz（Routlegde）2012 | | | | | | |
| 指定図書 | 『西洋中世史事典　I』シュルツェ（ミネルヴァ書房）1997、『西洋中世史事典　II』シュルツェ（ミネルヴァ書房）2005、『ドイツ法制史概説　改訂版』ミッタイス・リーベリッヒ（創文社）1971、『概説西洋法制史』勝田編（ミネルヴァ書房）2004、『フランス法制史概説』マルタン（創文社）1986、『イングランド法制史概説』ベイカー（創文社）1975、『中世の商業革命』ロペス（法政大学出版局）2007 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 適切な訳語や概念、その意味などは講義中に解説するが、受講者は、各自、日本語試訳をあらかじめ授業外で行い、質問事項を用意しておくことが望ましい。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、経済学部にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 受講生側でこちらから提供した課題についての反転授業や講義内容についての意見共有を行う。 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0109601 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **西洋経済史特論４** | | | | | 平　伊佐雄 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本特論は、ヨーロッパ中世の商業活動の実態を学ぶことによって、前近代における経済活動の歴史の外殻をその一端であれ捉えることを目的とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | 中世ヨーロッパにおける商業活動（仕組みやネットワーク性）が現在の商業活動とどのように関連しているのか、また、その理論的な要素を歴史の中から見いだし説明できるようになる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 事前事後学修に４時間（計60時間）以上が必要である。<br>授業外学修では、本講義の内容の復習、次回内容の予習を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】Power and Profit, chap. 2 の解説<br>【第２回】Power and Profit, chap. 2 の解説<br>【第３回】Power and Profit, chap. 2 の解説<br>【第４回】Power and Profit, chap. 3 の解説<br>【第５回】Power and Profit, chap. 3 の解説<br>【第６回】Power and Profit, chap. 3 の解説<br>【第７回】Power and Profit, chap. 3 の解説<br>【第８回】Power and Profit, chap. 3 の解説<br>【第９回】Power and Profit, chap. 3 の解説<br>【第10回】Power and Profit, chap. 3 の解説<br>【第11回】Power and Profit, chap. 3 の解説<br>【第12回】Power and Profit, chap. 3 の解説<br>【第13回】Power and Profit, chap. 3 の解説<br>【第14回】Power and Profit, chap. 3 の解説<br>【第15回】Power and Profit, chap. 3 の解説 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 講義中に課した小レポートにて評価する（100%）。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 講義中の疑問点や学生の講義内容レポートに対して、次回以降の講義で講評を加える。 | | | | | | |
| 教科書 | 『Power and Profit. The Merchant in Medieval Europe』P.Spufford（Thames & Hudson）2002、『The Cambridge Economic History, II-V』M.M.Postan（Cambridge）1987、『Deutsche Rechtsgeschichte』U. Eisenhardt（Beck）2004、『Handbuch der Wirtschafts- und Sozialgeschichte』F.W.Henning（Schoenigh）1991、『The New Cambridge Medieval History V&VI』D.Abulafia,M.Jones（Cambridge）1999-2000、『A History of Business in Medieval Europe, 1200-1550』E.Hunt, J. Murray（Cambridge）1999、『An Economic and Social History of Later Medieval Europe, 1000-1500』Steven.A.Epstein（Cambridge）2009、『Why the Middle Ages Matter:Medieval Light on Modern Injustice.』C.Chazelle,S.Doubleday, F.Lifshitz（Routlegde）2012 | | | | | | |
| 指定図書 | 『西洋中世史事典　I』シュルツェ（ミネルヴァ書房）1997、『西洋中世史事典　II』シュルツェ（ミネルヴァ書房）2005、『ドイツ法制史概説　改訂版』ミッタイス・リーベリッヒ（創文社）1971、『概説西洋法制史』勝田編（ミネルヴァ書房）2004、『フランス法制史概説』マルタン（創文社）1986、『イングランド法制史概説』ベイカー（創文社）1975、『中世の商業革命』ロペス（法政大学出版局）2007 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 適切な訳語や概念、その意味などは講義中に解説するが、受講者は、各自、日本語試訳をあらかじめ授業外で行い、質問事項を用意しておくことが望ましい。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 反転授業や講義内容についての意見共有を行う。 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0109901 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **経済数学特論３** | | | | | 小林　幹 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本講義では、微分と積分の基礎知識と計算力を身に付けることを主な目的とする。<br>さらに、それらの知識を経済学の問題に応用出来ることも目的とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | ・数学的思考を身に付ける。<br>・微分積分の知識を身に付ける。<br>・計算問題が解ける。<br>・応用問題が解ける。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 上記に記した授業外の学修は60時間以上行うこと。特に毎授業後の復習は欠かさずに行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス（微分について）<br>【第２回】数列、関数の極限<br>【第３回】微分の定義と計算<br>【第４回】微分係数、導関数<br>【第５回】高次微分、関数の極大極小、グラフの描き方<br>【第６回】Taylor の定理とその応用<br>【第７回】微分の経済学への応用１<br>【第８回】微分の経済学への応用２<br>【第９回】ガイダンス（積分について）<br>【第10回】積分の定義（不定積分と定積分）<br>【第11回】積分の計算１<br>【第12回】積分の計算２<br>【第13回】積分の応用<br>【第14回】積分の経済学への応用<br>【第15回】まとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 講義中に出題するレポート課題（20%）と最終レポート課題（80%）により評価する。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | | | | | | | |
| 教科書 | 『経済数学15講』小林幹、吉田博之（新世社）2020年 | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | 『明解演習 微分積分』小寺平治（共立出版）1984 | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 教員からのフィードバックによる振り返り。 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0110001 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **経済数学特論４** | | | | | 小林　幹 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本講義では、多変数関数の微分に関する知識と計算力を身に付けることを主な目的とする。<br>さらに、それらの知識を経済学の問題に応用出来ることも目的とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | ・数学的思考を身に付ける。<br>・偏微分の知識を身に付ける。<br>・計算問題が解ける。<br>・簡単な応用問題が解ける。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 上記に記した授業外の学修は60時間以上行うこと。とくに毎授業後の復習は欠かさず行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス（１変数関数の微分についての復習）<br>【第２回】多変数関数<br>【第３回】多変数関数の極限と連続性<br>【第４回】偏微分の定義<br>【第５回】全微分の定義<br>【第６回】偏微分と接平面<br>【第７回】種々の多変数関数における偏導関数１<br>【第８回】種々の多変数関数における偏導関数２<br>【第９回】高階偏微分<br>【第10回】テイラーの定理<br>【第11回】多変数関数の極大極小<br>【第12回】ラグランジュの未定乗数法<br>【第13回】経済学への応用 １<br>【第14回】経済学への応用 ２<br>【第15回】まとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 講義で課される課題（20%）と最終レポート（80%）により総評価する。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | | | | | | | |
| 教科書 | 『経済数学15講』小林幹、吉田博之（新世社）2020年 | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 教員からのフィードバックによる振り返り。 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0110101 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **国際文化特論１** | | | | | 田中　有紀 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | この授業では、儒家による音楽に関する様々な理論をとりあげ、音楽とは何か、芸術とは何かを考えていきます。 |
| 到達目標 | ・中国音楽史の特徴をつかみ、説明することができる。<br>・音楽や芸術に関する様々な論文を読み、的確に要約し、批判することができる。<br>・自分なりの音楽観・芸術観と授業で学んだことを関連付けながら議論することができる。 |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。<br>授業外学修では、あらかじめ論文を読解し、その内容をまとめた資料を作成すること。<br>また、第14回・15回は参加者によるプレゼンテーションを予定しており、その準備をしておくこと。 |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス<br>【第２回】国楽とは何か<br>（論文）榎本泰子『楽人の都・上海』<br>【第３回】音楽の「正しさ」<br>（論文）田中有紀「朱子学における孟子の今楽思想の展開」<br>【第４回】荀子における礼と楽<br>（論文）池田知久「荀子の性悪説」<br>【第５回】音楽と喜怒哀楽<br>（論文）張前著、石黒健一訳「『声無哀楽論』を読む」、嵇康『声無哀楽論』、シンフォニア、1998、pp.33-50<br>【第６回】中華とは何か<br>（論文）中純子『詩人と音楽』、知泉書館、2008、pp.241-264<br>【第７回】楽器を並べるとはどういうことか<br>（論文）田中有紀「北宋雅楽における八音の思想：北宋楽器論と陳暘『楽書』、大晟楽」、『中国哲学研究』23、2008、pp.38-94<br>【第８回】【第９回】朱子語類「楽」を読む<br>（史料）朱子語類「楽」<br>【第10回】「伝統音楽」とは何か<br>（論文）長井尚子「琴瑟和せず：音楽考古学のパイオニアたちの視点から再考する」、川原秀城編『中国の音楽文化：三千年の歴史と理論』、勉誠出版、2016、pp.45－67<br>【第11回】実証は理論を越えられるか<br>（論文）田中有紀「朱載堉の十二平均律における理論と実験」、同上、pp.88－119<br>【第12回】「踊ること」の意味<br>（史料）朱載堉『律呂精義』外篇巻九<br>【第13回】徐復観の美学研究<br>（論文）田中有紀「音楽と修養：移風易俗をめぐる考察」、『UP』566、2019.12、pp.16-22<br>【第14回】【第15回】参加者によるプレゼンテーション |
| 成績評価の方法 | 論文をまとめた資料の内容（70％）<br>プレゼンテーションの内容（30％） |
| フィードバックの内容 | 毎回の課題に対し、メールあるいは授業内で講評を行う。 |
| 教科書 | |
| 指定図書 | |
| 参考書 | |
| 教員からのお知らせ | 第１回の授業時に、授業で用いる論文を配布します。 |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。 |
| アクティブ・ラーニングの内容 | ディスカッション |
| その他 | |

| 講義コード | 12C0110201 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **国際文化特論２** | | | | | 田中　有紀 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | この授業では、中国の科学や技術に関する様々なテーマを扱い、科学とは何か、技術とは何か、またこれらの問題を通して、人間とは何かを考えていきます。 |
| 到達目標 | ・中国科学史に関する様々な論文を読み、的確に要約し、批判することができる。<br>・科学や技術と人間の関わりについて自分なりの見解を持ち、発表することができる。 |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。<br>授業外学修では、あらかじめ論文を読解し、その論文の内容を要約した資料を作成すること。<br>また、第14回・15回は参加者によるプレゼンテーションを予定しており、その準備をしておくこと。 |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス「中国科学の哲学化」<br>【第２回】中国の科学思想<br>（論文）藪内清「中国の科学思想」<br>【第３回】【第４回】技術と科学<br>（論文）村田純一『技術の哲学』、岩波書店、2009、p.39-71<br>【第５回】鉄の思想史<br>（論文）田中有紀「鉄の思想史」<br>【第６回】天文暦法１：漢代の学術と律暦思想<br>（論文）川原秀城「三統暦の世界」<br>【第７回】【第８回】天文暦法２：中国人の宇宙観<br>（論文）藪内清「中国の天文学の発達とその限界」「中国の宇宙構造論」、『藪内清著作集』第３巻、pp.246-258、pp.259-284、臨川書店、2018年<br>【第９回】天文暦法３：明末清初の天文学<br>（論文）藪内清「近世中国に伝えられた西洋天文学」、『藪内清著作集』第３巻、pp.237-245、臨川書店、2018年<br>【第10回】中国度量衡史<br>（論文）「朱子学の楽律思想」、『知のユーラシア：宇宙を駆ける知』、明治書院、2014<br>【第11回】『周礼』考工記の技術論<br>（論文）田中有紀「朱載堉の楽律論における『周礼』考工記・嘉量の制」、『経済学季報』63巻４号、pp.119-155<br>【第12回】数学：朱子学は術数学か<br>（論文）川原秀城「朱子学は術数学か」、『数と易の中国思想史』、勉誠出版、2018、pp.39-63<br>【第13回】新儒家の環境論<br>（論文）杜维明《存有的连续性：中国人的自然观》<br>【第14回】参加者によるプレゼンテーション<br>【第15回】参加者によるプレゼンテーション |
| 成績評価の方法 | 論文を要約した資料の内容（70％）<br>プレゼンテーションの内容（30％） |
| フィードバックの内容 | 毎回の課題に対し、メールあるいは授業内で講評を行う。 |
| 教科書 | |
| 指定図書 | |
| 参考書 | |
| 教員からのお知らせ | 第１回の授業時に授業で用いる論文を配布します。 |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。 |
| アクティブ・ラーニングの内容 | ディスカッション |
| その他 | |

| 講義コード | 12C0110501 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **地域文化特論１** | | | | | 真田　治子 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 看板や歌詞、誤変換など身近な素材を使って、日本語の構造・意味・用法を学ぶ。また受講者が収集した実例と合わせて討論や要約を行うことで、現代日本語の特徴について学び、正しい日本語で論文が書けるようにする。合わせて学術論文の基本的な構成と各章の役割について学び、研究目的を明確な表現で記述したり、研究目的に合わせた調査内容を設定したりする力を養成する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 実際に社会の中で使用されている日本語表現について、実例と理論を照合しながら適切な分析を行うことができる。研究目的を、調査内容と不一致がないように、明確な表現で記述できる。日本語の学術論文の記述にふさわしい表現や語彙を正しく使用できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。<br>毎回の授業の前には、次に読む章を下読みし、わからない語句は辞書等で確認しておくこと。<br>毎回の授業の後には、その授業で読んだ箇所についての要約を完成させ、自分で収集した実例についてコメントをまとめておくこと。<br>毎回の授業で学んだ表現・語彙、論文の書き方のポイントなどを、自分の論文作成にどのように生かすかを考えてコメントをまとめておくこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス<br>【第２回】看板の日本語（１）<br>【第３回】看板の日本語（２）<br>【第４回】看板の日本語（３）<br>【第５回】直訳日本語の特徴・無料翻訳サイトによる直訳（１）<br>【第６回】直訳日本語の特徴・無料翻訳サイトによる直訳（２）<br>【第７回】直訳日本語の特徴・無料翻訳サイトによる直訳（３）<br>【第８回】誤変換・言いまちがい（１）<br>【第９回】誤変換・言いまちがい（２）<br>【第10回】誤変換・言いまちがい（３）<br>【第11回】学術論文の構成（１）<br>【第12回】学術論文の構成（２）<br>【第13回】学術論文の研究計画（１）<br>【第14回】学術論文の研究計画（２）<br>【第15回】まとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み姿勢（30%）、授業中や授業後に作成する要約（40%）、レポート（30%） | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 課題に対する講評を後の授業の中で行う。 | | | | | | |
| 教科書 | 『私たちの日本語』定延利之・森篤嗣・茂木俊伸・金田純平（朝倉書店）2012年、『大学生と留学生のための論文ワークブック』浜田麻里・平尾得子・由井紀久子（くろしお出版）1997年 | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 上記以外の参考書は授業中に適宜指示する。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 意見共有、能動的な授業外学習など | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0110601 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **地域文化特論２** | | | | | 真田　治子 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 「ぼくはうなぎだ」（うなぎ文）や、「チョー」（超）のようなカタカナ表記など身近な素材を使って、日本語の構造・意味・用法を学ぶ。また受講者が収集した実例と合わせて討論や要約を行うことで、現代日本語の特徴について学び、正しい日本語で論文が書けるようにする。合わせて学術論文の基本的な構成と各章の役割について学び、研究目的を明確な表現で記述したり、研究目的に合わせた調査内容を設定したりする力を養成する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 実際に社会の中で使用されている日本語表現について、実例と理論を照合しながら適切な分析を行うことができる。研究目的を、調査内容と不一致がないように、明確な表現で記述できる。日本語の学術論文の記述にふさわしい表現や語彙を正しく使用できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。<br>毎回の授業の前には、次に読む章を下読みし、わからない語句は辞書等で確認しておくこと。<br>毎回の授業の後には、その授業で読んだ箇所についての要約を完成させ、自分で収集した実例についてコメントをまとめておくこと。<br>毎回の授業で学んだ表現・語彙、論文の書き方のポイントなどを、自分の論文作成にどのように生かすかを考えてコメントをまとめておくこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス<br>【第２回】学術論文の目的の書き方（１）<br>【第３回】学術論文の目的の書き方（２）<br>【第４回】学術論文にふさわしい表現（１）<br>【第５回】学術論文にふさわしい表現（２）<br>【第６回】うなぎ文・話しことばと書きことば（１）<br>【第７回】うなぎ文・話しことばと書きことば（２）<br>【第８回】うなぎ文・話しことばと書きことば（３）<br>【第９回】カタカナ表記の特徴（１）<br>【第10回】カタカナ表記の特徴（２）<br>【第11回】カタカナ表記の特徴（３）<br>【第12回】文字表現・フォントと声の対応（１）<br>【第13回】文字表現・フォントと声の対応（２）<br>【第14回】文字表現・フォントと声の対応（３）<br>【第15回】まとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み姿勢（30%）、授業中や授業後に作成する要約（40%）、レポート（30%） | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 課題に対する講評を後の授業の中で行う。 | | | | | | |
| 教科書 | 『私たちの日本語』定延利之・森篤嗣・茂木俊伸・金田純平（朝倉書店）2012年、『大学生と留学生のための論文ワークブック』浜田麻里・平尾得子・由井紀久子（くろしお出版）1997年 | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 意見共有、能動的な授業外学習など | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0110701 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **地域文化特論３** | | | | | 森山　秀二 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | 現在、中国は資本主義的な経済手法を導入して、社会主義体制を維持しつつ経済発展を実現させようという壮大な実験に取りかかって、はや三十数年を経過しました。いささか矛盾を孕んだ船出を疑問視する声をよそに、世界の「製造工場」とまで呼ばれた一時期も乗り越え、世界経済の動向を大きく左右する巨大市場へと成長を遂げました。もはや中国抜きに世界経済を語ることはできないでしょう。<br>超近代的なビル群の建ちならぶ経済発展を実現した中国諸都市の景観を眺めていると、儒教文化や道徳を背景とする伝統的な中国社会との大きな落差、隔たりを感じがちですが、伝統中国から現代に至る、一つの連続した国家・地域・民族の歴史文化として改めて見直してみると、それほどの隔たりがあるわけではなく、初期の漢民族のみの国家から、周辺諸民族との闘争や融合を通して、よりグローバルな多民族が共生し合う巨大国家へと、まさに「中華思想」を体現しつつ、この「中国」が形成されてきたことが理解されることでしょう。<br>しかし、習近平政権となった現在、アメリカとの貿易、経済を巡る対立が深刻化し、世界経済にも暗い影を落としています。こうした世界の主導権や最先端技術をめぐって、しのぎを削る対立の中で、中国は果たしてどこに向かって行こうとしているのでしょうか、みなさんとともに考えたいと思います。 |
| 到達目標 | この授業では、伝統中国社会のあり方を意識しつつ、現在の中国社会に起こる諸問題を取り上げて、それらを巨視的な解析することを通して、改めて現代「中国」に起こりつつあることの意味を問い直してみたいと思います。この授業を通して、みなさんには①中国の伝統社会における政治的な思想を理解でき、②中国における現在の経済社会情勢を理解でき、③現代世界における中国に対する考え方を認識できるよう取り組みたいと思います。十分にはできないとは思いますが、よろしくお願いします。 |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | この授業では主に新聞や雑誌等を資料（毎回教員が準備配布します）に、中国を中心とした現代社会の動向を追っかけたいと思っています。参加者は各自の参加意識に応じて、積極的にそうした資料や情報を検索、収集して、自身の問題意識を高めてください。この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 |
| 授業計画 | 【第１回】授業ガイダンス<br>【第２回】現代中国と伝統中国、概観①<br>【第３回】現代中国と伝統中国、概観②<br>【第４回】現代中国と伝統中国、概観③<br>【第５回】中国現代社会の実状、資料読解①<br>【第６回】中国現代社会の実状、資料読解②<br>【第７回】中国現代社会の実状、資料読解③<br>【第８回】中国現代社会の実状、資料読解④<br>【第９回】中国現代社会の実状、資料読解⑤<br>【第10回】中国現代社会の実状、資料読解⑥<br>【第11回】中国現代社会の実状、資料読解⑦<br>【第12回】中国現代社会の実状、資料読解⑧<br>【第13回】受講生発表①<br>【第14回】受講生発表②<br>【第15回】前期講義のまとめ |
| 成績評価の方法 | 授業中の発表１回（40%）、レポート１回（40%）を主な評価とするが、毎回の 授業への取り組み（10%）や、授業中の質問や意見・説明等も（10%）評価に取り入れる。 |
| フィードバックの内容 | 授業は一方的な講義形式ではなく、参考資料を一緒に読解しつつ、意見交換する形で進めます。その都度、進め方や資料探索、提供、解説等、希望に応じて対応する予定。 |
| 教科書 | |
| 指定図書 | |
| 参考書 | |
| 教員からのお知らせ | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。<br>森山のオフィスアワーは金曜日２時限を予定しています。その他、希望に応じ随時対応します。 |
| アクティブ・ラーニングの内容 | この授業はTeamsを使って資料提供したり、関連情報を検索したりしながら進めます。皆さんに発表頂く場合も、Teamsに自身のデータや情報をUPしていただく形で、行います。<br>実質的には資料を読みながら、演習のような形で、意見交換や理解の確認をしながら進めます。みなさんの積極的な発言を期待しています。 |
| その他 | |

| 講義コード | 12C0110801 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **地域文化特論４** | | | | | 森山　秀二 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | 現在、中国は資本主義的な経済手法を導入して、社会主義体制を維持しつつ経済発展を実現させようという壮大な実験に取りかかって、はや三十年が経過しました。いささか矛盾を孕んだ船出を疑問視する声をよそに、世界の「製造工場」とまで呼ばれた一時期も乗り越え、世界経済の動向を大きく左右する巨大市場へと成長を遂げました。もはや中国抜きに世界経済を語ることはできないでしょう。<br>超近代的なビル群の建ちならぶ経済発展を実現した中国諸都市の景観を眺めていると、儒教文化や道徳を背景とする伝統的な中国社会との大きな落差、隔たりを感じがちですが、伝統中国から現代に至る、一つの連続した国家・地域・民族の歴史文化として改めて見直してみると、それほどの隔たりがあるわけではなく、初期の漢民族のみの国家から、周辺諸民族との闘争や融合を通して、よりグローバルな多民族が共生し合う巨大国家へと、まさに「中華思想」を体現しつつ、この「中国」が形成されてきたことが理解されることでしょう。<br>しかし、習近平政権となった現在、アメリカとの貿易、経済を巡る対立が深刻化し、世界経済にも暗い影を落としています。こうした世界の主導権や最先端技術をめぐって、しのぎを削る対立の中で、中国は果たしてどこに向かって行こうとしているのでしょうか、みなさんとともに考えたいと思います。 |
| 到達目標 | この授業では、伝統中国社会のあり方を意識しつつ、現在の中国社会に起こる諸問題を取り上げて、それらを巨視的な解析することを通して、改めて現代「中国」に起こりつつあることの意味を問い直してみたいと思います。この授業を通して、みなさんには①中国の伝統社会における政治的な思想を理解でき、②中国における現在の経済社会情勢を理解でき、③現代世界における中国に対する考え方を認識できるよう取り組みたいと思います。十分にはできないとは思いますが、よろしくお願いします。 |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | この授業では主に新聞や雑誌等を資料（毎回教員が準備配布します）に、中国を中心とした現代社会の動向を追っかけたいと思っています。参加者は各自の参加意識に応じて、積極的にそうした資料や情報を検索、収集して、自身の問題意識を高めてください。この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 |
| 授業計画 | 【第１回】初回ガイダンス 中国現代社会の実状、資料読解①<br>【第２回】中国現代社会の実状、資料読解②<br>【第３回】中国現代社会の実状、資料読解③<br>【第４回】中国現代社会の実状、資料読解④<br>【第５回】中国現代社会の実状、資料読解⑤<br>【第６回】中国現代社会の実状、資料読解⑥<br>【第７回】中国現代社会の実状、資料読解⑦<br>【第８回】中国現代社会の実状、資料読解⑧<br>【第９回】中国現代社会の実状、資料読解⑨<br>【第10回】中国現代社会の実状、資料読解⑩<br>【第11回】中国現代社会の実状、資料読解⑪<br>【第12回】中国現代社会の実状、資料読解⑫<br>【第13回】受講生発表①<br>【第14回】受講生発表②<br>【第15回】後期授業のまとめ、講評 |
| 成績評価の方法 | 授業中の発表１回（40%）、レポート１回（40%）を主な評価とするが、毎回の 授業への取り組み（10%）や、授業中の質問や意見・説明等も（10%）評価に取り入れる。 |
| フィードバックの内容 | 授業は一方的な講義形式ではなく、参考資料を一緒に読解しつつ、意見交換する形で進めます。その都度、進め方や資料探索、提供、解説等、希望に応じて対応する予定。 |
| 教科書 | |
| 指定図書 | |
| 参考書 | |
| 教員からのお知らせ | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。<br>森山のオフィスアワーは金曜日２時限を予定しています。その他、希望に応じ随時対応します。 |
| アクティブ・ラーニングの内容 | この授業はTeamsを使って資料提供したり、関連情報を検索したりしながら進めます。皆さんに発表頂く場合も、Teamsに自身のデータや情報をUPしていただく形で、行います。<br>実質的には資料を読みながら、演習のような形で、意見交換や理解の確認をしながら進めます。みなさんの積極的な発言を期待しています。 |
| その他 | |

| 講義コード | 12C0110901 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **特講１（通時的マクロ経済理論１）** | | | | | 慶田　昌之 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 経済成長と景気循環に関する通時的マクロ経済モデルの理解を深める。 | | | | | | |
| 到達目標 | 通時的マクロ経済モデルを用いて経済成長と景気循環に関する分析が可能となるように、モデルに習熟する。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | この講義の授業外学習時間は60時間必要である。教科書を読み、理解できない点を明らかにして講義に臨むこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】合理的期待形成仮説（１）<br>【第２回】合理的期待形成仮説（２）<br>【第３回】資産価格と資本蓄積<br>【第４回】新古典派成長モデル（１）<br>【第５回】新古典派成長モデル（２）<br>【第６回】新古典派成長モデルの実証的含意<br>【第７回】世代重複モデル（１）<br>【第８回】世代重複モデル（２）<br>【第９回】世代重複モデル（３）<br>【第８回】消費の恒常所得仮説<br>【第９回】調整費用とトービンのｑ（１）<br>【第10回】調整費用とトービンのｑ（２）<br>【第11回】消費パターンの平準化と資産価格<br>【第12回】不確実性と資産価格（１）<br>【第13回】不確実性と資産価格（２）<br>【第14回】資産市場と情報の伝達<br>【第15回】資産価格決定モデルの実証研究 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 講義内の小テストの成績による（100％）。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | | | | | | | |
| 教科書 | 『新しいマクロ経済学：クラシカルとケインジアンの邂逅』齊藤 誠（有斐閣）2006 | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | この講義内容を理解するためには、数学、特に微分の知識を必要とする。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 意見共有 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0110902 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **特講２（通時的マクロ経済理論２）** | | | | | 慶田　昌之 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 経済成長と景気循環に関する通時的マクロ経済モデルの理解を深める。 | | | | | | |
| 到達目標 | 通時的マクロ経済モデルを用いて経済成長と景気循環に関する分析が可能となるように、モデルに習熟する。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | この講義の授業外学習時間は60時間必要である。教科書を読み、理解できない点を明らかにして講義に臨むこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】新古典派成長モデルの含意と実証的事実（１）<br>【第２回】新古典派成長モデルの含意と実証的事実（２）<br>【第３回】情報の非対称性と資金調達（１）<br>【第４回】情報の非対称性と資金調達（２）<br>【第５回】担保と資金調達（１）<br>【第６回】担保と資金調達（２）<br>【第７回】協調の失敗：サーチ・モデル（１）<br>【第８回】協調の失敗：サーチ・モデル（２）<br>【第９回】内生的成長モデル（１）<br>【第10回】内生的成長モデル（２）<br>【第11回】内生的成長モデル（３）<br>【第12回】情報の不完全性と金融政策（１）<br>【第13回】情報の不完全性と金融政策（２）<br>【第14回】名目価格の硬直性と金融政策（１）<br>【第15回】名目価格の硬直性と金融政策（２） | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 講義内の小テストの成績による（100％）。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | | | | | | | |
| 教科書 | 『新しいマクロ経済学：クラシカルとケインジアンの邂逅』齊藤 誠（有斐閣）2006 | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | この講義内容を理解するためには、数学、特に微分の知識を必要とする。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 意見共有 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111702 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **演習Ⅰ(戎野)** | | | | | 戎野　淑子 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111703 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **演習Ⅰ(苑)** | | | | | 苑　志佳 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111704 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 演習Ⅰ(王在喆) | | | | | 王　在喆 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括<br>【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111705 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 演習Ⅰ(王ゼイ) | | | | | 王　ゼイ | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括<br>【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111707 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **演習Ⅰ(小沢佳)** | | | | | 小沢　佳史 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111709 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **演習Ⅰ(小野﨑)** | | | | | 小野﨑　保 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111711 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 演習Ⅰ(河原) | | | | | 河原　伸哉 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括<br>【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111712 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 演習Ⅰ(北原) | | | | | 北原　克宣 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括<br>【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111713 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 演習Ⅰ(慶田) | | | | | 慶田　昌之 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111714 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 演習Ⅰ(小林隆) | | | | | 小林　隆史 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111715 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **演習Ⅰ(小林幹)** | | | | | 小林　幹 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111716 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **演習Ⅰ(櫻井)** | | | | | 櫻井　一宏 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111717 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 演習Ⅰ(真田) | | | | | 真田　治子 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111719 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 演習Ⅰ(平) | | | | | 平　伊佐雄 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111720 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 演習Ⅰ(高橋) | | | | | 髙橋　美由紀 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111722 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 演習Ⅰ(外木) | | | | | 外木　好美 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111723 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **演習Ⅰ(中村)** | | | | | 中村　宗之 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括<br>【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111724 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **演習Ⅰ(林)** | | | | | 林　康史 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括<br>【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111725 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 演習Ⅰ(宮岡) | | | | | 宮岡　暁 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111726 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 演習Ⅰ(宮川) | | | | | 宮川　幸三 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111727 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **演習Ⅰ(村田)** | | | | | 村田　啓子 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111728 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **演習Ⅰ(森山)** | | | | | 森山　秀二 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111729 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 演習Ⅰ(山口) | | | | | 山口　和男 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括<br>【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111730 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 演習Ⅰ(吉田) | | | | | 吉田　友美 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括<br>【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111731 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **演習Ⅰ(渡部)** | | | | | 渡部　真弘 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、修士課程の新入生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成準備のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を涵養することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる重要な問題について説明できる。<br>2．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】研究課題選定の技法1<br>【第3回】研究課題選定の技法2<br>【第4回】研究課題選定の技法3<br>【第5回】学位論文の構想1<br>【第6回】学位論文の構想2<br>【第7回】学位論文の構想3<br>【第8回】学位論文の資料収集と読解1<br>【第9回】学位論文の資料収集と読解2<br>【第10回】学位論文の資料収集と読解3<br>【第11回】学位論文の資料収集と読解4<br>【第12回】学位論文の資料作成法1<br>【第13回】学位論文の資料作成法2<br>【第14回】学位論文の資料作成法3<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】学位論文の作成技法1<br>【第18回】学位論文の作成技法2<br>【第19回】学位論文の作成技法3<br>【第20回】学位論文の作成技法4<br>【第21回】論文作成1<br>【第22回】論文作成2<br>【第23回】論文作成3<br>【第24回】論文作成4<br>【第25回】論文作成5<br>【第26回】論文作成6<br>【第27回】論文作成7<br>【第28回】論文作成8<br>【第29回】論文作成9<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111801 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **演習Ⅱ(苑)** | | | | | 苑　志佳 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。<br>2．自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成（1）<br>【第3回】論文作成（2）<br>【第4回】論文作成（3）<br>【第5回】論文作成（4）<br>【第6回】論文作成（5）<br>【第7回】論文作成（6）<br>【第8回】論文作成（7）<br>【第9回】論文作成（8）<br>【第10回】論文作成（9）<br>【第11回】論文作成（10）<br>【第12回】論文作成（11）<br>【第13回】論文作成（12）<br>【第14回】論文作成（13）<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】論文作成（1）<br>【第18回】論文作成（2）<br>【第19回】論文作成（3）<br>【第20回】論文作成（4）<br>【第21回】論文作成（5）<br>【第22回】論文作成（6）<br>【第23回】論文作成（7）<br>【第24回】論文作成（8）<br>【第25回】論文作成（9）<br>【第26回】論文作成（10）<br>【第27回】論文作成（11）<br>【第28回】論文作成（12）<br>【第29回】論文作成（13）<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111802 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **演習Ⅱ(戎野)** | | | | | 戎野　淑子 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。<br>2．自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成（1）<br>【第3回】論文作成（2）<br>【第4回】論文作成（3）<br>【第5回】論文作成（4）<br>【第6回】論文作成（5）<br>【第7回】論文作成（6）<br>【第8回】論文作成（7）<br>【第9回】論文作成（8）<br>【第10回】論文作成（9）<br>【第11回】論文作成（10）<br>【第12回】論文作成（11）<br>【第13回】論文作成（12）<br>【第14回】論文作成（13）<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】論文作成（1）<br>【第18回】論文作成（2）<br>【第19回】論文作成（3）<br>【第20回】論文作成（4）<br>【第21回】論文作成（5）<br>【第22回】論文作成（6）<br>【第23回】論文作成（7）<br>【第24回】論文作成（8）<br>【第25回】論文作成（9）<br>【第26回】論文作成（10）<br>【第27回】論文作成（11）<br>【第28回】論文作成（12）<br>【第29回】論文作成（13）<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111803 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **演習Ⅱ(北原)** | | | | | 北原　克宣 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。<br>2．自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成（1）<br>【第3回】論文作成（2）<br>【第4回】論文作成（3）<br>【第5回】論文作成（4）<br>【第6回】論文作成（5）<br>【第7回】論文作成（6）<br>【第8回】論文作成（7）<br>【第9回】論文作成（8）<br>【第10回】論文作成（9）<br>【第11回】論文作成（10）<br>【第12回】論文作成（11）<br>【第13回】論文作成（12）<br>【第14回】論文作成（13）<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】論文作成（1）<br>【第18回】論文作成（2）<br>【第19回】論文作成（3）<br>【第20回】論文作成（4）<br>【第21回】論文作成（5）<br>【第22回】論文作成（6）<br>【第23回】論文作成（7）<br>【第24回】論文作成（8）<br>【第25回】論文作成（9）<br>【第26回】論文作成（10）<br>【第27回】論文作成（11）<br>【第28回】論文作成（12）<br>【第29回】論文作成（13）<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111805 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **演習Ⅱ(王在喆)** | | | | | 王　在喆 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。<br>2．自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成（1）<br>【第3回】論文作成（2）<br>【第4回】論文作成（3）<br>【第5回】論文作成（4）<br>【第6回】論文作成（5）<br>【第7回】論文作成（6）<br>【第8回】論文作成（7）<br>【第9回】論文作成（8）<br>【第10回】論文作成（9）<br>【第11回】論文作成（10）<br>【第12回】論文作成（11）<br>【第13回】論文作成（12）<br>【第14回】論文作成（13）<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】論文作成（1）<br>【第18回】論文作成（2）<br>【第19回】論文作成（3）<br>【第20回】論文作成（4）<br>【第21回】論文作成（5）<br>【第22回】論文作成（6）<br>【第23回】論文作成（7）<br>【第24回】論文作成（8）<br>【第25回】論文作成（9）<br>【第26回】論文作成（10）<br>【第27回】論文作成（11）<br>【第28回】論文作成（12）<br>【第29回】論文作成（13）<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111808 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **演習Ⅱ(河原)** | | | | | 河原　伸哉 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。<br>2．自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成（1）<br>【第3回】論文作成（2）<br>【第4回】論文作成（3）<br>【第5回】論文作成（4）<br>【第6回】論文作成（5）<br>【第7回】論文作成（6）<br>【第8回】論文作成（7）<br>【第9回】論文作成（8）<br>【第10回】論文作成（9）<br>【第11回】論文作成（10）<br>【第12回】論文作成（11）<br>【第13回】論文作成（12）<br>【第14回】論文作成（13）<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】論文作成（1）<br>【第18回】論文作成（2）<br>【第19回】論文作成（3）<br>【第20回】論文作成（4）<br>【第21回】論文作成（5）<br>【第22回】論文作成（6）<br>【第23回】論文作成（7）<br>【第24回】論文作成（8）<br>【第25回】論文作成（9）<br>【第26回】論文作成（10）<br>【第27回】論文作成（11）<br>【第28回】論文作成（12）<br>【第29回】論文作成（13）<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111809 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **演習Ⅱ(小林幹)** | | | | | 小林　幹 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。<br>2．自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成（1）<br>【第3回】論文作成（2）<br>【第4回】論文作成（3）<br>【第5回】論文作成（4）<br>【第6回】論文作成（5）<br>【第7回】論文作成（6）<br>【第8回】論文作成（7）<br>【第9回】論文作成（8）<br>【第10回】論文作成（9）<br>【第11回】論文作成（10）<br>【第12回】論文作成（11）<br>【第13回】論文作成（12）<br>【第14回】論文作成（13）<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】論文作成（1）<br>【第18回】論文作成（2）<br>【第19回】論文作成（3）<br>【第20回】論文作成（4）<br>【第21回】論文作成（5）<br>【第22回】論文作成（6）<br>【第23回】論文作成（7）<br>【第24回】論文作成（8）<br>【第25回】論文作成（9）<br>【第26回】論文作成（10）<br>【第27回】論文作成（11）<br>【第28回】論文作成（12）<br>【第29回】論文作成（13）<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111810 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **演習Ⅱ(髙橋)** | | | | | 髙橋　美由紀 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。<br>2．自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成（1）<br>【第3回】論文作成（2）<br>【第4回】論文作成（3）<br>【第5回】論文作成（4）<br>【第6回】論文作成（5）<br>【第7回】論文作成（6）<br>【第8回】論文作成（7）<br>【第9回】論文作成（8）<br>【第10回】論文作成（9）<br>【第11回】論文作成（10）<br>【第12回】論文作成（11）<br>【第13回】論文作成（12）<br>【第14回】論文作成（13）<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】論文作成（1）<br>【第18回】論文作成（2）<br>【第19回】論文作成（3）<br>【第20回】論文作成（4）<br>【第21回】論文作成（5）<br>【第22回】論文作成（6）<br>【第23回】論文作成（7）<br>【第24回】論文作成（8）<br>【第25回】論文作成（9）<br>【第26回】論文作成（10）<br>【第27回】論文作成（11）<br>【第28回】論文作成（12）<br>【第29回】論文作成（13）<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111901 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **演習Ⅲ(王在喆)** | | | | | 王　在喆 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。<br>2．自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成（1）<br>【第3回】論文作成（2）<br>【第4回】論文作成（3）<br>【第5回】論文作成（4）<br>【第6回】論文作成（5）<br>【第7回】論文作成（6）<br>【第8回】論文作成（7）<br>【第9回】論文作成（8）<br>【第10回】論文作成（9）<br>【第11回】論文作成（10）<br>【第12回】論文作成（11）<br>【第13回】論文作成（12）<br>【第14回】論文作成（13）<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】論文作成（1）<br>【第18回】論文作成（2）<br>【第19回】論文作成（3）<br>【第20回】論文作成（4）<br>【第21回】論文作成（5）<br>【第22回】論文作成（6）<br>【第23回】論文作成（7）<br>【第24回】論文作成（8）<br>【第25回】論文作成（9）<br>【第26回】論文作成（10）<br>【第27回】論文作成（11）<br>【第28回】論文作成（12）<br>【第29回】論文作成（13）<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 12C0111903 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **演習Ⅲ(櫻井)** | | | | | 櫻井　一宏 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する修士課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野に関する諸問題の発見能力およびそれら諸問題を解決するための分析能力を高め、延いては自らの研究課題を達成するに足る総合的な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題を発見し、それらを適切な方法で分析できる。<br>2．自らの研究課題を達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成（1）<br>【第3回】論文作成（2）<br>【第4回】論文作成（3）<br>【第5回】論文作成（4）<br>【第6回】論文作成（5）<br>【第7回】論文作成（6）<br>【第8回】論文作成（7）<br>【第9回】論文作成（8）<br>【第10回】論文作成（9）<br>【第11回】論文作成（10）<br>【第12回】論文作成（11）<br>【第13回】論文作成（12）<br>【第14回】論文作成（13）<br>【第15回】総括 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第17回】論文作成（1）<br>【第18回】論文作成（2）<br>【第19回】論文作成（3）<br>【第20回】論文作成（4）<br>【第21回】論文作成（5）<br>【第22回】論文作成（6）<br>【第23回】論文作成（7）<br>【第24回】論文作成（8）<br>【第25回】論文作成（9）<br>【第26回】論文作成（10）<br>【第27回】論文作成（11）<br>【第28回】論文作成（12）<br>【第29回】論文作成（13）<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0100901 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **環境政策特研１** | | | | | 吉田　友美 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 一般的に，外部不経済により環境問題は深刻化するので，市場に対する政府の介入（環境政策の実施）が必要になる．本講義では，環境問題が発生するメカニズム，外部不経済の是正のための環境政策の理論，環境政策の具体的事例，外部性の内部化の手段としての環境評価手法等について学ぶ．<br>なお，本講義は修士課程の「環境政策特論１」との合同授業である． | | | | | | |
| 到達目標 | （１）環境問題が発生するメカニズムについて，経済理論を用いて説明できるようになる．<br>（２）それぞれの環境政策について説明できるようになる．<br>（３）環境評価手法について説明できるようになる． | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | この科目では，60時間以上の授業外学修を行うこと．基本的に輪読の形式をとるので，報告者は事前に教科書を要約しプレゼン資料を作成のうえ，講義中にプレゼンを行うこと．加えて，プレゼン内容について復習も行うこと． | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】Introduction<br>【第２回】The Economic Approach: Property Rights, Externalities, and Environmental Problems １<br>【第３回】The Economic Approach: Property Rights, Externalities, and Environmental Problems ２<br>【第４回】Evaluating Trade-Offs: Benefit-Cost Analysis and Other Decision-Making Metrics １<br>【第５回】Evaluating Trade-Offs: Benefit-Cost Analysis and Other Decision-Making Metrics ２<br>【第６回】Valuing the Environment Methods １<br>【第７回】Valuing the Environment Methods ２<br>【第８回】Valuing the Environment Methods ３<br>【第９回】Dynamic Efficiency and Sustainable Development １<br>【第10回】Dynamic Efficiency and Sustainable Development ２<br>【第11回】Depletable Resource Allocation: The Role of Longer Time Horizons, Substitutes, and Extraction Cost １<br>【第12回】Depletable Resource Allocation: The Role of Longer Time Horizons, Substitutes, and Extraction Cost ２<br>【第13回】Energy: The Transition from Depletable to Renewable Resources １<br>【第14回】Energy: The Transition from Depletable to Renewable Resources ２<br>【第15回】Summery | | | | | | |
| 成績評価の方法 | プレゼン資料：40%，<br>プレゼン内容：60% | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 講義後，講評を実施． | | | | | | |
| 教科書 | 『Environmental and Natural Resource Economics』Thomas H. Tietenberg, Lynne Lewis（Routledge）2018年 | | | | | | |
| 指定図書 | 『Environmental and Natural Resource Economics』Thomas H. Tietenberg, Lynne Lewis（Routledge）2018年 | | | | | | |
| 参考書 | 『Environmental Economics』Charles D. Kolstad（Oxford Univ Pr）2010年 | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 毎週，木曜日５限<br>ただし，必ず事前にメールにてアポイントメントをとること．<br>メールアドレスは授業中に指示します． | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 課題の講評を実施 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0101001 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **環境政策特研２** | | | | | 吉田　友美 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | 一般的に，外部不経済により環境問題は深刻化するので，市場に対する政府の介入（環境政策の実施）が必要になる．本講義では，環境問題が発生するメカニズム，外部不経済の是正のための環境政策の理論，環境政策の具体的事例，外部性の内部化の手段としての環境評価手法等について学ぶ．<br>なお，本講義は修士課程の「環境政策特論２」との合同授業である． |
| 到達目標 | （１）環境問題が発生するメカニズムについて，経済理論を用いて説明できるようになる．<br>（２）それぞれの環境政策について説明できるようになる．<br>（３）環境評価手法について説明できるようになる． |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | この科目では，60時間以上の授業外学修を行うこと．基本的に輪読の形式をとるので，報告者は事前に教科書を要約しプレゼン資料作成のうえ，講義中にプレゼンを行うこと．加えて，プレゼン内容について復習も行うこと． |
| 授業計画 | 【第１回】Introduction<br>【第２回】Recyclable Resources: Minerals, Paper, Bottles, and E-Waste 1<br>【第３回】Recyclable Resources: Minerals, Paper, Bottles, and E-Waste 2<br>【第４回】Water: A confluence of Renewable and Depletable Resources 1<br>【第５回】Water: A confluence of Renewable and Depletable Resources 2<br>【第６回】Water: A confluence of Renewable and Depletable Resources 3<br>【第７回】A Locationally Fixed, Multipurpose Resource: Land 1<br>【第８回】A Locationally Fixed, Multipurpose Resource: Land 2<br>【第９回】A Locationally Fixed, Multipurpose Resource: Land 3<br>【第10回】Storable, Renewable Resources: Forests 1<br>【第11回】Storable, Renewable Resources: Forests 2<br>【第12回】Storable, Renewable Resources: Forests 3<br>【第13回】Common-Pool Resources: Commercially Valuable Fisheries 1<br>【第14回】Common-Pool Resources: Commercially Valuable Fisheries 2<br>【第15回】Summery |
| 成績評価の方法 | プレゼン資料：40%，<br>プレゼン内容：60% |
| フィードバックの内容 | 講義後，講評を実施． |
| 教科書 | 『Environmental and Natural Resource Economics』Thomas H. Tietenberg, Lynne Lewis（Routledge）2018年 |
| 指定図書 | 『Environmental and Natural Resource Economics』Thomas H. Tietenberg, Lynne Lewis（Routledge）2018年 |
| 参考書 | 『Environmental Economics』Charles D. Kolstad（Oxford Univ Pr）2010年 |
| 教員からのお知らせ | |
| オフィスアワー | 毎週，木曜日５限<br>ただし，必ず事前にメールにてアポイントメントをとること．<br>メールアドレスは授業中に指示する． |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 課題の講評を実施 |
| その他 | |

| 講義コード | 13C0101301 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **国際環境特研１** | | | | | 佐伯　順子 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 地球上で現在発生している、生物多様性や生態系機能の低下、水資源不足、地球温暖化、資源枯渇などの様々な環境問題の現状、そしてその発生機構および講じられている緩和・適応策について学びます。そして、これらの環境問題を取り巻く政策、経済活動について学び、課題解決に向けて今後の対策について議論し、理解を深めます。なお、本講義は博士後期課程の「国際環境特研１」との合同授業です。 | | | | | | |
| 到達目標 | この講義を通じて、様々な環境問題の深刻さとその発生メカニズムと相互作用を理解できるようになる。そして、現在講じられている対策について、社会がどのように取り組んでいて、課題がどこに残っているのかを認識し、今後人類が種々の環境問題に対してどのように取り組むべきか、議論できるようになる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 授業で紹介する環境問題の中から、一つ選択し、その問題と講じられている対策について調査します。調査した内容をレポートにまとめ、授業で発表できるように準備します。調査では、特にその対策の効果と課題に着目し、今後どのように対応していくべきかの提案をします。(計60時間) | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】地球上で起こっている環境問題の概要<br>【第２回】人間活動と環境問題と環境問題の歴史<br>【第３回】国際的な枠組み<br>【第４回】地球温暖化（１）メカニズムと現象、研究<br>【第５回】地球温暖化（２）政策的な取組<br>【第６回】地球温暖化（３）地球温暖化問題とエネルギー資源<br>【第７回】地球温暖化（４）対策（省エネ、技術開発)、適応策と緩和策<br>【第８回】地球温暖化（５）企業の取組<br>【第９回】環境汚染（１）大気汚染<br>【第10回】環境汚染（２）土壌汚染、水質汚濁（富栄養化)、残留農薬<br>【第11回】水資源（１）水の需要と供給<br>【第12回】水資源（２）環境への影響<br>【第13回】水資源（３）水マネジメント<br>【第14回】プレゼンテーション<br>【第15回】まとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取組姿勢（40%)、レポート（20%)、プレゼンテーション（40%） | | | | | | |
| フィードバックの内容 | | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | 『生態リスク学入門－予防的順応的管理－』松田裕之（共立出版）2008、『地球の論点 ―― 現実的な環境主義者のマニフェスト 地球の論点 ―― 現実的な環境主義者のマニフェスト』スチュアート（英治出版）2011、『現代の化学環境学　環境の理解と改善のために』御園生 誠（裳華房）2017、『図解 環境バイオテクノロジー入門』軽部 征夫（日刊工業新聞社）2012、『グラフィック環境経済学』浅子 和美（新世社）2015、『資源の循環利用とはなにか――バッズをグッズに変える新しい経済システム』細田 衛士（岩波書店）2015、『沈黙の春』レイチェル カーソン（新潮文庫）1974、『GEO－5 地球環境概観第５次報告書－私達が望む未来の環境〈上〉』国連環境計画（環境報告研）2015、『持続可能な社会のための環境論・環境政策論』白井 信雄（大学教育出版）2020、『資源と環境の経済学－ケーススタディで学ぶ』馬奈木 俊介（昭和堂）2012 | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 非常勤）本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 意見共有、能動的な授業外学習など | | | | | | |
| その他 | 各授業内では、授業に関する事柄についての意見共有を促進しています。意見や疑問があれば、随時挙手により意見を表明し、ディスカッションを深めます。<br>プレゼンテーションの課題の際には、各自図書館やインターネットなどで課題に応じて調査し、プレゼンテーションにて調査結果を共有してもらいます。プレゼンテーション後には、教員からフィードバックと問題提起をし、クラス全体でディスカッションを行います。<br>期のまとめとして、全授業内容を最後にまとめてレポートの課題に反映させます。 | | | | | | |

| 講義コード | 13C0101401 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **国際環境特研２** | | | | | 佐伯　順子 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | 地球上で現在発生している、生物多様性や生態系機能の低下、水資源不足、地球温暖化、資源枯渇などの様々な環境問題の現状、そしてその発生機構および講じられている緩和・適応策について学びます。そして、これらの環境問題を取り巻く政策、経済活動について学び、課題解決に向けて今後の対策について議論し、理解を深めます。<br>なお、本講義は博士後期課程の「国際環境特論２」との合同授業です。 |
| 到達目標 | この講義を通じて、様々な環境問題の深刻さとその発生メカニズムと相互作用を理解できるようになる。そして、現在講じられている対策について、社会がどのように取り組んでいて、課題がどこに残っているのかを認識し、今後人類が種々の環境問題に対してどのように取り組むべきか、議論できるようになる。 |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 企業の環境経営を調査し、関心のある１企業をピックアップします。その企業の環境に対する取り組みを深堀して調査し、授業で紹介します。またその調査内容をレポートにまとめます。(計60時間) |
| 授業計画 | 【第１回】生態系環境（１）生物を取り巻く環境<br>【第２回】生態系環境（２）生物多様性のメカニズムと重要性<br>【第３回】生態系環境（３）生態系のメカニズム<br>【第４回】生態系環境（４）海の生態系<br>【第５回】生態系環境（５）生物資源（バイオマス）の利用と環境保全<br>【第６回】生態系環境（６）外来種<br>【第７回】資源循環（１）プラスチック問題<br>【第８回】資源循環（２）資源枯渇<br>【第９回】資源循環（３）廃棄物問題<br>【第10回】資源循環（４）リサイクル<br>【第11回】環境経営（１）企業の取組事例<br>【第12回】環境経営（２）環境への影響の評価方法<br>【第13回】環境経営（３）企業に求められる努力<br>【第14回】プレゼンテーション<br>【第15回】まとめ |
| 成績評価の方法 | 授業への取組姿勢（40%）、レポート（20%）、プレゼンテーション（40%） |
| フィードバックの内容 | |
| 教科書 | |
| 指定図書 | |
| 参考書 | 『生態リスク学入門 - 予防的順応的管理 -』松田裕之（共立出版）2008、『地球の論点 —— 現実的な環境主義者のマニフェスト 地球の論点 —— 現実的な環境主義者のマニフェスト』スチュアート（英治出版）2011、『現代の化学環境学　環境の理解と改善のために』御園生 誠（裳華房）2017、『図解 環境バイオテクノロジー入門』軽部 征夫（日刊工業新聞社）2012、『グラフィック環境経済学』浅子 和美（新世社）2015、『資源の循環利用とはなにか——バッズをグッズに変える新しい経済システム』細田 衛士（岩波書店）2015、『沈黙の春』レイチェル カーソン（新潮文庫）1974、『GEO － 5 地球環境概観第５次報告書－私達が望む未来の環境〈上〉』国連環境計画（環境報告研）2015、『持続可能な社会のための環境論・環境政策論』白井 信雄（大学教育出版）2020、『資源と環境の経済学－ケーススタディで学ぶ』馬奈木 俊介（昭和堂）2012 |
| 教員からのお知らせ | |
| オフィスアワー | 非常勤）本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。 |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 各授業内では、授業に関する事柄についての意見共有を促進しています。意見や疑問があれば、随時挙手により意見を表明し、ディスカッションを深めます。<br>プレゼンテーションの課題の際には、各自図書館やインターネットなどで課題に応じて調査し、プレゼンテーションにて調査結果を共有してもらいます。プレゼンテーション後には、教員からフィードバックと問題提起をし、クラス全体でディスカッションを行います。<br>期のまとめとして、全授業内容を最後にまとめてレポートの課題に反映させます。 |
| その他 | |

| 講義コード | 13C0101901 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **地域農業環境特研３** | | | | | 北原　克宣 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本講義では、現代資本主義下における農業・食料・環境問題に関する先行研究を学ぶことを通じて、この分野の研究の到達点と課題について学ぶことを目的とする。<br>※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。 | | | | | | |
| 到達目標 | 本講義の目標は、研究の方法および農業・食料・環境問題に関する分野の研究の到達点と残された課題について理解し、これらの知識を用いて論文（とりわけ博士論文）の執筆ができるようになることである。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | ①当該分野の研究書・学術論文を読んでおくこと（毎日１時間）<br>②テキストは事前に必ず目を通し、疑問点・論点についてあらかじめチェックしておくこと。（１週間のうち１時間以上）<br>計60時間以上の授業外学修が必要である。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】講義の進め方について<br>【第２回】論文①に関する報告・討論<br>【第３回】論文②に関する報告・討論<br>【第４回】論文③に関する報告・討論<br>【第５回】論文④に関する報告・討論<br>【第６回】論文⑤に関する報告・討論<br>【第７回】論文⑥に関する報告・討論<br>【第８回】論文⑦に関する報告・討論<br>【第９回】論文⑧に関する報告・討論<br>【第10回】論文⑨に関する報告・討論<br>【第11回】論文⑩に関する報告・討論<br>【第12回】論文⑪に関する報告・討論<br>【第13回】論文⑫に関する報告・討論<br>【第14回】農業・食料・環境問題に関する研究の動向<br>【第15回】農業・食料・環境問題に関する研究の動向 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 発表の内容・回数（50%）、発言の内容・回数（50%） | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 各発表について、講義内にてコメントをする。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は随時受け付けます。講義時にお知らせするアドレスに、ご連絡ください。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | プレゼンテーション、ディスカッション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0102001 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **地域農業環境特研４** | | | | | 北原　克宣 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本講義では、現代資本主義下における農業・食料・環境問題に関する先行研究を学ぶことを通じて、この分野の研究の到達点と課題について学ぶことを目的とする。<br>※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。 | | | | | | |
| 到達目標 | 本講義の目標は、研究の方法および農業・食料・環境問題に関する分野の研究の到達点と残された課題について理解し、これらの知識を用いて論文（とりわけ博士論文）の執筆ができるようになることである。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | ①当該分野の研究書・学術論文を読んでおくこと（毎日１時間）<br>②テキストは事前に必ず目を通し、疑問点・論点についてあらかじめチェックしておくこと。（１週間のうち１時間以上）<br>計60時間以上の授業外学修が必要である。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】論文⑬に関する報告・討論<br>【第２回】論文⑭に関する報告・討論<br>【第３回】論文⑮に関する報告・討論<br>【第４回】論文⑯に関する報告・討論<br>【第５回】論文⑰に関する報告・討論<br>【第６回】論文⑱に関する報告・討論<br>【第７回】論文⑲に関する報告・討論<br>【第８回】論文⑳に関する報告・討論<br>【第９回】研究発表・討論<br>【第10回】研究発表・討論<br>【第11回】研究発表・討論<br>【第12回】研究発表・討論<br>【第13回】研究発表・討論<br>【第14回】農業・食料・環境問題の現代的課題<br>【第15回】農業・食料・環境問題の現代的課題 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 発表の内容・回数（50%）、発言の内容・回数（50%） | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 各発表について、講義内にてコメントする。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は随時受け付けます。講義時にお知らせするアドレスに、ご連絡ください。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | プレゼンテーション、ディスカッション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0102501 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | マルクス経済学特研１ | | | | | 中村　宗之 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 未来社会に関するK.マルクスや他の論者の構想を検討する。必要に応じてマルクス経済学の基本的内容を確認する。<br>なお、本講義は修士課程「マルクス経済学特論１」との合同授業である。 | | | | | | |
| 到達目標 | 「マルクス経済学特論１」の到達目標：<br>未来社会に関するK.マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。<br>「マルクス経済学特研１」の到達目標：<br>未来社会に関するK.マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。未来社会について各自の考えに基づき論じることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 「マルクス経済学特論１」の授業外学修内容・授業外学修時間数：<br>授業内容の予習や復習を行う。60時間以上の授業外学修を行う。<br>「マルクス経済学特研１」の授業外学修内容・授業外学修時間数：<br>授業内容の予習や復習を行う。考えをまとめるために、文章を書く。60時間以上の授業外学修を行う。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス<br>【第２回】教科書の検討と議論（１）<br>【第３回】教科書の検討と議論（２）<br>【第４回】教科書の検討と議論（３）<br>【第５回】教科書の検討と議論（４）<br>【第６回】教科書の検討と議論（５）<br>【第７回】教科書の検討と議論（６）<br>【第８回】教科書の検討と議論（７）<br>【第９回】教科書の検討と議論（８）<br>【第10回】教科書の検討と議論（９）<br>【第11回】教科書の検討と議論（10）<br>【第12回】参加者による報告（１）<br>【第13回】参加者による報告（２）<br>【第14回】参加者による報告（３）<br>【第15回】まとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 「マルクス経済学特論１」：授業への取り組み姿勢（50%）、報告および提出レポートの内容（50%）により評価する。<br>「マルクス経済学特研１」：授業への取り組み姿勢（50%）、報告および提出論文の内容（50%）により評価する。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告内容等に対するフィードバックは、その都度行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | 『アナーキー・国家・ユートピア』ロバート・ノージック（木鐸社）2014年、『民主主義と政治的無知』イリヤ・ソミン（信山社）2016年、『離脱・発言・忠誠』A. O. ハーシュマン（ミネルヴァ書房）2005年、『世界の多様性』エマニュエル・トッド（藤原書店）2008年、『完訳　統治二論（岩波文庫）』ジョン・ロック（岩波書店）2010年、『国家と革命（講談社学術文庫）』レーニン（講談社）2011年、『国家民営化論』笠井潔（光文社）2000年、『これからの社会主義 －市場社会主義の可能性』ジョン・ローマー（青木書店）1997年、『資本主義経済の理論』伊藤誠（岩波書店）1989年、『現代の社会主義（講談社学術文庫）』伊藤誠（講談社）1992年 | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams 等でも受け付けます。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0102601 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | マルクス経済学特研２ | | | | | 中村　宗之 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 未来社会に関するK.マルクスや他の論者の構想を検討する。必要に応じてマルクス経済学の基本的内容を確認する。<br>なお、本講義は修士課程「マルクス経済学特論２」との合同授業である。 | | | | | | |
| 到達目標 | 「マルクス経済学特論２」の到達目標：<br>未来社会に関するK.マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。<br>「マルクス経済学特研２」の到達目標：<br>未来社会に関するK.マルクスや他の論者の構想を説明できる。マルクス経済学の基本的内容を説明できる。未来社会について各自の考えに基づき論じることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 「マルクス経済学特論２」の授業外学修内容・授業外学修時間数：<br>授業内容の予習や復習を行う。60時間以上の授業外学修を行う。<br>「マルクス経済学特研２」の授業外学修内容・授業外学修時間数：<br>授業内容の予習や復習を行う。考えをまとめるために、文章を書く。60時間以上の授業外学修を行う。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】教科書の検討と議論（１）<br>【第２回】教科書の検討と議論（２）<br>【第３回】教科書の検討と議論（３）<br>【第４回】教科書の検討と議論（４）<br>【第５回】教科書の検討と議論（５）<br>【第６回】教科書の検討と議論（６）<br>【第７回】教科書の検討と議論（７）<br>【第８回】教科書の検討と議論（８）<br>【第９回】教科書の検討と議論（９）<br>【第10回】教科書の検討と議論（10）<br>【第11回】教科書の検討と議論（11）<br>【第12回】参加者による報告（１）<br>【第13回】参加者による報告（２）<br>【第14回】参加者による報告（３）<br>【第15回】まとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 「マルクス経済学特論２」：授業への取り組み姿勢（50%）、報告および提出レポートの内容（50%）により評価する。<br>「マルクス経済学特研２」：授業への取り組み姿勢（50%）、報告および提出論文の内容（50%）により評価する。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告内容等に対するフィードバックは、その都度行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | 『アナーキー・国家・ユートピア』ロバート・ノージック（木鐸社）2014年、『民主主義と政治的無知』イリヤ・ソミン（信山社）2016年、『離脱・発言・忠誠』A. O. ハーシュマン（ミネルヴァ書房）2005年、『世界の多様性』エマニュエル・トッド（藤原書店）2008年、『完訳 統治二論（岩波文庫）』ジョン・ロック（岩波書店）2010年、『国家と革命（講談社学術文庫）』レーニン（講談社）2011年、『国家民営化論』笠井潔（光文社）2000年、『これからの社会主義 －市場社会主義の可能性』ジョン・ローマー（青木書店）1997年、『資本主義経済の理論』伊藤誠（岩波書店）1989年、『現代の社会主義（講談社学術文庫）』伊藤誠（講談社）1992年 | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams 等でも受け付けます。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0103101 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | マクロ経済学特研３ | | | | | 浅子　和美 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | ミクロ経済学，マクロ経済学，計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に，景気変動やマクロ経済政策全般をテーマとするが，本年度は特に「経済の持続可能性」及びその関連テーマを中心に，理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について，先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 景気変動やマクロ経済政策全般の問題点を把握し，課題解決の方向を理解し政策提言に至る。<br>研究者としての視点から，課題解決や政策提言のための基本技法を応用し，学術論文を作成する。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 授業で指定されるリーディング・リストを読破するのに，相応の準備が必要となるが，それに積極的に取り組む必要がある（授業外学習時間は90時間）。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する（１）<br>【第２回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する（２）<br>【第３回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（１）<br>【第４回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（２）<br>【第５回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（３）<br>【第６回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（４）<br>【第７回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（５）<br>【第８回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（６）<br>【第９回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（７）<br>【第10回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（８）<br>【第11回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（９）<br>【第12回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（10）<br>【第13回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（11）<br>【第14回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（12）<br>【第15回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（13）<br>【第３回】以降，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練ること。 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み姿勢（30%）と課題に対する学術論文の提出（70 %）。未完でも可だが，それなりのクオリティが要求される。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | レポートや学術論文には丁寧にコメントする。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0103201 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | マクロ経済学特研４ | | | | | 浅子　和美 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | ミクロ経済学，マクロ経済学，計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に，景気変動やマクロ経済政策全般をテーマとするが，本年度は特に「経済の持続可能性」及びその関連テーマを中心に，理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について，先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 景気変動やマクロ経済政策全般の問題点を把握し，課題解決の方向を理解し政策提言に至る。<br>研究者としての視点から，課題解決や政策提言のための基本技法を応用し，学術論文を作成する。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 授業で指定されるリーディング・リストを読破するのに，相応の準備が必要となるが，それに積極的に取り組む必要がある（授業外学習時間は90時間）。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する（１）<br>【第２回】履修者と相談の上でリーディング・リストを作成する（２）<br>【第３回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（１）<br>【第４回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（２）<br>【第５回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（３）<br>【第６回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（４）<br>【第７回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（５）<br>【第８回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（６）<br>【第９回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（７）<br>【第10回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（８）<br>【第11回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（９）<br>【第12回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（10）<br>【第13回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（11）<br>【第14回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（12）<br>【第15回】テキスト論文を対象とし、その分析手法や分析結果を解説する（13）<br>【第３回】以降，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練ること。 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み姿勢（30%）と課題に対する学術論文の提出（70 %）。未完でも可だが，それなりのクオリティが要求される。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | レポートや学術論文には丁寧にコメントする。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0103301 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | ミクロ経済学特研１ | | | | | 渡部　真弘 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | 本科目では、受講生が経済主体間の相互依存関係を分析するための手段としてのゲーム理論を学習し、経済問題の分析ツールとしてゲーム理論を用いることができるようになることが目的である．なお，本科目は修士課程「ミクロ経済学特論１」との合同授業でもある． |
| 到達目標 | 「ミクロ経済学特研１」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき，文字式を用いた理論的分析が可能となる．<br>「ミクロ経済学特論１」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき，文字式を用いた理論的分析が可能となる． |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 「ミクロ経済学特研１」のフィードバックの内容:本科目では，授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために，週に少なくとも４時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である．<br>「ミクロ経済学特論１」のフィードバックの内容:本科目では，授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために，週に少なくとも４時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である． |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス<br>【第２回】標準型表現：囚人のジレンマ<br>【第３回】標準型表現：最適反応とナッシュ均衡<br>【第４回】標準型表現：社会的選好，囚人のジレンマの再考（１）<br>【第５回】標準型表現：社会的選好，囚人のジレンマの再考（２）<br>【第６回】標準型表現：支配される戦略の逐次的消去<br>【第７回】標準型表現：弱く支配される戦略を含まないナッシュ均衡（１）<br>【第８回】標準型表現：弱く支配される戦略を含まないナッシュ均衡（２）<br>【第９回】標準型表現：弱く支配される戦略を含まないナッシュ均衡（３）<br>【第10回】展開型表現：後ろ向き帰納法（１）<br>【第11回】展開型表現：後ろ向き帰納法（２）<br>【第12回】展開型表現：部分ゲーム完全均衡（１）<br>【第13回】展開型表現：部分ゲーム完全均衡（２）<br>【第14回】展開型表現：部分ゲーム完全均衡（３）<br>【第15回】まとめ |
| 成績評価の方法 | 講義内容の理解度を確認するために，授業開始時に小テスト（授業第２回～授業第14回）を実施する．<br>「ミクロ経済学特研１」の評価割合：小テスト50%，期末試験50%<br>「ミクロ経済学特論１」の評価割合：小テスト50%，期末試験50% |
| フィードバックの内容 | 「ミクロ経済学特研１」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する．理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する．<br>「ミクロ経済学特論１」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する．理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する． |
| 教科書 | |
| 指定図書 | |
| 参考書 | 『An Introduction to Game Theory』Martin J. Osborne（Oxford University Press）2009、『Game Theory（2nd Edition)』Michael Maschler, Eilon Solan,　Shmuel Zamir（Cambridge University Press）2020 |
| 教員からのお知らせ | 小テストや期末試験は記述式であり，単語を選択するマークシートのような簡易なものではない．試験問題を事前に配布しない．単位数に見合った学修時間を確保するつもりがなければ履修すべきではない． |
| オフィスアワー | オフィスアワー：木曜日３時限，2号館516研究室<br>連絡や資料配布は，Microsoft Teams を通じて行う．Microsoft Teams のチームに参加するためのチームコードを授業第１回のガイダンス時に共有する． |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 教員からのフィードバックによる振り返り：小テストの全ての問題において，細分化された各採点項目に対する評価を返却することで，復習が十分ではない内容を学生に認識させる． |
| その他 | |

| 講義コード | 13C0103401 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | ミクロ経済学特研２ | | | | | 渡部　真弘 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本科目では、受講生が経済主体間の相互依存関係を分析するための手段としてのゲーム理論を学習し、経済問題の分析ツールとしてゲーム理論を用いることができるようになることが目的である．なお，本科目は修士課程「ミクロ経済学特論２」との合同授業でもある． | | | | | | |
| 到達目標 | 「ミクロ経済学特研２」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき，文字式を用いた理論的分析が可能となる．<br>「ミクロ経済学特論２」の到達目標：ゲーム理論及びマーケット・デザインに関する知識・技能に基づき，文字式を用いた理論的分析が可能となる． | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 「ミクロ経済学特研２」のフィードバックの内容:本科目では，授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために，週に少なくとも４時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である．<br>「ミクロ経済学特論２」のフィードバックの内容:本科目では，授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために，週に少なくとも４時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である． | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス<br>【第２回】完全ベイジアン均衡（１）<br>【第３回】完全ベイジアン均衡（２）<br>【第４回】完全ベイジアン均衡（３）<br>【第５回】シグナリング（１）<br>【第６回】シグナリング（２）<br>【第７回】交互提案交渉（１）<br>【第８回】交互提案交渉（２）<br>【第９回】交互提案交渉（３）<br>【第10回】ナッシュ交渉解（１）<br>【第11回】ナッシュ交渉解（２）<br>【第12回】ナッシュ交渉解（３）<br>【第13回】シャプレー値，コア（１）<br>【第14回】シャプレー値，コア（２）<br>【第15回】まとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 講義内容の理解度を確認するために，授業開始時に小テスト（授業第２回～授業第14回）を実施する．<br>「ミクロ経済学特研２」の評価割合：小テスト50%，期末試験50%<br>「ミクロ経済学特論２」の評価割合：小テスト50%，期末試験50% | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 「ミクロ経済学特研２」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する．理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する．<br>「ミクロ経済学特論２」のフィードバックの内容：小テストの模範解答・採点結果を配布する．理解が不十分であると判断される内容を次回以降の授業時間内に補足する． | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | 『An Introduction to Game Theory』Martin J. Osborne（Oxford University Press）2009、『Game Theory（2nd Edition)』Michael Maschler, Eilon Solan,　Shmuel Zamir（Cambridge University Press）2020 | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 小テストや期末試験は記述式であり，単語を選択するマークシートのような簡易なものではない．試験問題を事前に配布しない．単位数に見合った学修時間を確保するつもりがなければ履修すべきではない． | | | | | | |
| オフィスアワー | オフィスアワー：木曜日３時限，2号館516研究室<br>連絡や資料配布は，Microsoft Teams を通じて行う．Microsoft Teams のチームに参加するためのチームコードを授業第１回のガイダンス時に共有する． | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 教員からのフィードバックによる振り返り：小テストの全ての問題において，細分化された各採点項目に対する評価を返却することで，復習が十分ではない内容を学生に認識させる． | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0103501 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | ミクロ経済学特研３ | | | | | 小野﨑　保 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 複雑に発達した現代の経済社会において生起する経済現象を理解するためには、ただデータなどを観察するだけでは不十分であり、それらの背後に共通して潜む論理を理解することが必要不可欠である。ミクロ経済学はこのような論理を読み解く上で重要な役割を果たす。本講義では、各自の研究に役立つようなミクロ経済学的分析手法について、文献輪読の形式で学ぶ。必要に応じて、関連するテーマとしてゲーム理論や産業組織論の内容などを扱うこともある。<br>なお、本講義は修士課程「ミクロ経済学特論３」との合同授業である。 | | | | | | |
| 到達目標 | （１）市場経済の仕組みを説明できる。<br>（２）市場経済にまつわる政策問題を理解できる。<br>（３）各自の研究テーマをミクロ経済学の視点から考えることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | （１）レポーターを担当するしないに拘わらず、輪読文献を事前および事後に熟読すること。<br>（２）ミクロ経済学をより深く理解するために、適宜紹介する関連文献などを読むこと。<br>（３）研究レポート［ターム・ペーパー］作成に向けて文献調査および分析を自主的に行うこと。<br>これらを併せて授業外に合計60時間以上の学習をおこなうこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス（授業の進め方、文献の選択など）<br>【第２回】文献の輪読および討論（１）<br>【第３回】文献の輪読および討論（２）<br>【第４回】文献の輪読および討論（３）<br>【第５回】文献の輪読および討論（４）<br>【第６回】文献の輪読および討論（５）<br>【第７回】文献の輪読および討論（６）<br>【第８回】文献の輪読および討論（７）<br>【第９回】文献の輪読および討論（８）<br>【第10回】文献の輪読および討論（９）<br>【第11回】文献の輪読および討論（10）<br>【第12回】文献の輪読および討論（11）<br>【第13回】文献の輪読および討論（12）<br>【第14回】文献の輪読および討論（13）<br>【第15回】文献の輪読および討論（14） | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み姿勢（20%）および研究レポート［ターム・ペーパー］（80%） | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 文献輪読における発表の内容や方法について、随時口頭によりコメントする。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 教科書は履修生と相談して決める。<br>参考文献は、履修生の研究テーマに応じて適宜指示する。 | | | | | | |
| オフィスアワー | メール（onozaki@ris.ac.jp）にて随時受け付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール、プレゼンテーション、ディベートなど | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0103601 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | ミクロ経済学特研４ | | | | | 小野﨑　保 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 複雑に発達した現代の経済社会において生起する経済現象を理解するためには、ただデータなどを観察するだけでは不十分であり、それらの背後に共通して潜む論理を理解することが必要不可欠である。ミクロ経済学はこのような論理を読み解く上で重要な役割を果たす。本講義では、各自の研究に役立つようなミクロ経済学的分析手法について、文献輪読の形式で学ぶ。必要に応じて、関連するテーマとしてゲーム理論や産業組織論の内容などを扱うこともある。<br>なお、本講義は博士後期課程「ミクロ経済学特研４」との合同授業である。<br>なお、本講義は修士課程「ミクロ経済学特論４」との合同授業である。 | | | | | | |
| 到達目標 | （１）市場経済の仕組みを説明できる。<br>（２）市場経済にまつわる政策問題を理解できる。<br>（３）各自の研究テーマをミクロ経済学的に分析し、課題を見つけ政策提言をすることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | （１）レポーターを担当するしないに拘わらず、輪読文献を事前および事後に熟読すること。<br>（２）ミクロ経済学をより深く理解するために、適宜紹介する関連文献などを読むこと。<br>（３）研究レポート［ターム・ペーパー］作成に向けて文献調査および分析を自主的に行うこと。<br>これらを併せて授業外に合計60時間以上の学習をおこなうこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス（授業の進め方、文献の選択など）<br>【第２回】文献の輪読および討論（１）<br>【第３回】文献の輪読および討論（２）<br>【第４回】文献の輪読および討論（３）<br>【第５回】文献の輪読および討論（４）<br>【第６回】文献の輪読および討論（５）<br>【第７回】文献の輪読および討論（６）<br>【第８回】文献の輪読および討論（７）<br>【第９回】文献の輪読および討論（８）<br>【第10回】文献の輪読および討論（９）<br>【第11回】文献の輪読および討論（10）<br>【第12回】文献の輪読および討論（11）<br>【第13回】文献の輪読および討論（12）<br>【第14回】文献の輪読および討論（13）<br>【第15回】文献の輪読および討論（14） | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み姿勢（20%）および研究レポート［ターム・ペーパー］（80%） | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 文献輪読における発表の内容や方法について、随時口頭によりコメントする。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 教科書は履修生と相談して決める。<br>参考文献は、履修生の研究テーマに応じて適宜指示する。 | | | | | | |
| オフィスアワー | メール（onozaki@ris.ac.jp）にて随時受け付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール、プレゼンテーション、ディベートなど | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0103901 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **経済統計学特研３** | | | | | 王　在喆 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 一国の各家計は、いろいろな財やサービスを購入している。購入に必要とした所得は、主として企業から給料として得ている。このような所得等の経済循環をモデル化したものに、マクロ経済モデルがある。この授業では、マクロ経済モデルより，生産部門を分割し、より一層、経済構造の分析に適した産業連関モデルを取り上げる。最初に分析手法と経済データについて復習した上で、日本経済や中国経済などを対象にした理論的・実証的分析を学習する。産業連関表のデータとコンピュータソフト，例えば，EXCEL などを使って数量分析に興味を持ち、授業に継続的に出席することができる受講生の履修が望ましい。<br>本講義は修士課程院生と博士後期課程の院生との合同授業である。修士課程の受講生は産業連関分析理論と産業連関分析手法の習得に力点を置くことが望ましいが、博士後期課程の受講生は、むしろ本講義で勉強した産業連関分析の知識を如何にして自分の研究に応用させるかに力点を置くことが望まれる。 | | | | | | |
| 到達目標 | 受講生は産業連関表によって表現される生産、分配、支出の経済循環の意味をよく理解することができる。また産業連関表を使って一国あるいは一地域の産業構造の姿を数値的に分析するようになる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | ①経済社会の産業構造とその時系列変化を学習すること。<br>②産業連関表の概念や構造などについて学習すること。<br>③産業連関分析モデルを使った具体的な経済分析を学習すること。<br>授業外学修時間は180時間以上が必要である。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】生産量決定モデル④輸入外生化<br>【第２回】生産量決定モデル⑤輸入内生化<br>【第３回】価格モデル①<br>【第４回】価格モデル②<br>【第５回】価格モデル③<br>【第６回】産業連関分析の実際①<br>【第７回】産業連関分析の実際②<br>【第８回】産業連関分析の実際③<br>【第９回】産業連関分析の実際④<br>【第10回】産業連関分析の応用①<br>【第11回】産業連関分析の応用②<br>【第12回】産業連関分析の応用③各自テーマ別事例分析<br>【第13回】産業連関分析の応用④各自テーマ別事例分析<br>【第14回】産業連関分析の応用⑤各自テーマ別事例分析<br>【第15回】一般均衡モデルの展開 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 修士課程受講生：授業への取り組み30%、授業内発表40%、レポート（１回）30%。<br>博士後期課程受講生：授業への取り組み30%、研究報告70%。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 授業内外で学習と研究について適宜に指導を行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | 『産業連関分析入門』藤川清史（日本評論社）2005、『日本の産業構造』尾崎　巌（慶応義塾大学出版会）2004、『産業連関分析ハンドブック』宍戸俊太郎監修　環太平洋産業連関分析学会編（東洋経済新報社）2010 | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 時間：水曜日６限目（18：00-19：30）、オンラインで（事前にメールで予約すること）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0104001 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **経済統計学特研４** | | | | | 王　在喆 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 一国の各家計は、いろいろな財やサービスを購入している。購入に必要とした所得は、主として企業から給料として得ている。このような所得等の経済循環をモデル化したものに、マクロ経済モデルがある。この授業では、マクロ経済モデルより，生産部門を分割し、より一層、経済構造の分析に適した産業連関モデルを取り上げる。最初に分析手法と経済データについて復習した上で、日本経済や中国経済などを対象にした理論的・実証的分析を学習する。産業連関表のデータとコンピュータソフト，例えば，EXCEL などを使って数量分析に興味を持ち、授業に継続的に出席することができる受講生の履修が望ましい。<br>本講義は修士課程院生と博士後期課程の院生との合同授業である。修士課程の受講生は産業連関分析理論と産業連関分析手法の習得に力点を置くことが望ましいが、博士後期課程の受講生は、むしろ本講義で勉強した産業連関分析の知識を如何にして自分の研究に応用させるかに力点を置くことが望まれる。 | | | | | | |
| 到達目標 | 受講生は産業連関表によって表現される生産、分配、支出の経済循環の意味をよく理解することができる。また産業連関表を使って一国あるいは一地域の産業構造の姿を数値的に分析するようになる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | ①経済社会の産業構造とその時系列変化を学習すること。<br>②産業連関表の概念や構造などについて学習すること。<br>③産業連関分析モデルを使った具体的な経済分析を学習すること。<br>授業外学修時間は180時間以上が必要である。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】生産量決定モデル④輸入外生化<br>【第２回】生産量決定モデル⑤輸入内生化<br>【第３回】価格モデル①<br>【第４回】価格モデル②<br>【第５回】価格モデル③<br>【第６回】産業連関分析の実際①<br>【第７回】産業連関分析の実際②<br>【第８回】産業連関分析の実際③<br>【第９回】産業連関分析の実際④<br>【第10回】産業連関分析の応用①<br>【第11回】産業連関分析の応用②<br>【第12回】産業連関分析の応用③各自テーマ別事例分析<br>【第13回】産業連関分析の応用④各自テーマ別事例分析<br>【第14回】産業連関分析の応用⑤各自テーマ別事例分析<br>【第15回】一般均衡モデルの展開 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 修士課程受講生：授業への取り組み30%、授業内発表40%、レポート（１回）30%。<br>博士後期課程受講生：授業への取り組み30%、研究報告70%。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 授業内外で学習と研究について適宜に指導を行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | 『産業連関分析入門』藤川清史（日本評論社）2005、『日本の産業構造』尾崎　巌（慶応義塾大学出版会）2004、『産業連関分析ハンドブック』宍戸俊太郎監修　環太平洋産業連関分析学会編（東洋経済新報社）2010 | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 時間：水曜日６限目（18：00-19：30）、オンラインで（事前にメールで予約すること）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0104101 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **景気循環論特研１** | | | | | 浅子　和美 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | ミクロ経済学，マクロ経済学，計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に，景気循環全般をテーマとするが，本年度は特に「景気循環・経済成長と持続可能な経済発展」及びその関連テーマを中心に，理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について，先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。<br>なお，本講義は修士課程「景気循環論特論１」との合同授業でもある。 |
| 到達目標 | 「景気循環論特論１」の到達目標<br>景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し，課題解決の方向を理解する。<br>課題解決や政策提言のための基本技法を修得し，レポート等を作成する。<br>「景気循環論特研１」の到達目標<br>景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し，課題解決の方向を理解し，政策提言に至る。<br>研究者としての視点から，課題解決や政策提言のための基本技法を応用し，学術論文を作成する。 |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 授業で指定されるリーディング・リストを読破するのに，相応の準備が必要となるが，それに積極的に取り組む必要がある(「景気循環論特論１」では60時間，「景気循環論特研１」では90時間)。 |
| 授業計画 | 【第１回】履修者が確定した段階で，履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し，それに合わせた授業計画を立てる。その目的で，各自の希望を話してもらう。(１)<br>【第２回】履修者が確定した段階で，履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し，それに合わせた授業計画を立てる。その目的で，各自の希望を話してもらう。(２)<br>【第３回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(１)<br>【第４回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(２)<br>【第５回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(３)<br>【第６回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(４)<br>【第７回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(５)<br>【第８回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(６)<br>【第９回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(７)<br>【第10回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(８)<br>【第11回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(９)<br>【第12回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(10)<br>【第13回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(11)<br>【第14回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(12)<br>【第15回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(13) |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み姿勢（30%）と課題に対する学術論文の提出（70 %）。未完でも可だが，それなりのクオリティが要求される。 |
| フィードバックの内容 | レポートや学術論文には丁寧にコメントする。 |
| 教科書 | |
| 指定図書 | |
| 参考書 | |
| 教員からのお知らせ | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。 |
| アクティブ・ラーニングの内容 | |
| その他 | |

| 講義コード | 13C0104201 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **景気循環論特研２** | | | | | 浅子　和美 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | ミクロ経済学，マクロ経済学，計量経済学の基礎知識をもつ大学院生を対象に，景気循環全般をテーマとするが，本年度は特に「景気循環・経済成長と持続可能な経済発展」及びその関連テーマを中心に，理論・実証両面から分析手法や分析結果の解釈等について，先行研究を例に取り上げ批判的に検討する。<br>なお，本講義は修士課程「景気循環論特論２」との合同授業でもある。 |
| 到達目標 | 「景気循環論特論２」の到達目標<br>景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し，課題解決の方向を理解する。<br>課題解決や政策提言のための基本技法を修得し，レポート等を作成する。<br>「景気循環論特研２」の到達目標<br>景気循環の理論・歴史や現状の問題点を把握し，課題解決の方向を理解し，政策提言に至る。<br>研究者としての視点から，課題解決や政策提言のための基本技法を応用し，学術論文を作成する。 |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 授業で指定されるリーディング・リストを読破するのに，相応の準備が必要となるが，それに積極的に取り組む必要がある(「景気循環論特論２」では60時間，「景気循環論特研２」では90時間)。 |
| 授業計画 | 【第１回】履修者が確定した段階で，履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し，それに合わせた授業計画を立てる。その目的で，各自の希望を話してもらう。(１)<br>【第２回】履修者が確定した段階で，履修者の希望に合わせたリーディング・リストを作成し，それに合わせた授業計画を立てる。その目的で，各自の希望を話してもらう。(２)<br>【第３回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(１)<br>【第４回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(２)<br>【第５回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(３)<br>【第６回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(４)<br>【第７回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(５)<br>【第８回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(６)<br>【第９回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(７)<br>【第10回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(８)<br>【第11回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(９)<br>【第12回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(10)<br>【第13回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(11)<br>【第14回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(12)<br>【第15回】順次，取り上げるテキスト論文を対象に，それぞれの分析手法や分析結果を解説し，問題点や発展方向を示す。この際，各自は自分なりの分析手法の応用を念頭に，レポートなり学術論文の作成計画を練る。(13) |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み姿勢（30%）と課題に対するレポート提出（70 %） |
| フィードバックの内容 | レポートや学術論文には丁寧にコメントする。 |
| 教科書 | |
| 指定図書 | |
| 参考書 | |
| 教員からのお知らせ | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。 |
| アクティブ・ラーニングの内容 | |
| その他 | |

| 講義コード | 13C0104501 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **金融論特研１** | | | | | 林　康史 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 金融論が取り扱う分野の重要性が増し、金融・証券分野が全人類・汎地球規模で重要になっている。そうした中で、株式・証券市場に関する文献【Stocks for the Long Run（6th edition)】を輪読し、討議する授業とする。<br>※　この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 株式・証券市場の機能・構造を理解し、その歴史的展開を説明できることである。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 授業外学修時間数は、60時間以上。 | | | | | | |
| 授業計画 | Stocks for the Long Run（6th edition）の前半を翻訳し、講読する。<br>【第１回】第１章<br>【第２回】第２章<br>【第３回】第３章<br>【第４回】第４章<br>【第５回】第５章<br>【第６回】第６章<br>【第７回】第７章<br>【第８回】第８章<br>【第９回】第９章<br>【第10回】第10章<br>【第11回】第11章<br>【第12回】第12章<br>【第13回】第13章<br>【第14回】第14章<br>【第15回】総括 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 報告・研究発表（レポートの提出を求める場合もある）・討議の内容に基づき、総合的に評価（予定)。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 随時行う（「Q&A」等を順次ウェブにアップする)。 | | | | | | |
| 教科書 | 『Stocks for the Long Run（6th edition)』Jeremy J. Siegel（McGraw Hill）2022年 | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 授業計画等は、受講人数によって若干の変更がありうる。また、学外・学部にも聴講を許可する場合がある（受講資格等は別途、案内する)。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、メールまたは電話で受付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0104601 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **金融論特研２** | | | | | 林　康史 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 金融論が取り扱う分野の重要性が増し、金融・証券分野が全人類・汎地球規模で重要になっている。そうした中で、株式・証券市場に関する文献【Stocks for the Long Run（6th edition)】を輪読し、討議する授業とする。<br>※　この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 株式・証券市場の機能・構造を理解し、その歴史的展開を説明できることである。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 授業外学修時間数は、60時間以上。 | | | | | | |
| 授業計画 | Stocks for the Long Run（6th edition）の後半を翻訳し、講読する。<br>【第１回】第15章<br>【第２回】第16章<br>【第３回】第17章<br>【第４回】第18章<br>【第５回】第19章<br>【第６回】第20章<br>【第７回】第21章<br>【第８回】第22章<br>【第９回】第23章<br>【第10回】第24章<br>【第11回】第25章<br>【第12回】第26章<br>【第13回】第27章<br>【第14回】第28章<br>【第15回】総括 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 報告・研究発表（レポートの提出を求める場合もある）・討議の内容に基づき、総合的に評価（予定)。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 随時行う（「Q&A」等を順次ウェブにアップする)。 | | | | | | |
| 教科書 | 『Stocks for the Long Run（6th edition)』Jeremy J. Siegel（McGraw Hill）2022年 | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 授業計画等は、受講人数によって若干の変更がありうる。また、学外・学部にも聴講を許可する場合がある（受講資格等は別途、案内する)。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、メールまたは電話で受付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0105501 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **国際経済学特研３** | | | | | 河原　伸哉 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 国際貿易論における理論的・実証的テーマについて、主に出席者の発表を中心にして議論する。授業は修士課程「国際経済学特論３」と博士後期課程「国際経済学特研３」を合同で実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 修士:<br>（１）国際貿易論の基礎的概念を理解している<br>（２）基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる<br>博士後期：<br>（１）国際貿易論の基礎的概念を理解している<br>（２）基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる<br>（３）国際貿易論の分野における最近の理論的・実証的研究を批判的に検討できる | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 修士：各回の授業で扱うトピックについて、参考書の該当部分を読み予習を行うこと。授業後は配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。<br>博士後期：各回の授業で扱うトピックについて、参考書の該当部分および文献リストの論文を読み予習を行うこと。授業後は論文・配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 初回授業時に指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜、国際貿易論分野の学術論文についても取り上げる。<br>【第１回】イントロダクション<br>【第２回】教科書の発表と討論１<br>【第３回】教科書の発表と討論２<br>【第４回】教科書の発表と討論３<br>【第５回】教科書の発表と討論４<br>【第６回】教科書の発表と討論５<br>【第７回】教科書の発表と討論６<br>【第８回】教科書の発表と討論７<br>【第９回】教科書の発表と討論８<br>【第10回】教科書の発表と討論９<br>【第11回】教科書の発表と討論10<br>【第12回】教科書の発表と討論11<br>【第13回】教科書の発表と討論12<br>【第14回】教科書の発表と討論13<br>【第15回】まとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 修士：平常点（30%）、発表（30%）、レポート（40%）により成績を評価する。<br>博士後期：平常点（20%）、発表（20%）、レポート（40%）に加えて、研究報告（20%）により成績を評価する。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 課題や報告に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 使用する教科書については、初回授業時に協議の上、決定する。指定図書・参考書は初回授業時に提示する。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0105601 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **国際経済学特研４** | | | | | 河原　伸哉 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 国際貿易論における理論的・実証的テーマについて、主に出席者の発表を中心にして議論する。授業は修士課程「国際経済学特論４」と博士後期課程「国際経済学特研４」を合同で実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 修士:<br>（１）国際貿易論の基礎的概念を理解している。<br>（２）基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる。<br>博士後期：<br>（１）国際貿易論の基礎的概念を理解している。<br>（２）基礎的概念を用いて国際貿易に関する現実の諸問題を説明できる。<br>（３）国際貿易論の分野における最近の理論的・実証的研究を批判的に検討できる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 修士：各回の授業で扱うトピックについて、参考書の該当部分を読み予習を行うこと。授業後は配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。<br>博士後期：各回の授業で扱うトピックについて、参考書の該当部分および文献リストの論文を読み予習を行うこと。授業後は論文・配付資料を用いて復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 初回授業時に指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜、国際貿易論分野の学術論文についても取り上げる。<br>【第１回】イントロダクション<br>【第２回】教科書の発表と討論１<br>【第３回】教科書の発表と討論２<br>【第４回】教科書の発表と討論３<br>【第５回】教科書の発表と討論４<br>【第６回】教科書の発表と討論５<br>【第７回】教科書の発表と討論６<br>【第８回】教科書の発表と討論７<br>【第９回】教科書の発表と討論８<br>【第10回】教科書の発表と討論９<br>【第11回】教科書の発表と討論10<br>【第12回】教科書の発表と討論11<br>【第13回】教科書の発表と討論12<br>【第14回】教科書の発表と討論13<br>【第15回】まとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 修士：平常点（30%）、発表（30%）、レポート（40%）により成績を評価する。<br>博士後期：平常点（20%）、発表（20%）、レポート（40%）に加えて、研究報告（20%）により成績を評価する。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 課題や報告に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 使用する教科書については、初回授業時に協議の上、決定する。指定図書・参考書は初回授業時に提示する。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0105701 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **国際金融論特研１** | | | | | 外木　好美 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | 金融の仕組みや制度，経済政策等について，為替レートや国際収支を通じた影響も踏まえて，理論的なアプローチで理解することを目的とする。主に出席者の発表を中心にして，議論する。<br>なお，本授業は博士後期課程の「国際金融特研究１」との合同授業である。 |
| 到達目標 | 修士：<br>（１）国際金融論の基礎的概念を理解している<br>（２）国際金融論の基本理論を理解している<br>（３）国際金融論の理論を使って、現実の諸問題を理解できる<br>博士後期：<br>（１）国際金融論の基礎的概念を説明できる<br>（２）国際金融論の基本理論を説明できる<br>（３）国際金融論の理論に基づいて現実の諸問題を検討できる |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 修士：各回で扱うトピックについて，教科書や参考書の当該部分を読み，予習を行うこと。授業後は，授業資料や議論を踏まえて，復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。<br>博士後期：各回で扱うトピックについて，教科書や参考書の当該部分を読み，予習を行うこと。授業後は，授業資料や議論を踏まえて，復習を行うこと。関連する論文を読むこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 |
| 授業計画 | 指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜，参考書や学術論文についても取り上げる。<br>【第１回】イントロダクション<br>【第２回】教科書の発表と討論１<br>【第３回】教科書の発表と討論２<br>【第４回】教科書の発表と討論３<br>【第５回】教科書の発表と討論４<br>【第６回】教科書の発表と討論５<br>【第７回】教科書の発表と討論６<br>【第８回】教科書の発表と討論７<br>【第９回】教科書の発表と討論８<br>【第10回】教科書の発表と討論９<br>【第11回】教科書の発表と討論10<br>【第12回】教科書の発表と討論11<br>【第13回】教科書の発表と討論12<br>【第14回】教科書の発表と討論13<br>【第15回】まとめ |
| 成績評価の方法 | 修士：平常点（50%），発表（50%）により成績を評価する。<br>修士：平常点（40%），発表（40%），研究報告（20%）により成績を評価する。 |
| フィードバックの内容 | 課題や報告に対するコメントを授業時に行う。 |
| 教科書 | 『クルーグマン国際経済学 理論と政策〔原書第10版〕下：金融編』Paul R. Krugman（著），Maurice Obstfeld（著），Marc J. Melitz（著），山形 浩生（翻訳），守岡 桜（翻訳）（丸善出版）2017/ 1 /19 |
| 指定図書 | 『コア・テキスト国際金融論』藤井 英次（著）（新世社）2014/ 1 / 6、『International Macroeconomics and Finance: Theory and Econometric Methods』Nelson C. Mark（著）（John Wiley & Sons）2001/ 8 / 8 |
| 参考書 | |
| 教員からのお知らせ | マクロ経済学を履修していることが望ましい。 |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は，研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。 |
| アクティブ・ラーニングの内容 | プレゼンテーション |
| その他 | |

| 講義コード | 13C0105801 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **国際金融論特研２** | | | | | 外木　好美 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | | 備考 | | |
| 授業の目的 | 金融の仕組みや制度，経済政策等について，為替レートや国際収支を通じた影響も踏まえて，理論的なアプローチで理解することを目的とする。主に出席者の発表を中心にして，議論する。<br>なお，本授業は博士後期課程の「国際金融特研究２」との合同授業である。 | | | | | | |
| 到達目標 | 修士：<br>（１）国際金融論の基礎的概念を理解している<br>（２）国際金融論の基本理論を理解している<br>（３）国際金融論の理論を使って、現実の諸問題を理解できる<br>博士後期：<br>（１）国際金融論の基礎的概念を説明できる<br>（２）国際金融論の基本理論を説明できる<br>（３）国際金融論の理論に基づいて現実の諸問題を検討できる | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 修士：各回で扱うトピックについて，教科書や参考書の当該部分を読み，予習を行うこと。授業後は，授業資料や議論を踏まえて，復習を行うこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。<br>博士後期：各回で扱うトピックについて，教科書や参考書の当該部分を読み，予習を行うこと。授業後は，授業資料や議論を踏まえて，復習を行うこと。関連する論文を読むこと。上記の予習・復習など授業外に計60時間以上の学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 指定した教科書について輪読形式で学ぶ。適宜，参考書や学術論文についても取り上げる。<br>【第１回】イントロダクション<br>【第２回】教科書の発表と討論１<br>【第３回】教科書の発表と討論２<br>【第４回】教科書の発表と討論３<br>【第５回】教科書の発表と討論４<br>【第６回】教科書の発表と討論５<br>【第７回】教科書の発表と討論６<br>【第８回】教科書の発表と討論７<br>【第９回】教科書の発表と討論８<br>【第10回】教科書の発表と討論９<br>【第11回】教科書の発表と討論10<br>【第12回】教科書の発表と討論11<br>【第13回】教科書の発表と討論12<br>【第14回】教科書の発表と討論13<br>【第15回】まとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 修士：平常点（50%），発表（50%）により成績を評価する。<br>修士：平常点（40%），発表（40%），研究報告（20%）により成績を評価する。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 課題や報告に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | 『クルーグマン国際経済学 理論と政策〔原書第10版〕下：金融編』Paul R. Krugman（著），Maurice Obstfeld（著），Marc J. Melitz（著），山形 浩生（翻訳），守岡 桜（翻訳）（丸善出版）2017/ 1 /19 | | | | | | |
| 指定図書 | 『コア・テキスト国際金融論』藤井 英次（著）（新世社）2014/ 1 / 6、『International Macroeconomics and Finance: Theory and Econometric Methods』Nelson C. Mark（著）（John Wiley & Sons）2001/ 8 / 8 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | マクロ経済学を履修していることが望ましい。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は，研究科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0105901 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **国際金融論特研３** | | | | | 畠山　久志 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 現代の国際金融論は、これまでの単純な国家間の貿易や為替相場の数値的分析に終点を持たない。むしろ主権国家や統合組織などの政治的影響力や経済力規模の表現の場となっている国際金融を多角的に分析し、位置付けすることが課題となっている。そこで、授業はこれまでの基礎的な事項の確認と現代の国際金融が動いている背景を歴史的に捉えようとするものである。<br>なお、本授業は博士後期課程の「国際金融論特研３」との合同授業である。 | | | | | | |
| 到達目標 | 国際金融論の理解に不可欠な金融に係る基礎事項を歴史から習得し①外国為替仕組み、②中央政府の為替介入、③デリバティブ、④国際収支、⑤国際業務規制、⑥国際通貨制度、⑦ユーロ、⑧経済協力などを把握し、今後の研究及び論文作成に向けた知見を獲得することができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 基礎事項の予習復習をおこなうこと。必要な教科書以外の図書はその都度指定･配布するので、時間を十分に取ってほしい。必要な時間は60時間とする。国内のみならず、海外の国際金融情勢をウォッチしてほしい。 | | | | | | |
| 授業計画 | 国際金融の理解に必要な事項について学びます。<br>【第１回】国際金融とは何か。<br>【第２回】国際収支１<br>【第３回】国際収支２<br>【第４回】対外決済の仕組み１<br>【第５回】対外決済の仕組み２<br>【第６回】外国為替市場１<br>【第７回】外国為替市場２<br>【第８回】外国為替相場の決定理論１<br>【第９回】外国為替相場の決定理論２<br>【第10回】国際通貨制度<br>【第11回】変動相場制における経済政策の効果<br>【第12回】固定相場における経済政策の効果<br>【第13回】外国為替相場の輸出入価格へのパススルー<br>【第14回】通貨危機、ソブリンリスク<br>【第15回】形状数詞の調整と新しいオープンマクロ経済学 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 講義内容に関する期末レポート（80%）、質問や意見など授業に対する参加態度（20%）で評価します。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 講義内容は、事前にオンライン授業に資料掲示します。また質問や意見、追加説明などは、まとめて期末にペーパー化し、共有します。 | | | | | | |
| 教科書 | 『国際金融論入門』佐々木百合（新世社）2017 | | | | | | |
| 指定図書 | 『金融の世界現代史』国際銀行史研究会（一色出版）2018、『金融の世界史』板谷俊彦（新潮社）2013、『ウォール街の歴史』チャールズ・ガイスト（フォレスト出版）2010、『ロンバート街』バジョウット（岩波書店）1994 | | | | | | |
| 参考書 | 『通貨の悪戯』ミルトンフリードマン（三田出版会）1993、『貨幣と通貨の法文化』林康史（国際書院）2016 | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、授業終了後教室内にて対応します。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 項目ごとの解説・プレゼンテーションに基づき、内容、考え方、分析方法等についてディスカッションをする。 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0106001 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **国際金融論特研４** | | | | | 畠山　久志 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 現代の国際金融論は、これまでの単純な国家間の貿易や為替相場の数値的分析に終点を持たない。むしろ主権国家や統合組織などの政治的影響力や経済規模の表現の場となっている国際金融を多角的に分析し、位置付けすることが課題となっている。そこで、本授業は前期の学習（国際金融の基礎知識）を前提にこれまでの国際金融上のイベントについて、論理的な分析力を習得し、歴史的な位置付け等について理解を深める。イベントは基本的に近世、近代の貿易を中心とした国際金融上の事象である。<br>なお、本授業は博士後期課程の「国際金融論特研４」との合同授業である。 | | | | | | |
| 到達目標 | 国際金融論の理解に不可欠な基礎事項である①外国為替仕組み、②中央政府の為替介入、③デリバティブ、④国際収支、⑤国際業務規制、⑥国際通貨制度、⑦ユーロ、⑧経済協力などを市場参加者の視点から把握し、国際金融全体の課題を考え今後の研究及び論文作成に向けた知見を獲得することができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 基礎事項の予習復習をおこなうこと。教科書は当然であるが、以外の図書をその都度指定･配布するので、時間を十分に取ってほしい。必要な時間は60時間とする。国内のみならず、海外の国際金融情勢をウォッチしてほしい。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】国際金融論の論理とイベント<br>【第２回】古代ギリシアの国際金融<br>【第３回】中世の国際金融１（キリスト教　金融の否定）<br>【第４回】中世の国際金融２（地中海交易と保険）<br>【第５回】中世の国際金融３（イスラム金融　金利の否定）<br>【第６回】中世の国際金融４（十字軍　為替と信託）<br>【第７回】中世の国際金融５（会社と複式簿記）<br>【第８回】大航海時代の国際貿易（新大陸への進出）<br>【第９回】黄金期のオランダ１（東インド会社　西インド会社）<br>【第10回】黄金期のオランダ２（アムステルダム証券取引所とアムステルダム為替銀行）<br>【第11回】産業革命期のイギリスとフランス（重商主義　重農主義）<br>【第12回】覇権国イギリス１（株式会社制度の法定　中央銀行制度の確立）<br>【第13回】覇権国イギリス２（損害保険会社）<br>【第14回】覇権国イギリス３（海外投資　ロンバート街）<br>【第15回】債権国アメリカ（ウォールストリート） | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 期末レポート（80%）と質問や意見など授業に対する参加態度（20%）で評価します。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 授業の内容を事前にオンライ授業で掲示します。また質問や意見、追加説明など等はまとめて期末にペーパー化し、共有します。 | | | | | | |
| 教科書 | 『金融の世界史』板谷敏彦（新潮社）2013 | | | | | | |
| 指定図書 | 『マネーセンターの興亡』高橋琢磨（日経出版社）1999、『ヘゲモニー国家と世界システム』松田武･秋田茂（山川出版）2002、『最初の近代経済』J・ド・フリース（名古屋大学出版会）2009 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 講義の内容について、質問、意見交換等、ディスカッションをします。卒業論文（修士論文等）の作成手順等の情報交換をする。 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0106301 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **地域経済特研３** | | | | | 苑　志佳 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本講義では、構造転換中の中国経済を研究する。過去40数年間における中国経済成長はどのように実現されたか、これまでの高度成長は何故成長低下し始まったか、中国経済はこれから、どのように転換していくか。今年度の授業では、最新の著書を輪読することによって上記の諸問題を院生諸君と一緒に考える。授業運営は、院生諸君の報告、問題提起、論点をめぐる討論を中心に行う予定である。出席者には、レベルの高いコメントと価値のあるデイスカションを活発にしてもらいたい。 | | | | | | |
| 到達目標 | 本授業を履修することによって中国経済の諸問題を理解することができる。したがって、中国経済の関連課題を研究するテクニックを身につけることもできる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | １．この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。<br>２．毎週の授業終了後に参考文献や予習資料などを指定するので、これを予習する。<br>３．授業時に配布される教材や資料を復習し、次回の授業時に問題提起を考える。<br>４．授業の予定テーマに関連する資料を自ら収集し、これを持って授業討論に臨む。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】イントロダクション<br>【第２回】最新研究書籍の輪読・討論（１）<br>【第３回】最新研究書籍の輪読・討論（２）<br>【第４回】最新研究書籍の輪読・討論（３）<br>【第５回】最新研究書籍の輪読・討論（４）<br>【第６回】最新研究書籍の輪読・討論（５）<br>【第７回】最新研究書籍の輪読・討論（６）<br>【第８回】最新研究書籍の輪読・討論（７）<br>【第９回】最新研究書籍の輪読・討論（８）<br>【第10回】最新研究書籍の輪読・討論（９）<br>【第11回】最新研究書籍の輪読・討論（10）<br>【第12回】最新研究書籍の輪読・討論（11））<br>【第13回】最新研究書籍の輪読・討論（12）<br>【第14回】最新研究書籍の輪読・討論（13）<br>【第15回】総括 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | １．授業への取り組み姿勢　50％、<br>２．プレゼンテーション30％、<br>３．討論参加20％。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 毎週の輪読課題、テーマに対する講評を翌週授業内冒頭にて行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 輪読図書、書籍は、最初授業の時に指示する。 | | | | | | |
| オフィスアワー | －月曜日３限<br>－品川キャンパス２号館508室<br>－事前に〈0918@ris.ac.jp〉に連絡すること | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 意見共有、能動的な授業外学習など | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0106401 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **地域経済特研４** | | | | | 苑　志佳 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本講義では、構造転換する中国経済を研究する。今年度の授業では、「地域経済特論３」に続き、数冊の著書を輪読する。授業運営は、院生諸君の報告、問題提起、論点をめぐる討論を中心に行う予定である。出席者には、レベルの高いコメントと価値のあるデイスカションを活発にしてもらいたい。 | | | | | | |
| 到達目標 | 本授業を履修することによって中国経済の諸問題を理解することができる。したがって、中国経済の関連課題を研究するテクニックを身につけることもできる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | １．　この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。<br>２．毎週の授業終了後に参考文献や予習資料などを指定するので、これを予習する。<br>３．授業時に配布される教材や資料を復習し、次回の授業時に問題提起を考える。<br>４．授業の予定テーマに関連する資料を自ら収集し、これを持って授業討論に臨む。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】イントロダクション<br>【第２回】最新研究書籍の輪読・討論（１）<br>【第３回】最新研究書籍の輪読・討論（２）<br>【第４回】最新研究書籍の輪読・討論（３）<br>【第５回】最新研究書籍の輪読・討論（４）<br>【第６回】最新研究書籍の輪読・討論（５）<br>【第７回】最新研究書籍の輪読・討論（６）<br>【第８回】最新研究書籍の輪読・討論（７）<br>【第９回】最新研究書籍の輪読・討論（８）<br>【第10回】最新研究書籍の輪読・討論（９）<br>【第11回】最新研究書籍の輪読・討論（10）<br>【第12回】最新研究書籍の輪読・討論（11））<br>【第13回】最新研究書籍の輪読・討論（12）<br>【第14回】最新研究書籍の輪読・討論（13）<br>【第15回】総括 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | １．　授業への取り組み姿勢　50％、<br>２．プレゼンテーション30％、<br>３．討論参加20％。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 毎週の輪読課題、テーマに対する講評を翌週授業内冒頭にて行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 輪読図書、書籍は、最初授業の時に指示する。 | | | | | | |
| オフィスアワー | －月曜日３限<br>－品川キャンパス２号館508室<br>－事前に〈0918@ris.ac.jp〉に連絡すること | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 意見共有、能動的な授業外学習など | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0107101 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **経済学史特研３** | | | | | 小沢　佳史 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | この授業の目的は、経済学が現在の姿をとるに至った過程――経済学の歴史――を詳しく理解すること、そしてそれを通じて現在の経済学や自分の研究テーマに関する理解をさらに深めることである。そのためにこの授業では、主に19世紀の後半からの経済学の歴史をめぐり、履修者による報告と議論に基づいて教科書を輪読する。<br>なおこの授業は、博士前期課程「経済学史特論３」との合同授業である。 |
| 到達目標 | １．現在の経済学が誕生するまでのプロセスを、研究者として詳しく説明できる。<br>２．現在の経済学や自分の研究テーマについて、多様な概念・見解の関係やそれらの背景を研究者として説明できる。 |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、各回の授業の前に、全員が教科書の該当箇所を熟読し、報告者は報告を入念に準備すること。また各回の授業の後に、全員が授業の内容を振り返りながら、ノートや教科書・指定図書の該当箇所を何回もじっくりと読み込むこと。 |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス<br>【第２回】新古典派経済学①――ジェヴォンズ<br>【第３回】新古典派経済学②――ローザンヌ学派<br>【第４回】新古典派経済学③――オーストリア学派<br>【第５回】ケンブリッジ学派①――マーシャル<br>【第６回】ケンブリッジ学派②――マーシャルからケンブリッジ学派の展開へ<br>【第７回】ケンブリッジ学派③――ケインズの洞察力<br>【第８回】ケンブリッジ学派④――ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』<br>【第９回】新古典派経済学の成熟とそれに対する批判①――IS-LM 表<br>【第10回】新古典派経済学の成熟とそれに対する批判②――経済成長論<br>【第11回】新古典派経済学の成熟とそれに対する批判③――不完全競争論<br>【第12回】新古典派経済学の成熟とそれに対する批判④――スラッファ、ポスト・ケインジアン<br>【第13回】現代経済学の展開①――現代マクロ経済学<br>【第14回】現代経済学の展開②――情報と不確実性、ゲーム理論、進化経済学<br>【第15回】現代経済学の展開③――経済人類学、レギュラシオン、分析的マルクス経済学<br><br>※この進度や内容は目安であり、履修者と相談しながら進度や内容を適宜調整する。 |
| 成績評価の方法 | 報告（30%）、議論を含む授業への取り組み姿勢（20%）、およびレポート（50%）によって評価する。 |
| フィードバックの内容 | 報告や議論について、授業内でフィードバックする。 |
| 教科書 | 『経済学史』喜多見洋，水田健 編著（ミネルヴァ書房）2012 |
| 指定図書 | 『学ぶほどおもしろい 経済学史』木村雄一，瀬尾崇，益永淳 著（晃洋書房）2022、『経済学史』小峯敦 著（ミネルヴァ書房）2021、『経済学史への招待』柳沢哲哉 著（社会評論社）2018、『経済思想』猪木武徳 著（岩波書店）2017、『新版 経済思想史――社会認識の諸類型』大田一廣，鈴木信雄，高哲男，八木紀一郎 編（名古屋大学出版会）2006、『経済学の歴史――市場経済を読み解く』中村達也，八木紀一郎，新村聡，井上義朗 著（有斐閣）2001、『経済学史』馬渡尚憲 著（有斐閣）1997、『経済学史』三土修平 著（新世社）1993、『A Brief History of Economic Thought』Alessandro Roncaglia（Cambridge University Press）2017、『History of Economic Thought: A Critical Perspective（3rd edition）』E. K. Hunt, Mark Lautzenheiser（Routledge）2011 |
| 参考書 | 『私は、経済学をどう読んできたか』ロバート．L. ハイルブローナー 著；中村達也［ほか］訳（筑摩書房）2003、『The History of Economic Thought: A Reader（Second Edition）』Steven G Medema, Warren J. Samuels（eds.）（Routledge）2013、『写真で見る ヴィクトリア朝ロンドンの都市と生活』アレックス・ワーナー，トニー・ウィリアムズ 著；松尾恭子 訳（原書房）2013、『有斐閣経済辞典 第５版』金森久雄，荒憲治郎，森口親司 編（有斐閣）2013 |
| 教員からのお知らせ | 履修者による報告と議論に基づいて授業が進められるため、無断で欠席したり遅刻したりすることは基本的に認められない。 |
| オフィスアワー | この授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付ける。また授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内でも対応する。 |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション。 |
| その他 | |

| 講義コード | 13C0107201 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **経済学史特研４** | | | | | 小沢　佳史 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | この授業の目的は、経済学が現在の姿をとるに至った過程――経済学の歴史――を詳しく理解すること、そしてそれを通じて現在の経済学や自分の研究テーマに関する理解をさらに深めることである。そのためにこの授業では、主に19世紀の後半からの経済学の歴史をめぐり、履修者による報告と議論に基づいて古典を輪読する。<br>なおこの授業は、博士前期課程「経済学史特論４」との合同授業である。 |
| 到達目標 | １．現在の経済学が誕生するまでのプロセスを、古典に基づき、研究者として詳しく説明できる。<br>２．現在の経済学や自分の研究テーマについて、多様な概念・見解の関係やそれらの背景を研究者として説明できる。 |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、各回の授業の前に、全員が古典の該当箇所を熟読し、報告者は報告を入念に準備すること。また各回の授業の後に、全員が授業の内容を振り返りながら、ノートや古典・指定図書の該当箇所を何回もじっくりと読み込むこと。 |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス<br>【第２回】19世紀の後半からの経済学の大まかな歴史<br>【第３回】ケインズの思想と経済学<br>【第４回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』①――第１編（前半）<br>【第５回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』②――第１編（後半）<br>【第６回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』③――第２編（前半）<br>【第７回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』④――第２編（後半）<br>【第８回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑤――第３編（前半）<br>【第９回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑥――第３編（後半）<br>【第10回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑦――第４編（前半）<br>【第11回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑧――第４編（後半）<br>【第12回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑨――第５編（前半）<br>【第13回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑩――第５編（後半）<br>【第14回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑪――第６編（前半）<br>【第15回】ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』⑫――第６編（後半）<br><br>※この進度や内容は目安であり、履修者と相談しながら進度や内容を適宜調整・変更する。 |
| 成績評価の方法 | 報告（30%）、議論を含む授業への取り組み姿勢（20%）、およびレポート（50%）によって評価する。 |
| フィードバックの内容 | 報告や議論について、授業内でフィードバックする。 |
| 教科書 | 『雇用、金利、通貨の一般理論』ジョン・メイナード・ケインズ 著；大野一 訳（日経 BP）2021、『雇用、利子、お金の一般理論』ジョン・メイナード・ケインズ 著；山形浩生 訳（講談社）2012、『雇用、利子および貨幣の一般理論 上』ジョン・メイナード・ケインズ 著；間宮陽介 訳（岩波書店）2008、『雇用、利子および貨幣の一般理論 下』ジョン・メイナード・ケインズ 著；間宮陽介 訳（岩波書店）2008、『雇用・利子および貨幣の一般理論 普及版』ジョン・メイナード・ケインズ 著；塩野谷祐一 訳（東洋経済新報社）1995 |
| 指定図書 | 『経済学史』喜多見洋，水田健 編著（ミネルヴァ書房）2012、『新版 経済思想史――社会認識の諸類型』大田一廣，鈴木信雄，高哲男，八木紀一郎 編（名古屋大学出版会）2006、『経済学史』馬渡尚憲 著（有斐閣）1997、『経済学史』三土修平 著（新世社）1993、『A Brief History of Economic Thought』Alessandro Roncaglia（Cambridge University Press）2017、『私は、経済学をどう読んできたか』ロバート．L. ハイルブローナー 著；中村達也［ほか］訳（筑摩書房）2003、『The History of Economic Thought: A Reader（Second Edition）』Steven G Medema, Warren J. Samuels（eds.）（Routledge）2013、『ケインズ――危機の時代の実践家』伊藤宣広 著（岩波書店）2023、『ケインズ 説得論集』ジョン・メイナード・ケインズ 著；山岡洋一 訳（日経 BP 日本経済新聞出版本部）2021、『ケインズ――時代と経済学』吉川洋 著（筑摩書房）1995 |
| 参考書 | 『写真で見る ヴィクトリア朝ロンドンの都市と生活』アレックス・ワーナー，トニー・ウィリアムズ 著；松尾恭子 訳（原書房）2013、『有斐閣経済辞典 第５版』金森久雄，荒憲治郎，森口親司 編（有斐閣）2013 |
| 教員からのお知らせ | 履修者による報告と議論に基づいて授業が進められるため、無断で欠席したり遅刻したりすることは基本的に認められない。<br>またこの授業は、「経済学史特研３」の内容を前提にして進められる。 |
| オフィスアワー | この授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付ける。また授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内でも対応する。 |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション。 |
| その他 | |

| 講義コード | 13C0107501 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 日本経済論特研３ | | | | | 村田　啓子 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 経済学の理論を実体経済に応用するには、理論、データ、制度を踏まえた論考が必要となる。本講義では、ミクロ経済学・マクロ経済学及び計量経済学の基礎知識を持つ学生を対象に、現代日本経済の動向とその背景を理解するとともに、実施された政策や問題点についても学ぶ。それにより実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考えていく能力を養い、併せて自らの研究課題について鳥瞰的な視野からも思考する能力の育成を目指す。<br>なお、本講義は修士課程の「日本経済特論３」との合同授業である。 | | | | | | |
| 到達目標 | 日本経済の現状と課題及びそれらに関する基本データを理解した上で批判的に検討・分析するための能力が身につき、併せて論文執筆のための研究課題の選定及び論考能力が向上する。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 授業で指定されるリーデングリストを事前に読み、理解する。自身の学習・研究目的も踏まえ予習・復習を行う。授業外に合計60時間以上の学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】概論・ガイダンス<br>【第２回】国民経済計算からみた日本経済<br>【第３回】文献等の輪読、質問及び討論（１）<br>【第４回】文献等の輪読、質問及び討論（２）<br>【第５回】文献等の輪読、質問及び討論（３）<br>【第６回】文献等の輪読、質問及び討論（４）<br>【第７回】文献等の輪読、質問及び討論（５）<br>【第８回】文献等の輪読、質問及び討論（６）<br>【第９回】文献等の輪読、質問及び討論（７）<br>【第10回】文献等の輪読、質問及び討論（８）<br>【第11回】文献等の輪読、質問及び討論（９）<br>【第12回】文献等の輪読、質問及び討論（10）<br>【第13回】文献等の輪読、質問及び討論（11）<br>【第14回】文献等の輪読、質問及び討論（12）<br>【第15回】文献等の輪読、質問及び討論（13） | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み姿勢（40％）及び期末レポート（60％）により総合的に判定します。第１回講義で説明します。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 学生が選定したテーマやそれに関するリーデングリスト等を配布するほか、発表・質問・討論内容についてコメントを行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける（事前にメールで連絡すること）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 講義内容に関するディスカッションを行います。 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0107601 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 日本経済論特研４ | | | | | 村田　啓子 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 経済学の理論を実体経済に応用するには、理論、データ、制度を踏まえた論考が必要となる。本講義では、ミクロ経済学・マクロ経済学及び計量経済学の基礎知識を持つ学生を対象に、現代日本経済の動向とその背景を理解するとともに、実施された政策や問題点についても学ぶ。それにより実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考えていく能力を養い、併せて自らの研究課題について鳥瞰的な視野からも思考する能力の育成を目指す。<br>なお、本講義は修士課程の「日本経済特論４」との合同授業である。 | | | | | | |
| 到達目標 | 日本経済の現状と課題及びそれらに関する基本データを理解した上で批判的に検討・分析するための能力が身につき、併せて論文執筆のための研究課題の選定及び論考能力が向上する。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 各自がテーマを選定し、自身の学習･研究を進め発表の準備を行う。発表後は得た質問なども踏まえ自らの理解を適宜修正･発展させる。授業外に合計60時間以上の学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】概論・ガイダンス<br>【第２回】文献等の輪読、質問及び討論（１）<br>【第３回】文献等の輪読、質問及び討論（２）<br>【第４回】文献等の輪読、質問及び討論（３）<br>【第５回】文献等の輪読、質問及び討論（４）<br>【第６回】文献等の輪読、質問及び討論（５）<br>【第７回】文献等の輪読、質問及び討論（６）<br>【第８回】文献等の輪読、質問及び討論（７）<br>【第９回】文献等の輪読、質問及び討論（８）<br>【第10回】文献等の輪読、質問及び討論（９）<br>【第11回】文献等の輪読、質問及び討論（10）<br>【第12回】文献等の輪読、質問及び討論（11）<br>【第13回】文献等の輪読、質問及び討論（12）<br>【第14回】文献等の輪読、質問及び討論（13）<br>【第15回】文献等の輪読、質問及び討論（14） | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み姿勢（40％）及び期末レポート（60％）により総合的に判定します。第１回講義で説明します。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 学生が選定したテーマやそれに関するリーデングリスト等を配布し、発表・質問・討論内容についてコメントを行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける（事前にメールで連絡すること）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 講義内容に関するディスカッションを行います。 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0107901 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **労働経済学特研３** | | | | | 戎野　淑子 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | 受講生の研究テーマに基づき、内容を検討したい。具体的な授業については、毎回輪読を実施し、実態調査なども資料にしながら、議論を行う。<br>なお、本講義は、大学院博士後期課程「労働経済学特研１」との合同である。 |
| 到達目標 | 「労働経済学特論１」<br>各自の研究テーマに関連する労働事情や労働問題等について理解できる。<br>「労働経済学特研１」<br>各自の研究テーマに関連する労働事情や労働問題等について理解できる。 |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 「労働経済学特論３」<br>輪読の準備、自分の研究課題についての発表準備<br>(60時間を必要とする)<br>「労働経済特研３」<br>輪読の準備、自分の研究課題についての発表準備<br>(60時間を必要とする) |
| 授業計画 | 【第１回】ガイダンス：ゼミの進め方を説明し、テーマ等について相談し決める。<br>【第２回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(１)<br>【第３回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(２)<br>【第４回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(３)<br>【第５回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(４)<br>【第６回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(５)<br>【第７回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(６)<br>【第８回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(７)<br>【第９回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(８)<br>【第10回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(９)<br>【第11回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(10)<br>【第12回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(11)<br>【第13回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(12)<br>【第14回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(13)<br>【第15回】順次テキストを輪読し発表を行う。概ね１講義で1/2chapter 進み、１年間で一冊勉強する予定。(14) |
| 成績評価の方法 | レポート50%、授業での発表・討論50% |
| フィードバックの内容 | フィードバックは次回授業までに行う |
| 教科書 | 『Emloyment Relations』Ed Rose（Printice Hall）2008、『雇用システム論』佐口和郎（有斐閣）2018 |
| 指定図書 | 『労働経済白書』厚生労働省（日経印刷株式会社）2023年 |
| 参考書 | |
| 教員からのお知らせ | |
| オフィスアワー | 水曜日お昼休み |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 毎回、課題を行い、次週にフィードバックを行う。 |
| その他 | |

| 講義コード | 13C0108001 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **労働経済学特研４** | | | | | 戎野　淑子 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | 受講生と相談し、興味関心あるテーマを選びたい。ただ、まず、広く雇用問題に焦点をあて、文献研究を行い、特に、日本の雇用関係の変容について、歴史的な比較分析とともに国際比較を行う。そして、その中で、具体的テーマを絞っていく予定である。授業の進め方は、毎回輪読を実施し、実態調査なども資料にしながら、議論を行う。<br>※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施します。 |
| 到達目標 | 「労働経済学特研４」<br>自分の研究テーマに関連のある労働事情や労働問題について理解を深めることができる。<br>「労働経済学特論４」<br>自分の研究テーマに関連のある労働事情や労働問題について理解を深めることができる。 |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 「労働経済学特研２」<br>輪読の準備、自分の論文の研究の準備<br>(60時間を必要とする)<br>「労働経済学特論２」<br>輪読の準備、自分の論文の研究の準備<br>(60時間を必要とする) |
| 授業計画 | 【第１回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(１)<br>【第２回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(２)<br>【第３回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(３)<br>【第４回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(４)<br>【第５回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(５)<br>【第６回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(６)<br>【第７回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(７)<br>【第８回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(８)<br>【第９回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(９)<br>【第10回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(10)<br>【第11回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(11)<br>【第12回】順次輪読を行い発表する。労働経済、人的資源管理について学ぶ。適宜、労働経済白書を活用しながら、労働状況やそこにおける諸問題についても確認する。(12)<br>【第13回】各自の論文についての発表（１）<br>【第14回】各自の論文についての発表（２）<br>【第15回】各自の論文についての発表（３） |
| 成績評価の方法 | レポート70%、授業での発表・討論30% |
| フィードバックの内容 | フィードバックは次回授業までに行う |
| 教科書 | 『人的資本管理の力』白木三秀編著（文眞堂）2024年、『Employment Relations』Ed Rose（Printice Hall）2008 |
| 指定図書 | |
| 参考書 | 『労働経済白書』厚生労働省（日経印刷）2023年 |
| 教員からのお知らせ | |
| オフィスアワー | 水曜日お昼休み |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 毎回、課題を行い、次週にそのフィードバックを行う |
| その他 | |

| 講義コード | 13C0108301 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **日本経済史特研３** | | | | | 髙橋　美由紀 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 19世紀後半から20世紀前半までの日本経済の歴史を学ぶ。教科書の輪読を中心に、実際に授業内で読みながら討論をおこなう。履修者の希望に添った内容に変更することもある。<br>※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 19世紀後半から20世紀前半までの日本経済の歴史について多様な観点から客観的に論述できること。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 教科書の指定箇所を講義前に予習しておくこと。また、講義で提示された内容について復習しておくこと。<br>（計65時間） | | | | | | |
| 授業計画 | 教科書　第Ⅱ部・第Ⅲ部（19世紀後半から20世紀前半の日本経済）<br>【第１回】環境と経済活動<br>【第２回】商法の制定と金本位制<br>【第３回】国際収支の天井と経済政策<br>【第４回】産業革命と工業化<br>【第５回】地主制の展開と植民地農業<br>【第６回】交通網の変容と商品流通<br>【第７回】都市化と生活環境<br>【第８回】ジェンダー・労働市場研究の新展開<br>【第９回】モダニズムと大衆消費社会<br>【第10回】ブロック経済から金ドル本位制へ<br>【第11回】高橋財政から戦後経済政策へ<br>【第12回】財界論<br>【第13回】「内需」主導の重化学工業化<br>【第14回】地主制の後退と戦後農政<br>【第15回】大規模小売商と流通系列 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 博士課程で研究するものとして必要な基礎知識の習得度合い（40%）、それを基礎に講義に参加し自分の主張が述べられているか（60%）。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 講義内で質疑応答をおこなう。レポート等を課した場合は、翌週にコメントを付して返却する。 | | | | | | |
| 教科書 | 『日本経済の歴史　列島経済史入門』中西　聡（名古屋大学出版会）2013 | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 講義内容は、履修者の希望等により変更する場合がある。Microsoft Teams で Team を作るので、ポータルサイトで案内する Team コードを確認して、授業開始までにメンバー登録をすること。<br>教科書を初めて購入する場合は、極力2018年発行の第３刷を購入すること。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 月曜２限。事前に必ず連絡すること。<br>メールやチャットにても受付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 毎回の授業の中で、自己の意見を述べてもらっている。 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0108401 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **日本経済史特研４** | | | | | 髙橋　美由紀 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 20世紀を中心とした日本経済の歴史を学ぶ。また、履修者の希望に添った内容に変更することもある。<br>※この授業は、修士・博士後期両課程合同で実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 20世紀を中心とした日本経済の歴史について具体的に論述でき、自己の意見として論理的にプレゼンテーションも出来ること。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 参考資料を講義前に予習しておくこと。また、講義で提示された内容について復習しておくこと。<br>（計65時間） | | | | | | |
| 授業計画 | 教科書『日本経済の歴史』第Ⅲ部を中心に扱う（20世紀の日本経済）<br>【第１回】大衆消費社会の実像<br>【第２回】国際通貨システムの動揺と円高の進展　①<br>【第３回】国際通貨システムの動揺と円高の進展　②<br>【第４回】財政再建と金融。・証券の自由化<br>【第５回】「外需」主導の産業構造　①<br>【第６回】「外需」主導の産業構造　②<br>【第７回】トヨタ生産方式の展開<br>【第８回】国際化のなかの日本農業<br>【第９回】流通再編と消費の多様化<br>【第10回】日本経済の新しい課題<br>【第11回】日本における社会福祉研究の新展開<br>【第12回】科学技術と経済活動　①<br>【第13回】科学技術と経済活動　②<br>【第14回】明日への模索<br>【第15回】日本経済の歴史を学ぶ<br><br>各授業では関係する著作等について一緒に輪読をおこなう。 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 講義における大学院で習得した知識を踏まえた報告（60%）、授業態度（40%）。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 毎回の講義で質疑応答をおこなう。また、提出物を課した場合には翌週に添削をして返却する。 | | | | | | |
| 教科書 | 『日本経済の歴史　列島経済史入門』中西　聡（名古屋大学出版会）2013 | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 講義内容は、履修者の希望等により変更する場合がある。Microsoft Teams で Team を作るので、ポータルサイトで案内する Team コードを確認して、授業開始までにメンバー登録をすること。<br>教科書を新たに購入する場合は、2018年発行の第３刷を購入すること。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 月曜２限。事前に必ず連絡すること。<br>メールおよびチャット等でも随時受け付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 毎回の授業の中では、各自の意見を述べてもらう。 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0109501 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **計量経済学特研３** | | | | | 宮川　幸三 | 第１期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本講義では、産業構造分析の手法の１つとして産業連関分析を取り上げ、その背景にある理論や応用分析の手法について理解を深めることを目的としている。また講義だけでなく、統計解析ソフトを用いた演習を行うことによって、高度な実証分析能力を養うことを目指している。<br>なお、本講義は修士課程「計量経済学特論３」との合同授業である。 | | | | | | |
| 到達目標 | 産業連関分析の手法を習得し、自らの研究に応用することができる。<br>産業連関表および産業関連統計に関する体系的知識を身につけ、自らの研究に応用することができる。<br>統計解析用ソフトウェアの使用方法を習得し、自らの研究に応用することができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 授業の内容を理解するために予習・復習すること。<br>授業内容に関係する論文を読むこと。<br>この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】本講義の目的と概要<br>【第２回】産業構造とは何か－レオンティエフの分析視点<br>【第３回】産業連関表の見方<br>【第４回】均衡産出高モデル１<br>【第５回】均衡産出高モデル２<br>【第６回】輸入内生化モデル１<br>【第７回】輸入内生化モデル２<br>【第８回】スカイライン分析１<br>【第９回】スカイライン分析２<br>【第10回】経済センサスと産業連関表<br>【第11回】供給・使用表（SUT）とシンメトリック産業連関表の体系<br>【第12回】RAS 法<br>【第13回】産業連関表と GDP 統計<br>【第14回】分類体系と産業連関表<br>【第15回】まとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み姿勢（30%）、授業中に課された課題（30%）、各自の研究テーマに関するレポート（40%）によって評価する。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 課題に対する講評を授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | 『日中連関構造の経済分析』日中連関構造の経済分析（勁草書房）2016 | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 経済学研究科修士課程レベルで習得すべき統計学、経済学およびパソコンの操作に関する知識を前提として授業を行う。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、講義案内で示したオフィスアワーにおいて受付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、演習 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0109601 | 授業形態 | 講義 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **計量経済学特研４** | | | | | 宮川　幸三 | 第２期 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本講義では、産業構造分析の手法の１つとして産業連関分析を取り上げ、その背景にある理論や応用分析の手法について理解を深めることを目的としている。計量経済学特研３で学んだ内容を前提としながら、産業構造分析の応用事例を紹介すると同時に、学生自らの研究テーマに従って分析および発表を行う。<br>なお、本講義は修士課程「計量経済学特論４」との合同授業である。 | | | | | | |
| 到達目標 | 様々な応用分析の手法を習得し、自らの研究に応用することができる。<br>自ら設定した分析目的に従って、適切な手法を用いて分析を行うことができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 授業の内容を理解するために予習・復習すること。<br>授業内容に関係する論文を読むこと。<br>この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第１回】国際貿易の効果－日中国際産業連関表による波及効果分析１<br>【第２回】国際貿易の効果－日中国際産業連関表による波及効果分析２<br>【第３回】地域格差と国際貿易－日中国際地域間産業連関表による分析１<br>【第４回】地域格差と国際貿易－日中国際地域間産業連関表による分析２<br>【第５回】貿易と産業構造変化－規模別日中国際産業連関表による分析１<br>【第６回】貿易と産業構造変化－規模別日中国際産業連関表による分析２<br>【第７回】PPP と競争力評価－日米国際産業連関表による価格分析１<br>【第８回】PPP と競争力評価－日米国際産業連関表による価格分析２<br>【第９回】PPP と競争力評価－日米国際産業連関表による価格分析３<br>【第10回】経済発展の構造分析－接続産業連関表による要因分析１<br>【第11回】経済発展の構造分析－接続産業連関表による要因分析２<br>【第12回】マイクロデータを用いた産業構造分析１<br>【第13回】マイクロデータを用いた産業構造分析２<br>【第14回】マイクロデータを用いた産業構造分析３<br>【第15回】まとめ | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み姿勢（30%）、授業中に課された課題（30%）、各自の研究テーマに関するレポート（40%）によって評価する。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 課題に対する講評を授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | 『日中連関構造の経済分析』日中連関構造の経済分析（勁草書房）2016 | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 経済学研究科修士課程レベルで習得すべき統計学、経済学およびパソコンの操作に関する知識と計量経済学特研３の内容を前提として授業を行う。 | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、講義案内で示したオフィスアワーにおいて受付ける。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、演習 | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0109704 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **研究演習Ⅰ(戎野)** | | | | | 戎野　淑子 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。<br>2．独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成1<br>【第3回】論文作成2<br>【第4回】論文作成3<br>【第5回】論文作成4<br>【第6回】論文作成5<br>【第7回】論文作成6<br>【第8回】論文作成7<br>【第9回】論文作成8<br>【第10回】論文作成9<br>【第11回】論文作成10<br>【第12回】論文作成11<br>【第13回】論文作成12<br>【第14回】論文作成13<br>【第15回】論文作成14 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明<br>【第17回】論文作成1<br>【第18回】論文作成2<br>【第19回】論文作成3<br>【第20回】論文作成4<br>【第21回】論文作成5<br>【第22回】論文作成6<br>【第23回】論文作成7<br>【第24回】論文作成8<br>【第25回】論文作成9<br>【第26回】論文作成10<br>【第27回】論文作成11<br>【第28回】論文作成12<br>【第29回】論文作成13<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0109705 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **研究演習Ⅰ(苑)** | | | | | 苑　志佳 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。<br>2．独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成1<br>【第3回】論文作成2<br>【第4回】論文作成3<br>【第5回】論文作成4<br>【第6回】論文作成5<br>【第7回】論文作成6<br>【第8回】論文作成7<br>【第9回】論文作成8<br>【第10回】論文作成9<br>【第11回】論文作成10<br>【第12回】論文作成11<br>【第13回】論文作成12<br>【第14回】論文作成13<br>【第15回】論文作成14 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明<br>【第17回】論文作成1<br>【第18回】論文作成2<br>【第19回】論文作成3<br>【第20回】論文作成4<br>【第21回】論文作成5<br>【第22回】論文作成6<br>【第23回】論文作成7<br>【第24回】論文作成8<br>【第25回】論文作成9<br>【第26回】論文作成10<br>【第27回】論文作成11<br>【第28回】論文作成12<br>【第29回】論文作成13<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0109706 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **研究演習Ⅰ(王在喆)** | | | | | 王　在喆 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。<br>2．独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成1<br>【第3回】論文作成2<br>【第4回】論文作成3<br>【第5回】論文作成4<br>【第6回】論文作成5<br>【第7回】論文作成6<br>【第8回】論文作成7<br>【第9回】論文作成8<br>【第10回】論文作成9<br>【第11回】論文作成10<br>【第12回】論文作成11<br>【第13回】論文作成12<br>【第14回】論文作成13<br>【第15回】論文作成14 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明<br>【第17回】論文作成1<br>【第18回】論文作成2<br>【第19回】論文作成3<br>【第20回】論文作成4<br>【第21回】論文作成5<br>【第22回】論文作成6<br>【第23回】論文作成7<br>【第24回】論文作成8<br>【第25回】論文作成9<br>【第26回】論文作成10<br>【第27回】論文作成11<br>【第28回】論文作成12<br>【第29回】論文作成13<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0109707 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **研究演習Ⅰ(小野﨑)** | | | | | 小野﨑　保 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。<br>2．独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成1<br>【第3回】論文作成2<br>【第4回】論文作成3<br>【第5回】論文作成4<br>【第6回】論文作成5<br>【第7回】論文作成6<br>【第8回】論文作成7<br>【第9回】論文作成8<br>【第10回】論文作成9<br>【第11回】論文作成10<br>【第12回】論文作成11<br>【第13回】論文作成12<br>【第14回】論文作成13<br>【第15回】論文作成14 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明<br>【第17回】論文作成1<br>【第18回】論文作成2<br>【第19回】論文作成3<br>【第20回】論文作成4<br>【第21回】論文作成5<br>【第22回】論文作成6<br>【第23回】論文作成7<br>【第24回】論文作成8<br>【第25回】論文作成9<br>【第26回】論文作成10<br>【第27回】論文作成11<br>【第28回】論文作成12<br>【第29回】論文作成13<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0109709 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **研究演習Ⅰ(河原)** | | | | | 河原　伸哉 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。<br>2．独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成1<br>【第3回】論文作成2<br>【第4回】論文作成3<br>【第5回】論文作成4<br>【第6回】論文作成5<br>【第7回】論文作成6<br>【第8回】論文作成7<br>【第9回】論文作成8<br>【第10回】論文作成9<br>【第11回】論文作成10<br>【第12回】論文作成11<br>【第13回】論文作成12<br>【第14回】論文作成13<br>【第15回】論文作成14 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明<br>【第17回】論文作成1<br>【第18回】論文作成2<br>【第19回】論文作成3<br>【第20回】論文作成4<br>【第21回】論文作成5<br>【第22回】論文作成6<br>【第23回】論文作成7<br>【第24回】論文作成8<br>【第25回】論文作成9<br>【第26回】論文作成10<br>【第27回】論文作成11<br>【第28回】論文作成12<br>【第29回】論文作成13<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0109710 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **研究演習Ⅰ(北原)** | | | | | 北原　克宣 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。<br>2．独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成1<br>【第3回】論文作成2<br>【第4回】論文作成3<br>【第5回】論文作成4<br>【第6回】論文作成5<br>【第7回】論文作成6<br>【第8回】論文作成7<br>【第9回】論文作成8<br>【第10回】論文作成9<br>【第11回】論文作成10<br>【第12回】論文作成11<br>【第13回】論文作成12<br>【第14回】論文作成13<br>【第15回】論文作成14 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明<br>【第17回】論文作成1<br>【第18回】論文作成2<br>【第19回】論文作成3<br>【第20回】論文作成4<br>【第21回】論文作成5<br>【第22回】論文作成6<br>【第23回】論文作成7<br>【第24回】論文作成8<br>【第25回】論文作成9<br>【第26回】論文作成10<br>【第27回】論文作成11<br>【第28回】論文作成12<br>【第29回】論文作成13<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0109712 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **研究演習Ⅰ(高橋)** | | | | | 髙橋　美由紀 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。<br>2．独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成1<br>【第3回】論文作成2<br>【第4回】論文作成3<br>【第5回】論文作成4<br>【第6回】論文作成5<br>【第7回】論文作成6<br>【第8回】論文作成7<br>【第9回】論文作成8<br>【第10回】論文作成9<br>【第11回】論文作成10<br>【第12回】論文作成11<br>【第13回】論文作成12<br>【第14回】論文作成13<br>【第15回】論文作成14 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明<br>【第17回】論文作成1<br>【第18回】論文作成2<br>【第19回】論文作成3<br>【第20回】論文作成4<br>【第21回】論文作成5<br>【第22回】論文作成6<br>【第23回】論文作成7<br>【第24回】論文作成8<br>【第25回】論文作成9<br>【第26回】論文作成10<br>【第27回】論文作成11<br>【第28回】論文作成12<br>【第29回】論文作成13<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0109715 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **研究演習Ⅰ(林)** | | | | | 林　康史 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。<br>2．独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成1<br>【第3回】論文作成2<br>【第4回】論文作成3<br>【第5回】論文作成4<br>【第6回】論文作成5<br>【第7回】論文作成6<br>【第8回】論文作成7<br>【第9回】論文作成8<br>【第10回】論文作成9<br>【第11回】論文作成10<br>【第12回】論文作成11<br>【第13回】論文作成12<br>【第14回】論文作成13<br>【第15回】論文作成14 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明<br>【第17回】論文作成1<br>【第18回】論文作成2<br>【第19回】論文作成3<br>【第20回】論文作成4<br>【第21回】論文作成5<br>【第22回】論文作成6<br>【第23回】論文作成7<br>【第24回】論文作成8<br>【第25回】論文作成9<br>【第26回】論文作成10<br>【第27回】論文作成11<br>【第28回】論文作成12<br>【第29回】論文作成13<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0109717 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **研究演習Ⅰ(宮川)** | | | | | 宮川　幸三 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。<br>2．独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成1<br>【第3回】論文作成2<br>【第4回】論文作成3<br>【第5回】論文作成4<br>【第6回】論文作成5<br>【第7回】論文作成6<br>【第8回】論文作成7<br>【第9回】論文作成8<br>【第10回】論文作成9<br>【第11回】論文作成10<br>【第12回】論文作成11<br>【第13回】論文作成12<br>【第14回】論文作成13<br>【第15回】論文作成14 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明<br>【第17回】論文作成1<br>【第18回】論文作成2<br>【第19回】論文作成3<br>【第20回】論文作成4<br>【第21回】論文作成5<br>【第22回】論文作成6<br>【第23回】論文作成7<br>【第24回】論文作成8<br>【第25回】論文作成9<br>【第26回】論文作成10<br>【第27回】論文作成11<br>【第28回】論文作成12<br>【第29回】論文作成13<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0109718 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **研究演習Ⅰ(村田)** | | | | | 村田　啓子 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。<br>2．独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成1<br>【第3回】論文作成2<br>【第4回】論文作成3<br>【第5回】論文作成4<br>【第6回】論文作成5<br>【第7回】論文作成6<br>【第8回】論文作成7<br>【第9回】論文作成8<br>【第10回】論文作成9<br>【第11回】論文作成10<br>【第12回】論文作成11<br>【第13回】論文作成12<br>【第14回】論文作成13<br>【第15回】論文作成14 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明<br>【第17回】論文作成1<br>【第18回】論文作成2<br>【第19回】論文作成3<br>【第20回】論文作成4<br>【第21回】論文作成5<br>【第22回】論文作成6<br>【第23回】論文作成7<br>【第24回】論文作成8<br>【第25回】論文作成9<br>【第26回】論文作成10<br>【第27回】論文作成11<br>【第28回】論文作成12<br>【第29回】論文作成13<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0109801 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **研究演習Ⅱ(苑)** | | | | | 苑　志佳 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。<br>2．独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成1<br>【第3回】論文作成2<br>【第4回】論文作成3<br>【第5回】論文作成4<br>【第6回】論文作成5<br>【第7回】論文作成6<br>【第8回】論文作成7<br>【第9回】論文作成8<br>【第10回】論文作成9<br>【第11回】論文作成10<br>【第12回】論文作成11<br>【第13回】論文作成12<br>【第14回】論文作成13<br>【第15回】論文作成14 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明<br>【第17回】論文作成1<br>【第18回】論文作成2<br>【第19回】論文作成3<br>【第20回】論文作成4<br>【第21回】論文作成5<br>【第22回】論文作成6<br>【第23回】論文作成7<br>【第24回】論文作成8<br>【第25回】論文作成9<br>【第26回】論文作成10<br>【第27回】論文作成11<br>【第28回】論文作成12<br>【第29回】論文作成13<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0109803 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **研究演習Ⅱ(戎野)** | | | | | 戎野　淑子 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。<br>2．独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成1<br>【第3回】論文作成2<br>【第4回】論文作成3<br>【第5回】論文作成4<br>【第6回】論文作成5<br>【第7回】論文作成6<br>【第8回】論文作成7<br>【第9回】論文作成8<br>【第10回】論文作成9<br>【第11回】論文作成10<br>【第12回】論文作成11<br>【第13回】論文作成12<br>【第14回】論文作成13<br>【第15回】論文作成14 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明<br>【第17回】論文作成1<br>【第18回】論文作成2<br>【第19回】論文作成3<br>【第20回】論文作成4<br>【第21回】論文作成5<br>【第22回】論文作成6<br>【第23回】論文作成7<br>【第24回】論文作成8<br>【第25回】論文作成9<br>【第26回】論文作成10<br>【第27回】論文作成11<br>【第28回】論文作成12<br>【第29回】論文作成13<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0109804 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **研究演習Ⅱ(林)** | | | | | 林　康史 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。<br>2．独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成1<br>【第3回】論文作成2<br>【第4回】論文作成3<br>【第5回】論文作成4<br>【第6回】論文作成5<br>【第7回】論文作成6<br>【第8回】論文作成7<br>【第9回】論文作成8<br>【第10回】論文作成9<br>【第11回】論文作成10<br>【第12回】論文作成11<br>【第13回】論文作成12<br>【第14回】論文作成13<br>【第15回】論文作成14 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明<br>【第17回】論文作成1<br>【第18回】論文作成2<br>【第19回】論文作成3<br>【第20回】論文作成4<br>【第21回】論文作成5<br>【第22回】論文作成6<br>【第23回】論文作成7<br>【第24回】論文作成8<br>【第25回】論文作成9<br>【第26回】論文作成10<br>【第27回】論文作成11<br>【第28回】論文作成12<br>【第29回】論文作成13<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0205802 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **研究演習Ⅲ(小野﨑)** | | | | | 小野﨑　保 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。<br>2．独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成1<br>【第3回】論文作成2<br>【第4回】論文作成3<br>【第5回】論文作成4<br>【第6回】論文作成5<br>【第7回】論文作成6<br>【第8回】論文作成7<br>【第9回】論文作成8<br>【第10回】論文作成9<br>【第11回】論文作成10<br>【第12回】論文作成11<br>【第13回】論文作成12<br>【第14回】論文作成13<br>【第15回】論文作成14 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明<br>【第17回】論文作成1<br>【第18回】論文作成2<br>【第19回】論文作成3<br>【第20回】論文作成4<br>【第21回】論文作成5<br>【第22回】論文作成6<br>【第23回】論文作成7<br>【第24回】論文作成8<br>【第25回】論文作成9<br>【第26回】論文作成10<br>【第27回】論文作成11<br>【第28回】論文作成12<br>【第29回】論文作成13<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0205902 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **研究演習Ⅲ(苑)** | | | | | 苑　志佳 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。<br>2．独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成1<br>【第3回】論文作成2<br>【第4回】論文作成3<br>【第5回】論文作成4<br>【第6回】論文作成5<br>【第7回】論文作成6<br>【第8回】論文作成7<br>【第9回】論文作成8<br>【第10回】論文作成9<br>【第11回】論文作成10<br>【第12回】論文作成11<br>【第13回】論文作成12<br>【第14回】論文作成13<br>【第15回】論文作成14 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明<br>【第17回】論文作成1<br>【第18回】論文作成2<br>【第19回】論文作成3<br>【第20回】論文作成4<br>【第21回】論文作成5<br>【第22回】論文作成6<br>【第23回】論文作成7<br>【第24回】論文作成8<br>【第25回】論文作成9<br>【第26回】論文作成10<br>【第27回】論文作成11<br>【第28回】論文作成12<br>【第29回】論文作成13<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0206001 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **研究演習Ⅳ(苑)** | | | | | 苑　志佳 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。<br>2．独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成1<br>【第3回】論文作成2<br>【第4回】論文作成3<br>【第5回】論文作成4<br>【第6回】論文作成5<br>【第7回】論文作成6<br>【第8回】論文作成7<br>【第9回】論文作成8<br>【第10回】論文作成9<br>【第11回】論文作成10<br>【第12回】論文作成11<br>【第13回】論文作成12<br>【第14回】論文作成13<br>【第15回】論文作成14 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明<br>【第17回】論文作成1<br>【第18回】論文作成2<br>【第19回】論文作成3<br>【第20回】論文作成4<br>【第21回】論文作成5<br>【第22回】論文作成6<br>【第23回】論文作成7<br>【第24回】論文作成8<br>【第25回】論文作成9<br>【第26回】論文作成10<br>【第27回】論文作成11<br>【第28回】論文作成12<br>【第29回】論文作成13<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0206002 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **研究演習Ⅳ(小野﨑)** | | | | | 小野﨑　保 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。<br>2．独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成1<br>【第3回】論文作成2<br>【第4回】論文作成3<br>【第5回】論文作成4<br>【第6回】論文作成5<br>【第7回】論文作成6<br>【第8回】論文作成7<br>【第9回】論文作成8<br>【第10回】論文作成9<br>【第11回】論文作成10<br>【第12回】論文作成11<br>【第13回】論文作成12<br>【第14回】論文作成13<br>【第15回】論文作成14 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明<br>【第17回】論文作成1<br>【第18回】論文作成2<br>【第19回】論文作成3<br>【第20回】論文作成4<br>【第21回】論文作成5<br>【第22回】論文作成6<br>【第23回】論文作成7<br>【第24回】論文作成8<br>【第25回】論文作成9<br>【第26回】論文作成10<br>【第27回】論文作成11<br>【第28回】論文作成12<br>【第29回】論文作成13<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0206202 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **研究演習Ⅴ(宮川)** | | | | | 宮川　幸三 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。<br>2．独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成1<br>【第3回】論文作成2<br>【第4回】論文作成3<br>【第5回】論文作成4<br>【第6回】論文作成5<br>【第7回】論文作成6<br>【第8回】論文作成7<br>【第9回】論文作成8<br>【第10回】論文作成9<br>【第11回】論文作成10<br>【第12回】論文作成11<br>【第13回】論文作成12<br>【第14回】論文作成13<br>【第15回】論文作成14 | | | | | 【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明<br>【第17回】論文作成1<br>【第18回】論文作成2<br>【第19回】論文作成3<br>【第20回】論文作成4<br>【第21回】論文作成5<br>【第22回】論文作成6<br>【第23回】論文作成7<br>【第24回】論文作成8<br>【第25回】論文作成9<br>【第26回】論文作成10<br>【第27回】論文作成11<br>【第28回】論文作成12<br>【第29回】論文作成13<br>【第30回】総括 | |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

| 講義コード | 13C0206301 | 授業形態 | 演習 | 抽選の有無 | なし | 担当教員 | 開講期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | **研究演習Ⅵ(小野﨑)** | | | | | 小野﨑　保 | 通年 |
| 履修前提条件 | | | | 備考 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | 本演習は、学位論文を作成する博士後期課程の学生を対象とし、履修者の問題意識に沿いつつ、学位論文作成のための研究指導を行うものである。授業の目的は、各自の研究分野において独創的な着眼点に基づく研究課題を設定する能力を高め、その課題の達成に向けてさまざまな分析手法を駆使することのできる高度な研究能力を獲得することにある。具体的な演習内容と授業の実施方式は各開講教員に委ねられている。 |
| 到達目標 | 1．自らの研究分野に関わる諸問題およびそれらを解決するためのさまざまな分析手法に精通している。<br>2．独創的な研究課題を設定し、その課題をさまざまな分析手法を用いて達成し、その成果を学術論文として結実させることができる。 |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 1．研究課題に関する文献を幅広く渉猟し、当該研究分野における重要な問題の発見に努めること。<br>2．授業時に出されたコメントや助言をよく理解し、これらを踏まえつつ問題解決に向けて複数の分析手法の修得に努めること。<br>これらを併せて、合計120時間以上の授業外学修を行うこと。 |
| 授業計画 | 【第1回】第1期授業日程と授業運営方法の説明<br>【第2回】論文作成1<br>【第3回】論文作成2<br>【第4回】論文作成3<br>【第5回】論文作成4<br>【第6回】論文作成5<br>【第7回】論文作成6<br>【第8回】論文作成7<br>【第9回】論文作成8<br>【第10回】論文作成9<br>【第11回】論文作成10<br>【第12回】論文作成11<br>【第13回】論文作成12<br>【第14回】論文作成13<br>【第15回】論文作成14<br>【第16回】第2期授業日程と運営方法の説明<br>【第17回】論文作成1<br>【第18回】論文作成2<br>【第19回】論文作成3<br>【第20回】論文作成4<br>【第21回】論文作成5<br>【第22回】論文作成6<br>【第23回】論文作成7<br>【第24回】論文作成8<br>【第25回】論文作成9<br>【第26回】論文作成10<br>【第27回】論文作成11<br>【第28回】論文作成12<br>【第29回】論文作成13<br>【第30回】総括 |
| 成績評価の方法 | 原則としては、授業への取り組み姿勢（30%）、発表・討論（50%）および最終課題（レポート等）（20%）によって評価するが、各担当教員によって変更の可能性があるので事前に確認しておくこと。 |
| フィードバックの内容 | 報告や論文に対するコメントを授業時に行う。 |
| 教科書 | |
| 指定図書 | |
| 参考書 | |
| 教員からのお知らせ | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部にて定めている各教員のオフィスアワーにて受け付ける。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 |
| アクティブ・ラーニングの内容 | 演習、教員からのフィードバックによる振り返り、ディベート、プレゼンテーション |
| その他 | |